令和5年度大学教育再生戦略推進費 「大学の世界展開力強化事業」 計画調書

~米国等との大学間交流形成支援~

						[基本	情報]	ター	イプA
1	大学名 (〇が代表申請大学)	関西国	際大学						
2	機関番号	代表申 請大学	34526						
3	主たる交流先の相手国	•		米国	国、カナタ	へマレー	シア	1	'
4	分野 (該当する場合のみ選択)	STEAM	M ○GX ●) DX					
5	事業者 (大学の設置者)	ふりがな (氏名)	濱名 篤		(所	属・職名)学校》	去人濱名山手:	学院 理事長
6	申請者 (大学の学長)	ふりがな (氏名)	濱名 篤				,		
7	事業責任者	ふりがな (氏名)	芦沢真五		(所	属・職名))副学:	<u> </u>	
8	事業名	【和文】 次世代DX環境における安全・安心な社会基盤構築とホスピタリティー・ビジネスの展開 【英文】							`ジネスの展開 itality business
		_	ne next-generatio	on DX env	/ironmen	nt			
	取組学部・研究科等名	学問分野 実施対象	● 人社系 ○ 理	工系 〇	農学系(医歯薬	系 〇 看	護・医療系 〇:	全学 〇 その他
9	別 74. 千千一十 (必要に応じ] 書きで課程 区分を記入。複数の部局で 合わせて取組を形成する記入。 大学全体の場合は全学と記 入の上[]書きで全ての部局 名を記入。)	(学部・大学院) ● 学部 () 大学院 () 学部及び大学院 全学部(国際コミュニケーション学部、社会学部、心理学部、教育学部、経営学部、保健							圣営学部、保健
10	. 海外相手大学								
10	国名	大	 学名(日本語)	<u>大</u> :	学名(英語	語)		 部局名	, 1
10	国名		学名(日本語) ゔ・ザ・キャニオンズ(COC)		学名(英語 of the C			部局名	, 1
Z	国名 米国	カレッジ・オブ		College		anyons			i
1 2	国名 米国	カレッジ・オフカレッジ・オカレッジ・オカピオラ	・ザ・キャニオンズ(COC)	College College Unive	of the C	Sanyons Desert Hawaii	Hosp	全学	rim Education
1 2 3	国名 米国 米国	カレッジ・オブカレッジ・オカピオラレ	ブ・ザ・キャニオンズ(COC) ブ・ザ・デザート(COD) ヽワイ大学 ユ・コミュニティカ	College College Unive Kapi'ol	of the C e of the I rsity of H ani Comr	Canyons Desert Hawaii munity	Hosp	全学 全学 itality and Tou	rim Education
1 2 3 4	国名 米国 米国	カレッジ・オフ カレッジ・オ カピオラ レ カリフォ フラトン材	ブ・ザ・キャニオンズ(COC) ブ・ザ・デザート(COD) Nワイ大学 ニ・コミュニティカ ッジ(KCC)	College College Univer Kapi'ol	of the C e of the I rsity of F ani Comr College	Canyons Desert Hawaii munity oty Fullerton	Hosp	全学 全学 itality and Tou Departmo	rim Education
1 2 3 4	国名 米国 米国 カナダ	カレッジ・オフ カレッジ・オ カピオラ レ カリフォ フラトン校	ブ・ザ・キャニオンズ(COC) ブ・ザ・デザート(COD) ハワイ大学 ニ・コミュニティカ ッジ(KCC) ルニア州立大学 交(CSU Fullerton)	College College Univer Kapi'ol California St	of the C e of the I rsity of F ani Comr College tate Universi	Panyons Desert Hawaii munity Ity Fullerton University		全学 全学 itality and Tou Departme 全学	rim Education ent Management and
1 2 3 4	国名 米国 米国 カナダ	カレッジ・オフ カレッジ・オ カピオラ レ カリフォ フラトン校	ブ・ザ・キャニオンズ(COC) ブ・ザ・デザート(COD) ハワイ大学 ・ニ・コミュニティカ ッジ(KCC) ルニア州立大学 交(CSU Fullerton)	College College Univer Kapi'ol California St	of the C e of the I rsity of F ani Comr College tate Universi	Panyons Desert Hawaii munity Ity Fullerton University		全学 itality and Tou Departme 全学 全学	rim Education ent Management and
1 2 3 4 5 6	国名 米国 米国 カナダ	カレッジ・オフ カレッジ・オ カピオラ レ カリフォ フラトン校	ブ・ザ・キャニオンズ(COC) ブ・ザ・デザート(COD) ハワイ大学 ・ニ・コミュニティカ ッジ(KCC) ルニア州立大学 交(CSU Fullerton)	College College Univer Kapi'ol California St	of the C e of the I rsity of F ani Comr College tate Universi	Panyons Desert Hawaii munity Ity Fullerton University		全学 itality and Tou Departme 全学 全学	rim Education ent Management and
1 2 3 4 5 6 7	国名 米国 米国 カナダ	カレッジ・オフ カレッジ・オ カピオラ レ カリフォ フラトン校	ブ・ザ・キャニオンズ(COC) ブ・ザ・デザート(COD) ハワイ大学 ・ニ・コミュニティカ ッジ(KCC) ルニア州立大学 交(CSU Fullerton)	College College Univer Kapi'ol California St	of the C e of the I rsity of F ani Comr College tate Universi	Panyons Desert Hawaii munity Ity Fullerton University		全学 itality and Tou Departme 全学 全学	rim Education ent Management and
1 2 3 4 5 6 7 8	国名 米国 米国 カナダ マレーシア	カレッジ・オフ カレッジ・オ カピオラ レ カリフォ フラトン校	ブ・ザ・キャニオンズ(COC) ブ・ザ・デザート(COD) ハワイ大学 ・ニ・コミュニティカ ッジ(KCC) ルニア州立大学 交(CSU Fullerton)	College College Univer Kapi'ol California St	of the C e of the I rsity of F ani Comr College tate Universi	Panyons Desert Hawaii munity Ity Fullerton University		全学 itality and Tou Departme 全学 全学	rim Education ent Management and
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	国名 米国 米国 カナダ マレーシア	カレッジ・オフ カレッジ・オ カピオラ レ カリフォ フラトン村 バンクーバ ウタラマレ	プ・ザ・キャニオンズ(COC) プ・ザ・デザート(COD) ハワイ大学 アニ・コミュニティカッジ(KCC) ルニア州立大学 交(CSU Fullerton) ーアイランド大学(VIU)	College College Univer Kapi'ol California St Vancouve Universi	of the C e of the I rsity of F ani Comr College tate Universi	Panyons Desert Hawaii munity Ity Fullerton University		全学 itality and Tou Departme 全学 全学	rim Education ent Management and
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	国名 米国 米国 カナダ マレーシア	カレッジ・オフ カレッジ・オ カピオラレ カリフォ ブラトン杉 バンクーバ ウタラマレ	プ・ザ・キャニオンズ(COC) プ・ザ・デザート(COD) ハワイ大学 アニ・コミュニティカッジ(KCC) ルニア州立大学 交(CSU Fullerton) ーアイランド大学(VIU)	College College Univer Kapi'ol California St Vancouve Universi	of the Ce of the I rsity of Hani Comr College tate University of I Utara I	Panyons Desert Hawaii munity Ity Fullerton University	School	全学 itality and Tou Departme 全学 全学	rim Education ent Management and
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	国名 米国 米国 カナダ マレーシア	カレッジ・オフ カレッジ・オ カピオラレ カリフォ ブラトン杉 バンクーバ ウタラマレ	プ・ザ・キャニオンズ(COC) プ・ザ・デザート(COD) ハワイ大学 アニ・コミュニティカ ッジ(KCC) ルニア州立大学 交(CSU Fullerton) ーアイランド大学(VIU) ハーシア大学(UUM)	College College Univer Kapi'ol California St Vancouve Universi	of the Ce of the I rsity of Hani Comr College tate University of I Utara I	Desert Hawaii munity Ity Fullerton University Malaysia	School	全学 itality and Tou Departme 全学 全学 全学 全学 Logistie	rim Education ent Management and
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	国名 米国 米国 カナダ マレーシア	カレッジ・オフ カレッジ・オ カピオラレ カリフォ ブラトン杉 バンクーバ ウタラマレ	プ・ザ・キャニオンズ(COC) プ・ザ・デザート(COD) ハワイ大学 アニ・コミュニティカ ッジ(KCC) ルニア州立大学 交(CSU Fullerton) ーアイランド大学(VIU) ハーシア大学(UUM)	College College Univer Kapi'ol California St Vancouve Universi	of the Ce of the I rsity of Hani Comr College tate University of I utara I	Desert Hawaii munity Ity Fullerton University Malaysia	School	全学 itality and Tou Departme 全学 全学 全学 全学 Logistie	rim Education ent Management and

12. 「学校教育法施行規則」第172条の2第1項において「公表するものとする」とされた教育研究活動等の状況について、公表しているHPのURL
<u>関西国際大学公開情報</u>
https://www.kuins.ac.jp/about/index.html

13. 本事業経費 (単位:千円) ※千円未満は切り捨て								
	年度	2023年度 2024年度 202		2025年度	2026年度	2027年度	合 計	
	事業規模 (総事業費)	29,599	36,779	34,759	31,759	33,559	166,455	
内	補助金申請額	25,999	34,000	34,000	22,666	11,333	127,998	
訳	大学負担額		2,779	759	9,093	22,226	34,857	

14. 本事業事務総括者部課の連絡先							
部課名			所在地	<u>b</u>			
責任者	^{ふりがな} (氏名)			属∙職名	職名)		
担当者	ふりがな (氏名)		(所)	属•職名)		
	電話番号			緊急連	絡先		
	e-mail(主)			e-mail	(副)		

(大学名:関西国際大学) タイプA

質の保証を伴った交流プログラムの目的と内容

① 交流プログラムの目的・概要等【1ページ以内】

【交流プログラムの目的及び概要等】

本計画では、①観光ホスピタリティ、②防災・防犯 (Safety Management) による安全・安心な社会基盤の構築を国際協働プログラムの中心課題として、COIL を活用した国際協働教育を実現する。また、参加学生は③AI 時代に適合したデータサイエンスなど基盤となるテーマを学び、SSHM 国際協働プログラムに活かしていく。分野①と②は、日米両国で人材不足、業務の高度化・デジタル化の必要性が指摘される分野であり、グローバルな視点と起業家精神をもつ人材の養成が求められている。大学ネットワークを含めた産官学連携により、幅広い学生層を対象とする国際協働プログラムを展開する。

【交流プログラムの目的及び概要等】

- I. 本事業は、広い裾野をもつ大学ネットワーク(UMAP、CCID、ACP など)を活用することにより(様式1 ④-1、⑤-1に詳細を記載)、日米を中心に幅広い学生層が参加できる教育交流を実現し、成果を裨益させる(JV-Campus を通じたオンディマンド教材の無料配信など)。米国の CCID(Community Colleges for International Development)と連携し、これまで留学の機会に恵まれてこなかった学生層(community college などの在学生、マイノリティー学生など)を主対象とするプログラムを実現する。
- II. 従来の世界展開力事業は 4 回以上の採択を受けた 15 大学が、事業全体の 66.9%(採択 157 件中 105 件)の採択を受けており、一部のブランド大学に資源が集中し、裾野を広げるような取組が実現されていない。本計画は、大学名による「ブランド」ではなく、創意工夫をこらした教育プログラムの内容にブランド力をもたせることで、日米を中心に幅広い学生層が参加するプログラムを展開し、多様なグローバル人材を輩出する。
- III. 2025 年の大阪・関西万博は、インバウンド観光が一層拡大する契機となると考えられている。また、安全・安心社会の実現も最重要課題である。本事業ではデータサイエンスを共通基盤学習として取り入れた上で、「観光産業のグローバル化」「防災・防犯による安全・安心な社会基盤」という両分野でデータに基づく分析や課題解決を志向できる人材の育成を目指す。具体的には、①オンラインによる共通基盤学習(データサイエンスによるシミュレーション)②COIL 型短期交流研修、③PBL (Project Based Learning)、インターンシップ、フィールドワークを含む実践型体験学習、④セメスター以上の留学、を実現する。また、既に運用している国際転編入制度を拡大し、参加大学間で編入協定 (articulation agreement)を締結し、3年次編入生を受け入れる。
- IV. 教育コンテンツにブランド力をもたせるために、JV-Campus と連携してマイクロクレデンシャル(MC)を発行するほか、既に取り組んでいる国際編入制度を発展させ、国際共同学位の実現を目指す。

【養成する人材像】

日本、米国、カナダ、マレーシアの 4 か国協働教育を通じて、グローバル観光事業の推進、安全・安心な社会基盤の確立、に貢献しうる人材を育成する。2025 年の大阪・関西万博とそれに続く統合型リゾート(IR)設置を契機に、インバウンド観光の発展が期待されており、「観光産業のグローバル化」「防災・防犯による安全・安心な社会基盤」という二つの領域は、関西地域及び日本全体にとって喫緊の課題である。本事業では、両分野において、急激な社会変革にも対応しうる柔軟な思考力、起業家マインド、異文化適用力をもつ人材を輩出する。本学はデータサイエンスを基軸に 2025 年に情報学部を新設する準備を進めており、データサイエンスを共通基盤学習に取り入れることにより、エビデンス及びデータに基づいて新事業を推進し、適切かつ迅速な判断を実現できる人材を育成する。

人材育成に当たっては、本事業における SSHM 国際協働プログラム推進委員会が設定するルーブリック に基づいて学習成果目標を定め、e ポートフォリオを運用して学生の学びを可視化する。また、本事業で発行されるマイクロクレデンシャル、参加学生の e ポートフォリオは、学生自身のキャリア・就職活動に効果的に活用される。

【本事業で計画している交流学生数】 各年度の派遣及び受入合計人数(交流期間、単位の取得の有無は問わない) (共通基盤学習、COIL 型短期交流研修、実践型体験学習、セメスター以上の留学)

2023	年度	2024	年度	2025	年度	2026	年度	2027	年度
派遣	受入								
192	72	202	72	209	78	209	78	209	78

育プログラムの提供。

国内大学等の連携図【1ページ以内】

本事業の連携機関

大学間ネットワーク

UMAP

University Mobility in Asia and the Pacific ◆ CCTD

CommunityColleges for International

Development ◆ ACP

Asian Cooperative Program

観光ホスピタリティ分野 <PBL等連携先>

神戸市

- 神戸市観光局 ひょうご観光本部
- 淡路島観光協会
- ㈱JTB ㈱パソナ
- ㈱パソナグループ ٠

観光を中心とした地 域の受入機関・民間 会社との協力体制を 確保している

評価

I C Tの有効活用による大学ネットワークの近代化

: 防災教育をアジア・太平洋全域に普及 АСР

関西国際大学

海外相手大学

- College of the Canyons (COC米国)
- College of the Desert (COD,米国)
- University of Hawai'i Kapi'olani Community College(KCC米国)
- California State University Fullerton
- (CSU Fullerton米国)
- VancouverIsland University (VIU,カナダ) Universiti Utara Malaysia
- (UUM,マレーシア)

〈PBL等連携先〉 兵庫県

防災・防犯分野

NPO法人CODI6 外災害援助市民セ

- (一社)アジア防災
- (兵庫県)人と防災 未来センタ・
- 大学環境機 NPO法人プラス・
- ٠v NPO法人まち・コ
- ュニケーション TOA株

アドバイザリー・ボード

UMAP国際事務局 CULCON

- (日米文化教育交流会議
- **Diversity Abroad** 日米姉妹都市協会
- UMAP国内委員会
- **♦** 関西大学IIGE
- アジア防災センタ-など



UMAP:アジア太平洋の地域の学生交流を促進 CCID:教育交流に参加できなかった学生層に留 学の機関を提供

・セメスター以上の交換留学 ・参加大学間で編入協定を締結

災害支援・防災・防犯を中心とした地域の受力 機関・民間会社との協力体制を確保している。

文部科学省の下で「UMAP日本国内委員会」が構成

本事業の体制

質保証

外部評価委員会

<**メンバー>** 産業界などの学識経験者

〈役割> 学習成果、マイクロクレデンシャ ル運用など外部専門家による事業 評価・助言

・共通基盤学習はオンライン開講





※マイクロクレデンシャルの発行

共通基盤学習の 他大学への展開

SSHM 運営委員会

(Safety and Security&HospitalityManagement)

<責任者> 関西国際大学学長

〈メンバー〉 関西国際大学教職員

<役割>幅広い学生層が参加できる教育交流と成果を 裨益

SSHM 国際協働プログラム推進委員会

くメンバー

参加大学から観光ホスピタリティ、防災・防犯教育の 2分野の教員が参加

<役割>

- ・共通基盤学習・学生のワークロード・評価方法など の運用調整
- -ンシップ・フィールドワークの企画 調整(両部会)
- ・JV-Campusと連携して単位認定UMAPによる単位
- 認基準(UCTS)を採用) オンライン協働学習に係るマイクロクレデンシャル (MC)の発行(発行実績あり)

事業運営

アドバイザリー ボード 助言

経験・実績を持つ機関の専門 家による事業運営のノウハウ・ 助言

(助言の対象)

UMAP加盟大学との連携・日 米間の教育交流促進のための戦 略・マイノリティー学生への参 加促進・UCTS・COIL運営・地域防災・防犯に関わる教 育プログラムに関することなと

- COILを活用した短期交流研修
- ・ PBLなどの実践型体験学習を重視 ・大学間及びUMAPとの協定による セメスター以上の留学

大学国際化 促進フォーラム

JV-Campus >

共涌基盤の一部は 無料で他大学にも 提供

観光ホスピタリティ部会 <部会構成大学>

本学・COD・KCC・CSU・VIU

く役割>

- PBL等連携先と協働し、DXを活用した インバウンド事業・ホテル及び食文化 のマネジメントなどの実践型体験学習
- インターンシップ先の開発など。

防災・防犯部会

<部会構成大学>

本学・COC・UUM

〈役割〉

- PBL等連携先と協働し、DXを活用した防災・防犯・災害時の人命救助や、安 全・安心に関わる調査分析などの実践型 体験学習を推進
- インターンシップ先の開発など。



※学牛防災十の養成

本事業による連携効果

<国際的な高大連携の展開>

高校生対象単位認定プログラム

- COCが展開する高校生プログラム(GOL) をUMAPオンラインシステムより参加 国に情報公開し高校生が参加。
- ·本事業参加大学及びUMAP加盟大学が公開 する授業のうち、高校生が単位の相互認定 できる科目をJMAP-GOL科目として展開。

<産官学連携の効果>

4か国の協働教育、交換留 学、フィールドワーク・ インターン受け入れ体制 の準備、MCの発行など。

大学間ネットワークによる教育 交流の実現・幅広い学生層の留 学促進・質保証・単位認定・オ ディマンド教材の配信・実践 型体験学習先など。

補助事業終了後も 更なる連携強化を 目指す

国 産業界 自治体

学

実践型体験学習 PBL・インターンシプ・ フィールドワーク先とし て協力体制を確保。

④-1 交流プログラムの内容【3ページ以内】

【実績・準備状況】

関西国際大学では、建学の精神である「以愛為園(いあいいえん)」(愛を以って園と為す)を基本理念としつつ、「地球上の人々それぞれの立場を理解し、共に歩む、人間愛にあふれた人の育成」を目指してきた。その理念を実践するために、教育における「3つの C」(コミュニケーション・コミットメント・コンシダレーション)を基本方針に組み入れ、質保証を伴った教育実践を展開している。また、令和 4 年度の世界展開力事業においては、「産学官連携ベンチャー・エコ・システム創成による起業家育成カリキュラムの展開」という事業名で採択を受け、起業家マインドをもつ国際人を育成することを目的とする 5 か国協働プロジェクトを開始している。

本事業における実績に基づく交流の枠組みと検討プロセスは以下のとおりである。

区分	実績に基づく交流の枠組み	検討プロセス(各大学の役割)
Ι.	既存の大学ネットワークを活用して日米を中心	 UMAP はコロナ以前の 2019 年
既存の大	にアジア・太平洋地域の学生交流の活性化に	に UMAP-COIL プログラムを実施し
学ネットワ	貢献する。特にこれまで留学の機会に恵まれ	ているが、本事業はこれを継承。
ークの活用	てこなかった学生層(米国の場合はコミュニティ	② 2023年2月にCCID年次総会
と多様な学	ー・カレッジ在学生、マイノリティー出身学生、	及び理事会(ワシントン DC)におい
生層の参	家族の中ではじめて高等教育で学んでいる、	て UMAP の紹介、本事業の概要説
加	いわゆる「ファースト・ジェネレーション」と呼ば	明を行った。
	れる学生など)に教育交流の機会を提供するこ	③ 2023年3月のUMAP国際理事
	とを第一の目標としている。さらに、社会人など	会(バンコク)において CCID との連
	伝統的な学生層以外の学習者の参加も促す。	携と本事業の概要を説明。
П.	①2025 年の大阪・関西万博開催とそれに続く	College of the Desert, CSU Fullerton,
国際協働	IR(Integrated Resort)設置に対応し、インバウ	Vancouver Island University、KCC、本
学習のテー	ンド観光の需要拡大とグローバル化に対応す	学の5大学が中心となって国際協働プ
マ	る人材の育成を目指す。	ログラムを推進する。
	②防災・防犯の取組により安全・安心な社会基	College of Canyons、UUM、本学が中
	盤の構築に貢献しうる人材育成を目指す。	心となって国際協働プログラムを推進
		する。
	③上記の①、②の人材育成のために AI 時代	UUM,本学が中心となって共通基盤学
	に対応したデータサイエンスを共通基盤学習と	習を推進する。主として JV-Campus を
	して参加大学の学生に提供する。	活用したオンライン配信とする。

<本事業の概要を説明(UMAP·CCID)>

2023年2月にワシントンDCでCCID年次総会が行われ、期間中でのCCID理事会で発表を行った(写真左)。同理事会において、米国におけるUMAPメンバー拡大に向けた提案をし、併せて本事業計画の概要を説明し協力を要請した。)

写真右(2023年3月バンコクのタイ教育省にて)は、UMAP 国際理事会の模様。CCIDがUMAP国内事務局として、米国内の UMAP 参加大学を募っていることを報告した。また、本事業の提案を行い、国際事務局の賛同(様式2達成目標①)を得た。





本事業は「既存の大学ネットワークの活性化」を枠組みの一つにしている。UMAP(University Mobility in Asia and the Pacific)を米国、日本において活性化させることに重点を置きつつ、CCIDやACPとの連携を推進する。UMAPは、1991年の発足以降、アジア・太平洋地域の学生交流を推進してきた。日本においても、文部科学省の下で、UMAP日本国内委員会(現委員長は新潟大学学長)が設置されており、国立大学協会、公立大学協会、日本私立大学団体連合会などで構成されている。JASSO(日本学生支援機構)内に設置されているUMAP日本事務局によると、全国120大学以上が加盟し、コロナ禍以前の2020年時点で約20大学が積極的にUMAPを活用していた。しかし、残念ながらコロナによって活動そのもの

が停滞してしまっている。

UMAP 関係者の間では、英語圏の大学がほとんど参加していなかったことが課題の一つと言われてきた。しかし、近年になってカナダ、オーストラリアが参加し、2022 年には米国 UMAP 事務局を CCID (Community Colleges for International Development)が正式に担当することになった。米国における UMAP の活動が本格的に始動する時期に合わせて、日本国内でもUMAPの存在意義が再認識されるように働き掛けていく必要がある。米国がUMAPに正式参加したことで、日本の大学にとっても学生の派遣先を多様化させていく好機となっている。本事業では、カナダのUMAP国際事務局などの協力(様式2達成目標①参照)を得て、UMAP30 年の歴史を活かし、日米間及びアジア太平洋全域の教育交流の活性化に寄与するような取組を進める。なお、本事業では、UMAP が提唱してきた単位互換システム (UCTS:UMAP Credit Transfer System)を活用した単位認定を実施する(様式1 ⑤ 4) 参照)。

<国際協働学習に関わる実績・準備状況>

- 国际伽倒于日に因わる	
観光のグローバル化に	関西国際大学は College of the Desert、KCC、Vancouver Island
対応した人材育成	University、カリフォルニア州立フラトン校との提携において観光分野を含め
	た教育交流を実施してきた。さらに COIL 型での協働教育も実践しており、
	現地での PBL (Project Based Learning)の実施についても協議をしている。
安全・安心な社会基盤	阪神・淡路大震災(1995年)の経験を経て、関西国際大学は防災教
創成のための人材育成	育プログラムをカリキュラムの中心に据え、行政・市民団体・NGO 等
(防犯・防災の取組のグ	との協働の下、地域防災リーダーの育成プログラムを推進し、多くの
ローバル展開)	学生防災士を養成してきた (2023年3月累計1,475名)。
	災害多発地域である東南アジア地域の大学との連携を積極的に進
	め、2014 年(平成 26 年)11 月には ACP (Asian Cooperative
	Program) を発足させた。インドネシア、フィリピン、タイ、ベトナ
	ム、マレーシア、ミャンマーの 5 か国 14 大学との間で、グローバル
	ネットワークを形成し、主要な教育研究テーマを「セーフティマネジ
	メント人材育成」として協働教育を実践してきた。コロナ禍において
	は COIL 型で協働学習を実施してきた。
共通基盤学習としての	上記二分野(観光ホスピタリティと防災・防犯(Safety Management))は、
データサイエンスと起業	近年、データに基づいた分析やマーケティングなどが必要となる分野であ
家育成科目	る。データを用いたシミュレーションや市場分析を行い、根拠に基づいた提
	案や方針を行えるようになることが求められている。2025年に本学が開設準
	備を進める情報学部と連携し、共通基盤学習として、オンディマンド方式に
	よりオンライン学習を行う。このほか、起業家精神の醸成に関わる導入学
	習、異文化理解講座も、オンライン履修できるように対応する。

【計画内容】

本事業は関西国際大学内に学長を責任者とする SSHM 運営委員会を発足させ、同委員会の下で、実際の共通基盤学習や実践型体験学習を推進するための SSHM 国際協働プログラム推進委員会を設置する。

参加各大学から観光ホスピタリティ、防災・防犯 (Safety Management)の 2 分野の教員が参加し、SSHM 国際協働プログラム推進委員会を構成する。この委員会においては、1)オンラインによる共通基盤学習、2) COIL 型短期交流研修、3) PBL・インターンシップなどの実践型体験学習、4) セメスター以上の留学を実施する。

<アドバイザリー・ボード、外部評価委員会の設置>

本事業の運営においては、多岐にわたる専門的知見や社会的ネットワークが必要なことから、アドバイザリー・ボードを設置する。主なアドバイザリー・ボードのメンバーは以下のとおりである。

氏名	所属	アドバイザリー・ボードにおける役割
Randall Martin	UMAP 国際事務局	UMAP 参加大学との連携
Pamela Fields	日米文化教育交流会議	日米間の教育交流促進のための戦略助言
Lily Lopez-McGee	Diversity Abroad	マイノリティー学生への参加を促すための助言
Anthony Al-Jamie	日米姉妹都市協会	北米西海岸、ハワイとの地域交流促進
谷岡一郎	大阪商業大学学長	UMAP 国内委員会副委員長としての政策的助言

堀田泰司	広島大学教授	UMAP 単位互換システム(UCTS)に関する助言
池田佳子	関西大学教授	COIL 運営に関わる専門的知見
笹原顕雄	アジア防災センター所長	地域防災・防犯に関わる教育プログラムの助言
村上昭徳	元大阪府警 警視正	国際防犯に視点からの専門的助言

<実施するプログラムの概要>

~ 美地 するノログノム	く 美肥 するプログラムの 低安 クー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						
A. オンラインによ	実際のフィールドワーク、インターンシップを経験する上で、データに基づいた						
る共通基盤学習	分析能力が必要になることから、共通基盤学習としてデータサイエンスの実用例						
(データサイエンス	をシミュレーション形式で学ぶ。この学習では参加大学間で実践的な学習課題						
を重視)	を設定し、オンラインによるオンディマンド方式で実施する。また、起業家精神を						
	醸成するための、アントレプレナーシップの基礎科目「ベンチャー・メーカーズ						
	(VM)ベーシック」をオンラインで提供するほか、異文化理解講座も共同で実施						
	する。これらのオンディマンド学習は、JV-Campus上で実施する。						
B. COIL 型短期交	毎年 10 日程度の短期プログラムを実施する。 事前・事後学習は COIL 型による						
流研修	オンライン協働学習を実施する。①神戸・淡路島プログラム(海外大学 6 校から						
(UMAP-COIL)	本学への受け入れ)、②LA プログラム(LA 周辺の 3 校で共同開催する短期プロ						
	グラム)、③ハワイプログラム(ホノルル周辺での受け入れ)の三つのプログラムを						
	実施する。なお、一部の短期プログラムは UMAP-COIL として位置付け、						
	UMAP、CCID、ACP参加大学の学生にも公開する(オンライン+対面)。						
C. PBL・インター	各参加大学はテーマ(グローバル観光、防犯・防災)ごとにフィールドワークまた						
ンシップ・フィールド	はインターンシップを受け入れる体制を準備している。日本国内では公的機関						
ワークなどの実践型	(神戸市観光局、淡路島観光協会、アジア防災センターなど)、民間会社(JTB、						
体験学習	パソナグループ、TOAなど)との協力体制を確保している。インターンシップの取						
(3週間から6週間)	組では、デジタル・マーケティングを取り入れるなど、DX を駆使した実践的学習						
	を実現する。						
D. セメスター以上	各大学間のバイラテラル協定、コンソーシアムとしてUMAPのマルチラテラル協						
の留学	定を活用し、セメスター以上の留学を実施する。質保証を伴った単位互換制度						
	として、UMAP 単位互換制度(UCTS)の活用を推奨する。これをきっかけに以下						
	の記載する国際編入並びに国際共同学位の運用につなげていく。						

<国際編入制度・国際共同学位の運用>

既に本学では、2001年より提携大学との間で国際編入の協定を結んでおり、2022年度までに303人が編入し、290人が国際共同学位(ダブル・ディグリー)を取得している。また、本学は2024年9月入学者より英語で科目を履修し卒業できる英語トラックを開始する。このため、交換留学生や国際編入学生が英語トラックで授業を履修して一定単位の修得が可能であり、特に国際編入学生は所定の単位の履修、卒業要件を英語科目の履修を通じて実現することが可能になる。このシステムを活用して、特にカリフォルニア州のコミュニティー・カレッジを卒業した学生の編入をシステムの中に組み入れていく。

<質保証に関する取組>

- ① 本学は留学プログラムの学習成果分析のため、ルーブリックの運用を実施しており、日本で初めて e ポートフォリオの運用を 2007 年に開始している。本事業でも、ルーブリックと e ポートフォリオを活用し、学生の学習成果の可視化を進める。
- ② 大学間の科目履修については、UCTS(UMAP Credit Transfer System)を推奨して、相互に単位認定を行う。
- ③ 単位取得に至らない短期学習の成果については、マイクロクレデンシャルを発行する(既に 2022 年度から一部プログラムで発行を実施している)。
- ④ 本事業の質保証体制を確保するためアドバイザリー・ボード、外部評価委員会を設置する。

④-2 学生主体の国際交流プログラム【1ページ以内】

【実績・準備状況】

本学は、二つの国際学生会議を主催してきた。

<ACP コンソーシアムによる学生会議>

本学は「セーフティマネジメント人材育成のための防災士という資格を学生に推奨し、過去 5 年間で 1,475 人の学生が防災士資格を取得している。また、日常的に自然災害の被害に悩まされるアジア諸国との連携を図るため、Asian Cooperative Program (以下,「ACP」) 構想を立ち上げた。共通のコア・カリキュラムを複数の海外の大学と作成し、教育内容、教育方法を共通化することによって、本学、及び海外協定校の学生が、自分の所属大学だけでなく他の協定校でもセーフティマネジメントについて学ぶことができるような環境を整えることを目指している。



右図は、ACP に加盟する大学14校の リスト。

左の写真は、2019 年にインドネシアで 開催した学生会 議。神戸でも定期 的に開催している。



もう一つは、令和4年度の世界展開力事業により開始された、国際学生起業家会議である。オーストラリア、イギリス、カナダ、インドの4か国の学生と本学学生が協働で、起業家マインドを醸成するためのワークショップ、PBL、グループによる新規事業企画を発表するピッチを行った。この実績と経験を活かして本事業においても国際会議を開催する。



写真(左右)は 2023年3月に神 戸で実施した国際 学生起業家会議 の模様。

海外 4 か国からの 学生を招いて実施 された。



【計画内容】

本事業においては、短期の相互派遣を実施する予定であるが、神戸で実施する受入れプログラムの最終日に国際学生会議を実施する。海外 6 大学並びに本学の学生が共通課題について、COIL により事前学習を行った上、PBL(Project Based Learning)方式の協働学習を行う。さらに最終日に成果発表を中心とする学生会議を実施する。

2024年3月 観光ホスピタリティをテーマとする国際学生会議(神戸)

2025年3月 安全・安心の社会基盤をテーマとする国際学生会議(神戸)

2026年1月 観光ホスピタリティをテーマとする国際学生会議(神戸)

2027年3月 安全・安心の社会基盤をテーマとする国際学生会議(神戸)

2028年1月 観光ホスピタリティをテーマとする国際学生会議(神戸)

なお、本事業を通じて、優秀な成果を上げた個人またはグループをカリフォルニア・ユース・サミットへ派遣し、成果発表を行う。カリフォルニア・ユース・サミットは毎年 2 月、日米姉妹都市協会南カリフォルニア支部 (Sister Cities International Southern California Chapter)が主催して行われるもので、大学生、高校生が社会課題の解決のためにプレゼンテーションや公開討論を行うものである。主催団体と提携関係にある「日米姉妹都市協会」(JUSSCA)からの強い推薦により、本事業の優秀者を派遣する計画である。なお、JUSSCA は、本事業の趣旨に賛同し、協力について文書で確約している(様式2①4)参照)。

④-3 オンライン(「JV-Campus」等)を活用したプログラム 【1ページ以内】

【実績・準備状況】

本学は 2022 年に「大学の国際化促進フォーラム」に加入するとともに、JV-Campus にも参加の意思を表明し、2023 年 5 月に正式に JV-Campus への加入手続きが完了した。また、令和 4 年に採択を受けた世界展開力事業「産学官連携ベンチャー・エコ・システム創成による起業家育成カリキュラムの展開」において、導入科目である「ベンチャー・メーカーズ・ベーシック」は既に 14 のモジュール教材の収録が終わっている。2023 年 3 月には JV-Campus の責任者である大庭良介准教授(筑波大学)を本学に招へいし、JV-Campus への「ベンチャー・メーカーズ・ベーシック」のアップロードについて確認し、2023 年 8 月までには同科目モジュールがオンライン履修できるようになる予定である。

マイクロクレデンシャル(以下 MC)発行に関しては、本学ではすでにオーストラリアの Western Sydney 大学と共同で実施した教育プログラムにおいて、デジタルバッジを発行した実績がある。2023 年度のプログラムからはこのデジタルバッジを正式に MC として認証(豪政府による MC ガイドラインに準拠)されることが決まっている。また、JV-Campus においても、MC を発行するための専門部会が設定されており、本学教員が部会メンバーとして選ばれ、オンライン教育プラットフォームの学習成果の証として、MC をビルトインする試みが始まっている(詳細については様式1⑤5)を参照)。

参加 6 大学間、オンライン共通科目の履修について協議を進めており、教材開発に関わる FD (Faculty Development) での協力関係を形成していくことで合意している。

【計画内容】

本事業では、参加大学の共通基盤学習として、実際の社会環境を前提とする実践的なデータサイエンスの共同学習を行う計画である。本事業に参加するカリフォルニアの3大学は、オンディマンド型により、オンライン科目設置しており、そのノウハウを活かして、オンディマンド型教育コンテンツを制作し、JV-Campus上に展開する。また、起業家教育の基礎科目(14 モジュール)、異文化理解講座についても本事業において参加大学の学生に公開する

(一部のモジュールは一般にも公開予定)。

右下:Western Sydney 大学発行のデジタルバッジ 左下:起業家教育の基礎科目(14 モジュール)動画より

I. データサイエンスの基本を学ぶ実践的教育科目(言語:英語及び日本語) 参加大学の教員が協力してデータサイエンスの実践的な学習を推進する。

- ① 第一段階:既存のデータを活用したシミュレーション
- ② データの国際比較
- ③ データ収集後、マーケティング、イベント企画などの提案プロジェクトに発展させる。

<シミュレーションの事例>複数の事例(シミュレーション)をオンライン協働学習で取り上げる

< > < \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	くつくユレー フョンの事例と後数の事例(フマエレーフョン)でオンプイン 励働于自己						
調査内容	調査内容 データの目的		データ				
特定地域の観	季節や特定のイベントによる日や時間帯別に来訪者数、年齢	1 時	指定区域				
光来訪者数を	層、男女比を可視化することでより効果的なイベント企画やマ	間	来訪/移				
推計しながら効	ーケティング戦略を策定する。神戸・淡路島地域(日本)、パー		動滞在デ				
果的なイベント	ムスプリング(カリフォルニア)、ハワイ、バンクーバー島の比較		ータ(KDDI				
計画やマーケ	をすることにより、データ分析の効果を学習する。また、新たな		Location				
ティングを実施	顧客開拓やイベント企画に応用する手法について学ぶ。		Data など)				

II. ベンチャー・メーカーズ・ベーシック(使用言語:英語)

本学とWestern Sydney 大学と連携して 2022 年度に制作した基礎科目「ベンチャー・メーカーズ・ベーシック」14 モジュールを 2023 年度中に JV-Campus 上に公開する。

III. 異文化理解講座(使用言語:日本語及び英語)

異文化間の協働学習を前提に異文化コミュニケーションの基本を学習する。

なお、JV-Campus のマイクロクレデンシャル専門部会(本学教員が部会メンバー)において、MC 発行の準備が進められているが、上記の科目について MC が発行されるように協議を進めていく。なお、AP プログラムに関連する計画については後述する(様式1⑤5)を参照)。

⑤ 質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 【4ページ以内】

【実績・準備状況】

1) 国際教育ネットワークとしての UMAP の活性化

1991 年に発足した UMAP (University Mobility in Asia and the Pacific) は35の対象国・地域に対し23 か国・地域が参加する国際教育交流機関である。米国 UMAP は長らく活動実態がなかったが、2022 年に CCID (Community Colleges for International Development) が正式に米国 UMAP の事務局となった。

< UMAP 対象国・参加国>対象国(地域)37 に対し、網掛の22 か国(地域)が正式に加盟している:

オーストラリア / バングラデシュ / ブルネイ / カンボジア / カナダ / チリ / 中華人民共和国 / エクアドル / フィジー / グアム / 香港 / インド / インドネシア / 日本 / カザフスタン / 韓国 / キルギス / ラオス / マカオ / マレーシア / メキシコ / モンゴル / ミャンマー / ニュージーランド / パプアニューギニア / ペルー / フィリピン / レユニオン島 / ロシア / サモア / シンガポール / 台湾 / タイ / 東ティモール / アメリカ / ベトナム



UMAP 1st meeting

(Canberra, Australia, 17-19 September 1991) 豪州政府の呼び掛けで 1991 年に日米を含む主 要国政府担当者がキャンベラで集まり、UMAP が発足した。アジア版エラスムスを構想した。



UMAP 25th Anniversary (Tokyo, 2016)

2016 年から 5 年間、日本が UMAP 国際事務局 を担当した。写真は 25 周年式典の模様(於:東 洋大学)

日本では政府が直接に UMAP に参画している(タイ、フィリピンでも政府が UMAP 事務局を担当)。30年にわたって、政府(文部科学省)が拠出金を支出し、国内事務局を JASSO 内に設置している。文部科学省の下で「UMAP 日本国内委員会」が構成されており、国立大学協会、公立大学協会、日本私立大学団体連合会の3団体が参画している(現在の国内委員会委員長は新潟大学学長)。最近の貢献としては2016年から2020年までは、UMAP 国際事務局を日本が担当した。しかし、コロナ禍以降は、日本のUMAPの活動は停滞し、UMAP 国内委員会も書面審議のみで、実質的な議論は行われなくなってしまっている。本事業は日米におけるUMAPの取組の活性化に貢献するものである(様式1④-1を参照)。

2) ルーブリックの活用・学習目標の明確化・学習成果の可視化

関西国際大学は、質保証を伴った大学間ネットワークの形成において先駆的実績を残してきた。まず、小規模私立大学4大学(北陸学院大学、共愛学園前橋国際大学、宮崎国際大学、富山国際大学)とコンソーシアムを形成し、共通のルーブリックを設定するなど質保証の取組を牽引してきた。同コンソーシアムは平成24年度に採択された文部科学省大学間連携共同教育推進事業「主体的な学びのための教学マネジメントシステムの構築」における取組を契機に、2016年5月に一般社団法人学修評価・教育開発協議会を設立するに至った。さらに2022年3月31日、文部科学大臣より"大学等連携推進法人"の認定を受け、5種類のコモン・ルーブリックの活用、アクティブ・ラーニング、連携開設科目(他の会員校が開設する科目を自学で開設したものとみなして単位認定できる新制度)などに取り組んでいる。

3) 単位の相互認定を前提とする協働教育の実績

関西国際大学は ACP(Asian Cooperative Program) を通じて、アジアの 14 大学と国際協働教育を実践しており、共同サーティフィケート、コモン・ルーブリックなどを通じて単位の相互認定を前提とする PBL (Project Based Learning)を実践してきた。また、2019 年から UMAP にも加盟し、アジア・太平洋地域 22 か国・地域の 650 を超える大学とのネットワークに参画してきた。令和 4 年度には「世界展開力事業」の採択を受け、豪州、インド、英国、カナダの大学との連携により、起業家教育のための国際連携を推進している。相互訪問、セメスター留学、インターンシップを進める一方、共通カリキュラムである Venture Makers (VM)を全参加大学で共有し、Blended Learning、オンディマンド教材の共通利用、COIL 型オンライン協働授業など、オンラインを活用した多様な協働学習を展開している。本事業でも、これらの実績を活かして、

質保証を伴った単位の相互認定を進める。

4)アジア太平洋で認知された単位互換制度(UCTS)の活用

本事業では、UMAP (University Mobility in Asia and the Pacific)が運用している単位互換スキーム (UCTS: UMAP Credit Transfer Scheme)を互換ガイドラインとして採用する。個々の大学における単位認定、成績評価について特に運用規則がある場合を除き、本ガイドラインを尊重して単位互換を行うこととする。UCTS は、広島大学の堀田泰司教授をはじめ、アジア太平洋諸国の専門家が行った国際比較研究 (欧州、米国、アジアの 13 カ国の比較研究)に基づき提案されたもので、2013 年の UMAP 国際理事会において正式に承認されたガイドラインである。堀田教授らの尽力により、アジアの主要大学が参画する「ASEAN+3」、AIMS (ASEAN International Mobility for Students)などでも UCTS と同じ換算表 が適用されている。名称は UCTS と呼ばずに、AACs (Asian Academic Credits)としている。なお、堀田教授は本事業のアドバイザリー・ボードのメンバーとなることにご同意いただいている。

UCTS ガイドラインの全文は UMAP ホームページに掲載されている(http://umap.org/ucts/)。<UCTS により単位の換算>

国/地域	UCTS	アジア	米国	欧州	英国
換算単位	1UCTS	1 単位	1 単位	1.5ECTS	3 単位
学修量	38-48 時間	38-48 時間	45 時間	37.5-45 時間	ECTS から換算
授業時間数	13-16 時間	13-16 時間	15 時間	-	-

<注>UCTS ガイドの日本語版は国立大学協会の以下のサイトからダウンロード可能である。http://www.janu.jp/international/files/UMAP_Exchange_Program_and_UCTS_Users_Guide_JE.pdf

5)質の保証を伴った交流プログラムに関わる実績

① 国際転編入・共同学位制度

関西国際大学では、2001 年以降、東アジアの 5 大学と国際編入のための協定を結び学生の受け入れを進めてきた。その結果、2+2、3+2の共同学位(ダブルディグリー)を実施し、303 人が編入学し、290 件以上のダブル・ディグリーを発行してきた。中教審による国際共同学位のガイドラインに準拠し、適切な知見を持つ教職員が実務を担当している。本事業の参加大学のうち、UUM とは既に ACP の協働教育を通じて、カリキュラムの共通性について双方の理解が進んでいる。また、米国 4 大学のうち 3 大学が 2 年制のコミュニティー・カレッジであることから、これらの大学からの国際編入により学生を受け入れることは可能である。さらに、カリフォルニア州立大学フラトン校とも 2019 年に大学間 MOU を締結する際、本学 2 年を修了した学生が英語力基準をクリアした場合に先方大学への編入を可能とするような編入協定(articulation agreement)を検討した経緯がある。こうした実績から、各大学との間で、国際転編入制度の導入していくことに大きな支障はない。また、国際転編入制度の発展形態として複数の共同学位協定の実現を目指していく。

② 高校生対象単位認定プログラム

UMAP は、2018 年及び 2019 年の理事会において、UMAP AP(Advance Placement)をオンラインで配信する計画が検討し、日本の高校から AP 科目を UMAP 対象国の高校生にオンライン配信する計画を実施しようとした経緯がある。この計画では、米国 College Board の AP 科目認定が高校に対して行われることから、AP をオンライン配信する高校を特定する必要があった。授業を提供する高校側でオンラインでの授業配信体制などが未整備であったため、計画は実現しなかった。しかし、アジア太平洋地域の高校生のために AP を実施する方針については UMAP 関係者の合意を得ていた。本事業では、大学が配信するオンライン授業を高校生が履修できるシステムを拡大していくことを検討する(後述)。

③ 東京規約の準拠とマイクロクレデンシャル(MC)

本学では国際編入制度の運用を通じて、海外の部分的修学履歴の認証を行ってきた。また、東京規約の締約国会議に本学教員が政府代表(文科省参与)として出席してきた経緯から、東京規約の理念に基づいて外国学修歴の認証を進めている。また、MCについては、2022年8月24日、諸外国のMCの実情を比較検証するワークショップをユネスコ・文部科学省共催により本学で実施している。



2022 年本学で開催したユネスコ・文部科学省共催ワークショックの様子

本学が Western Sydney 大学と共同で実施した起業家精神育成プログラムではデジタル修了証の発行を受けており、2023 年度からはMCとして認証を受ける予定である。さらに JV-Campus において MC を発行するための専門部会に本学教員が参画するなど、MC 共同発行に向けて準備を着実に進めている。

6)オンライン教育の運営

本事業ではオンライン・プログラムと対面教育の両方を連携するように実スケジュールと内容をデザインするため、参加学生はシームレスに渡航して体験学習を行うことができる。オンラインと対面の複合型の具体的な取組として、本事業では UMAP 理事会国際事務局との連携により、UMAP-COIL を継続する。 UMAP-COIL は 2019 年に関西大学が中心となって開始され、初年度は事前、事後学習をオンラインで行い、コア・プログラムを日本・韓国・ロシアを周遊する洋上プログラムとして実施した。

7)英語トラックの設置

本学は、2024 年 9 月から英語を教授言語とする英語トラックを導入する予定である。現在、この英語トラックは、国際コミュニケーション学部グローバルコミュニケーション学科内に設置する。同学科内には多文化共生専攻とグローバルビジネス専攻があり、この二つの分野で英語を教授言語とするプログラムが実施される予定である。これにより、海外からの交換留学生、3 年次からの編入生にとっても、英語科目を履修する選択肢がこれまで以上に拡大する。また、英語トラックに向けて英語で教授することが可能な教員を増員するなど、教育環境のグローバル化に努めている。

【計画内容】

1) UMAP を基盤とする教育交流の活性化(日本 UMAP の再生+米国 UMAP メンバーの拡大) 本事業を通じて、UMAP に参加するメリットをより多くの大学にアピールし、UMAP の活性化に貢献する ことを周辺の大学に伝えていく。同時に CCID、ACP の活動に相乗作用をもたらすように連携していく。

<UMAP に参加する主なメリット>

- ① 参加大学間でマルチラテラルな学生交流が実施できる。個別の二校間協定を締結、維持する必要はなく、学生はUMAPネットワーク内の大学に留学できる。UMAPネットワークへの留学はUSCOというオンラインシステムで志願先を選んで申し込むことが可能である。
- ② 大学の UMAP 参加経費は無料 (米国は年間 100ドル)である一方、カナダ、台湾などの特定国は UMAP参加学生のために奨学金を準備している。特にカナダの奨学金はUMAPを通じて留学生 する学生(カナダに留学+カナダから留学)に、1セメスターで 8000 カナダドル、という好条件のU MAP奨学金を準備している。また、UMAP自体も理事会の決定に基づいて奨学金を提供している。
- ③ UMAP Discovery Camp という短期プログラムを毎年、実施され、各国のUMAP事務局がホストとなり、その国の文化や社会について学び、現地学生との交流も用意されている。このCamp参加者の現地での経費は原則としてホスト国が負担することになっている(渡航費は自己負担)。
- ④ 特に国際教育交流の経験の浅い大学にとっては、UMAPを通じてアジア・太平洋にネットワークを 広げ、留学機会を拡大していくことが可能となる。

30年の歴史を持つUMAPを日本と米国で活性化させ、アジア太平洋地域における教育交流の進展に 貢献することを本事業の目標の一つとする。UMAP 活動実績のあるマレーシアやカナダの大学とともに、 UMAPに参加するメリットを米国からの参加3大学に理解・浸透させていく。さらに、本事業の参加大学以 外の大学にも UMAP に参加するメリットを的確に伝わるように UMAP 国際事務局と連携していく。例えば、 国際教育関連の会議(NAFSA, APAIE、AIIE」など)で成果発表を行う。

国内では、本事業を通じて、UMAP参加のメリットを日本の大学、特に国際交流への取組を始めたばかりの小規模大学、地方大学などに認識されるように、文部科学省、「大学の国際化促進フォーラム」などとともに連携して働き掛ける。併せて、現在メール審議のみになっている UMAP 国内委員会が正常に機能し、UMAP参加国との連携関係を回復できるように関係部署の方々に協力を依頼していく。日米のUMAP活動が活性化することは UMAP全体の活動とアジア全体の教育交流に貢献するもので、UMAP国際事務局(カナダ)から、本事業の成果に大きな期待が寄せられている(様式2①(i)1)参照)。

- 2) 本事業における国際協働プログラムの推進計画(UMAP-COIL の継承と発展)
- ① UMAP は 2019 年に初めてオンラインを活用した国際協働プログラム、UMAP-COIL を実施した。 UMAP 国際事務局と関西大学 IIGE (Institute for Innovative Global Innovation)が中心となって企画を 進めた。オンラインの事前学習を経て、2019 年 8 月に日本、韓国、ロシアを周遊する 19 日間の船上プログラムを実施した。SDGs をテーマに 6 か国 16 名の選ばれた学生が協働学習を行っている。その後の

2回のUMAP-COIL はコロナ禍により100%オンラインで実施されたが、本事業ではオンラインと対面の両方でUMAP-COILの取組を継承する。また、本事業における国際協働プログラムは以下の点を特徴とする。「観光ホスピタリティ」「安全・安心の社会基盤」という二つの課題に対し、UMAP-COILの継承プログラムとして以下の国際協働プログラムをオンラインと対面の両面で実施する。本事業の参加大学以外のUMAPメンバー校からも希望者に参加の機会を提供する(経費は自己負担または別の奨学金による)。

2024年3月 観光ホスピタリティをテーマとする COIL 型短期交流研修(神戸) 2025年3月 安全・安心の社会基盤をテーマとする COIL 型短期交流研修(神戸) 2026年1月 観光ホスピタリティをテーマとする COIL 型短期交流研修(神戸) 2027年3月 安全・安心の社会基盤をテーマとする COIL 型短期交流研修(神戸) 2028年1月 観光ホスピタリティをテーマとする COIL 型短期交流研修(神戸)



2019 UMAP-COIL Program

② 本事業では 4 つのプログラムが相互連携するように、SSHM プログラム推進委員会が実施日程、学生の選抜方法、評価方法などを協議する。また、すべてのプログラムで、データサイエンスや DX を活用した学習機会を取り入れるように配慮する。

A. オンライン 共通基盤学習

B. COIL 型 短期交流研修 C. PBL、 インターンシップ等 実践型体験学習

D. セメスター以上 の留学

③ PBL・インターンシップ・フィールドワーク:本学は国内外で多様なインターンシップ及びフィールドワークを開発した実績があるが、本事業では観光関連の企業、団体との協議を重ねて、協力について合意を得ている。特に、①各観光協会、JTB、パソナと観光ホスピタリティ関連のインターンシップを開発、②兵庫県、アジア防災センターなどとは安全・安心に関わる調査分析、インターンシップの実施、について協議を進めている。具体的には、日本人学生と参加大学学生がチームを組んで、マーケティング調査、英語での情報発信など行うなどのプロジェクトを立ち上げることが考えられる。以下は協力機関との間でインターンシップの受け入れに当たって基本合意している事例である。

157 ()	* * * > > > > > > > > > > > > > > > > >	のと当たって基件目記している事がである。
提携先	分 野	インターン・フィールドワーク・PBL の具体例(基本合意済)
パソナグ	インバウンド観光のイン	淡路島観光のインバウンド需要に関わる分析、マーケティング調査
ループ・淡	ターンシップ	
路島		
JTB	インバウンド観光のイン	関西ツーリストインフォメーションセンターにおけるインターンシップ、JTB が発行
	ターンシップ	するオンライン情報誌「るるぶ」英語版の編集担当など。
アジア防	防災に関わる国際比較	本学と UUM の教員などの指導により、過去に行われたマレーシアと日本の市
災センタ	研究の PBL	民との協働により地域ワークショップ「市民防災リーダー研修会」の記録、両国
<u> </u>		で収集されたデータを分析し、国際比較を行うプロジェクト。オンラインで開催さ
		れる Practitioner Session を運営、英語での情報発信をサポートする。

3) 高校生対象単位認定プログラム

本事業では、既に大学が高校生向けに配信しているオンライン教育を参加国間で連携する計画である。本事業に参加する College of the Canyons (COC) では、GOL (Global Online Learning) という制度を使って、国外の高校生が同大学の授業をオンラインで受講し、取得した単位を大学進学後に認定するシステムを確立している。単位の認定は COC だけではなく、他のカリフォルニア州内のコミュニティー・カレッジや 4年制大学に進学した場合でも認定される。本事業の一環として次のことを実施する。

- ① 速やかにできることとして、COC が展開する高校生プログラム(GOL)を UMAP オンラインシステム (USCO)により参加国に情報公開し、高校生への告知をすすめる。USCO には、参加大学が有料で実施している研修やオンライン科目を「プログラム C(Fee Based Program など)」として告知できるシステムがあり、これを活用して各国の高校生に授業科目や登録方法などを公開することができる。
- ② 本事業の過程で、各参加大学が高校生に公開している授業の情報を集約し、単位の相互認定できる科目をUMAP-GOL 科目として、上記 USCO システム及び本事業のホームページで告知する。また、他のUMAP大学からも科目情報を募り、GOL 科目に加える。この取組は、既存の高校生向け公開科目の情報を集約するだけなので、大学側には特にコストや手間が掛からない一方、高校生にとっては大学の授業科目をオンラインで先取りできるので、コストと時間の面で非常に有益な取組となる。

達成目標【①~④合わせて7ページ以内】

① 将来の関係を見据えた連携強化に資する目標について

(i)事業計画全体の達成目標(事業開始~2027年度まで)

令和5年度の世界展開力事業は、日米を中心とする学生交流を活性化させ、日本の大学のプレゼンスを高めることを主たる目的にしている。日米は政治、経済、文化において相互依存関係は強く、若い世代が協働学習する機会を維持発展させていくことの意義は大きい。本申請はこの目的に対し、以下のような目標を設定して貢献しようとするものである。

1) アジア太平洋の教育交流に参加する日米大学の拡大

本申請に参加する大学が UMAP に参加するメリットを体現することで、より多くの米国大学がアジア太平洋の学生交流に参加するようになることが 目標の一つである。CCID (Community Colleges for International Development)が米国の UMAP 国内事務局になったことにより、コミュニティー・カレッジなど、これまで留学交流への参加者が少なかった大学が、積極的に学生に留学機会を提供できるようになると考えられる。また、CCID は、CCID 会員大学以外の大学にも UMAP 参加を呼び掛けており、4年制大学も含めた UMAP メンバーの拡大が期待できる。本事業では参加大学間の教育交流で成果を挙げることを通じて、日米の幅広い層の大学がアジア太平洋の大学と連携できるような環境づくりに貢献していく。



2) 留学交流の機会に恵まれてこなかった学生に海外協働学習の提供本申請の参加大学のうち、米国3つのコミュニティー・カレッジはマイノリティーの学生、第一世代学生(First Generation:親族の中で初めて大学に進学する世代)が多く在学している大学として知られている。こうした学生層は、留学に関する情報が不足していること、莫大な費用と時間が掛かるという思い込みがあることなどから、留学への参加は限定的であることが、IIEの Open Doors、Diversity Abroadの調査などで明確になっている。UMAPのスキームを使えば、奨学金にもアクセスできる可能性は高く、UMAP-COIL などのようにオンラインを活用することにより、比較的に短期でコストを抑えた留学が可能であることを的確に伝えていきたい。本事業をきっかけに、3大学だけでなく、多くのマイノリティー学生が留学交流に参加できるように働き掛けていく。なお、この方針に賛同し、以下の二つの機関が協力を申し出ている。



- ① 日米文化教育交流会議(The United States-Japan Conference on Cultural and Educational Interchange: 通称 カルコン CULCON)事務局:1961 年、池田総理とケネディ大統領との合意によって成立した機関。日米両国の文化・教育・知的交流分野での交流の増進と相互理解の向上について勧告を行うことを目的とする。また、日米間の教育交流の促進のため、アフリカ系アメリカ人やヒスパニックなどを多く受け入れている MSI (Minority Serving Institutions)における教育交流を支援しようとしている。本事業の趣旨に賛同し、本事業のアドバイザーになることを同意している。
- ② Diversity Abroad:マイノリティーを含む多様な学生に留学の機会を提供していくことをミッションとして 2006 年に設立された NPO である。留学に行くことに障壁を感じる学生のため、DiversityAbroad.com というサイトを通じた情報提供を行うほか、奨学金の提供、学生会議の開催などを取り組んでいる。本事業の趣旨に賛同し、事務局長である Lily López-McGee が本事業のアドバイザーとなることで同意している。

なお、関西国際大学では、2024 年入学選抜から外国ルーツ学生のための特別入試を開始する。日本に在住する外国に由来する若者が本学に入学することで、キャンパス環境をより多様化していくことを目指しているが、こうした学生にも本事業に参加を促していく。

3) 社会人など多様な世代の参加を実現

本事業が掲げる、観光ホスピタリティ事業のグローバル化、安全・安心な社会基盤の構築というテーマは、伝統的な学生層のみを対象とした取組ではない。実社会で活躍している社会人にとっても学び直しの機会となる一方、一部のコンテンツは企業研修としても活用することができる。例えば、本事業の参加大学の一つ、College of the Desert (COD)は、本事業のために以下のような研修を準備している。もともと本学学部生を対象に企画されたものであるが、大阪・関西万博の終了後に設置が予定されている IR (Integrated Resort)に対応した研修として、本事業の3年目以降に、社会人向けのパイロット海外研修とし

て実施することを計画している。将来的には、本学として社会人向けに「観光ホスピタリティ海外研修」を立ち上げることを想定している。海外研修のノウハウを蓄積することで、補助事業終了後も一定の収益を上げていくことを念頭においたものである。なお、本研修ではマイクロクレデンシャルを発行する。

<社会人向け IR 研修の概要>

Agua Caliente Resort Casino Spa Rancho Mirage という 16 階建ての総合リゾート施設における短期研修 (5 日間)を行う。カジノフロア、屋外プール、レストラン、フィットネスセンター、コンサート会場などがあり、実際のオペレーションを観察しながら、マネージャー、スタッフの話を聞く。また、COD の実務家教員が準備したトレーニング (ケーススタディー、シミュレーションなど)を通じて、サービス環境や運営形態を学ぶことができる。 <注 > カピオラニ・コミュニティー・カレッジ (KCC)、バンクーバーアイランド大学 (VIU)も、それぞれハワイ、ナナイモでの研修を準備している。

4) 自治体・コミュニティー団体・商工会議所・業界団体・企業を巻き込んだ国際連携

本事業においては、大学間の交流だけでなく、大学が所在する地域の自治体、コミュニティー団体、商工会議所、業界団体、企業などをつないで、産官学レベルで多面的なネットワークを築いていく。本学では、防災士育成のノウハウが蓄積されていることから、自然災害に対する備えや災害避難に関わる幅広い産官学連合(兵庫県、アジア防災センターなど)を形成してきた。観光分野でも、神戸市観光局、淡路島観光協会、JTB、パソナなどとの連携を強化してきた。こうしたネットワークを本事業を契機として海外にも拡大していく。カリフォルニア州パームスピリングにおける Visit Greater Palm Springs 観光局、ハワイのハワイホテル観光協会(HLTA)、バンクーバー島のナナイモ商工会議所などとの連携を推進する。



5) 高校生対象単位認定プログラムの展開

自治体レベルの交流についても、日米を中心に交流の可能性を追求していく。特に本事業では、日米姉妹都市協会(JUSSCA)が事業の趣旨に賛同し連携を申し入れてくれており、参加大学が所在する地方都市の間で世代を超えた交流を促進し、姉妹都市提携の可能性についても追及する。

本事業では、高校生が在学中に大学の授業をオンライン履修し、大学進学後に単位認定を受けるモデル、「高校生対象単位認定プログラム」については既に様式1 ⑤ 5) ②において計画概要を述べた。これに加えて、日本国内で実施予定の国際学生会議、一部の実践型体験学習にも高校生が参加できるようにプログラムを設計する。本学は併設高校に加えて、19 校の高校との高大連携プログラムに取り組んでおり、国内プログラムへの参加を促していく。本事業の国内プログラムの多くが2月または3月に設計されていることから、高校生が参加しやすい日程設定を行い、積極的に高校生の参加を促していく。

(ii) 中間評価までの達成目標(事業開始~2024年度まで)

本事業の最初の2023年度および2024年度において、以下のように事業を推進する。

1)アジア太平洋の教育交流に参加する日米大学の拡大

UMAP の米国国内事務局である CCID (Community Colleges for International Development) ならびに UMAP 国際事務局と連携して、UMAP 参加メリットを米国大学の十分に理解されるように働きかけていく。 併せて、日本国内では、文部科学省、UMAP 国内事務局(JASSO 内に設置)と連携して、国際交流に取り組んで歴史が浅い小規模大学などを中心に参加を訴えていく。

2) 留学交流の機会に恵まれてこなかった学生に海外協働学習を提供する

日本で実施するプログラムに米国から招聘する学生のうち、40%の参加者がマイノリティー学生となるように各大学から推薦してもらう。また、本事業による招聘枠を超えてマイノリティー学生を招聘できるように、UMAP, CULCON、Diversity Abroad などの助言を得て、奨学金を受給できる機会を拡大していく。

3) 社会人など多様な世代の参加を実現

本事業で実施する海外短期プログラムは、LA プログラム(LA 周辺の 3 校で共同開催する短期プログラム)、ハワイプログラム(カピオラニ・コミュニティー・カレッジによるホノルル短期プログラム)であるが、このうち LA で実施されるパームスプリング研修(IR運営実務を学ぶ研修)は、社会人にも有益な内容であると考えられる。社会人向けのパイロット研修を検討するため、二年目までに現地で協議をおこなう。

4) 自治体・コミュニティー団体・商工会議所・業界団体・企業を巻き込んだ国際連携

事業の初年度から、JUSCCAなどの助言を得て、自治体、商工会議所などとの連携を促進できるようにネットワーク形成をはかっていく。この目的のため、本学としても神戸市、兵庫県、各業界団体との日常

的な連携を強化していく。

5) 高校生対象プログラムの展開

College of the Canyons (COC) が高校生向け (海外在住者を含む) に実施している GOL (Global Online Learning) は、すでに様式1 ⑤ 5) ②で紹介したとおりである。国外の高校生が同大学の授業をオンラインで受講し、大学進学後に単位が認められる制度で、実質的に AP プログラム (AP は原則として高校で大学水準の授業を開講するのに対し、GOL は大学で開講されている授業を高校生が履修する) と同等の役割を担うものである。事業開始の初年度は、UMAP のオンラインシステム、USCO を通じて GOL をアジア地域の高校生に知ってもらうように働きかけていく。

② 養成しようとするグローバル人材像について

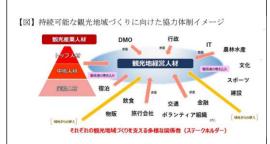
- 養成しようとする人材像が明確に設定されているか。(これを踏まえたアウトプット及びアウトカムが設定されているか)
- 本事業へ参加する学生に修得させる具体的能力が設定されているか。

(i)事業計画全体の達成目標(事業開始~2027年度まで)

1)次世代観光ホスピタリティ分野を支える人材像

大阪・関西万博(2025 年)とそれに続く統合型リゾート(IR)設置を契機に、インバウンド観光の発展が期待されており、「観光産業のグローバル化」は喫緊の課題となっている。2023 年 3 月に発表された観光庁「ポストコロナ時代における観光人材育成ガイドラインー持続可能な観光地域づくりに向けて一」の中でも中長期の課題が鮮明に記述されている。このガイドラインによると観光業界には、観光地全体の経営、観光地域づくりを担う「観光地経営人材」、当該観光地における個々の事業経営を担う「観光産業人材」が存在するという。しかし、DX 化、グローバル化、SDGsへの対応など、求められる能力は高度化、複雑化しており、両方の分野で力を発揮する人材が求められている点や、他業種からの流入してくる人材の必要性についても同ガイドラインは指摘している(図を参照)。

本事業では、同ガイドラインが重視する「「観光地経営人材」の能力のうち、④ 観光地マーケティング(データ・統計分析に基づくマーケティング手法についての知識・技能)、⑤地域観光のイノベーションと観光 DX (観光地における価値創出、消費者の嗜好変化の対応等のためのデザイン思考及び観光 DX についての知識・技能)に着目する。



また、同ガイドラインは、IT システム等の基礎的理解に加え、観光地経営の高度化等に向けたデジタル 戦略の策定・実践・検証等、観光 DX の PDCA の手法等を身に付けることを重要視している。

2)安全・安心の社会基盤の構築のために貢献する人材像

「防災・防犯による安全・安心な社会基盤の構築」は、関西地域及び日本全体にとって社会の根幹に関わる課題である。また、この社会基盤の整備は、公共事業、サービス産業をはじめ、あらゆる事業体にとって、将来にわたって最優先に取り組まなければならない事項である。防災・防犯に関わる知識やノウハウは、特定の業種や行政機関に限定せず、幅広い層の人材、職業人に求められている。また、防災・防犯が国境を越えた課題であり、異文化理解、多文化共生の視点が求められる。さらに、DX 化に対応したアクション・プランが求められる分野である。

This rubric is designed to help bulgators should keep in mind	the descriptors that best	represents a student's level of ou	tput or performance. There are f	four levels of attainment to choos	e from.	ou.s
Learning Outcomes— Through This Program Students Will:	Likely Form of Assessment	4=Advanced=	3-Proficient-	2=Basic=	1=Threshold =	
Apply Essential Safety Management Knowledge and Skills to Real-World Situations ⁽⁻⁾	Assignments from Field Study, Case Studies, Service- Learning, Final Project-	Manters course material to a point where can apply multiple skills and diverse knowledge to solve real-world problems in an effective and or impovative way, c	adequately:=1	Understands course material enough to use skills and knowledge to solve basic aspects of a real-world problem.	Comprehends basic themes of course but struggles to apply skills and knowledge to new situations.	
2) Acquire Ablifies and Strategies in Problem Defining and Problem- Solving	Final Project, Export or Presentations	Demonstrates the oblity to construct a clear isaginful problem statement and formulates a solution that indicates a deep grasp of the problem and is sensitive to multiple contentual factors (a.g. ethical, logical, and cultural) complicating a problem.	Demonstrates the ability to construct an affective problem statement that is adequately detailed, and can formation a solution that indicates adequate understanding of the problem and acknowledges some, but not all, main command factors (see ethical, logical, and cultural) complicating a problem. 3	designed to address the specific connectual factors of a problem.		ı
 Develop Communication Skills Needed for Safety Management Activities 	Written Reports-2	Communicates, organizes and synthesizes information from all relevant sources to fully achieve a specific purpose, with clarity and depth.	and synthesizes information from most necessary sources in effective way.	Communicates and organizes information from sources in an adequate way. The information is not always fully synthesized, so the intended purpose is not always achieved.	Communicates information in tracker and/or inappropriate way (misquoted, taken out of content, or incorrectly paraphrased, etc.), so the axioned purpose is not achieved.	
Competencies Needed for Participating in Safety Management Projects' &	Activities and Class Participation +/	Always assists and/or encourages team members; kinterpets issues and experiences from the perspectives of other; demonstrates ability to recognize the fieldings of another cultural group.	Usually assists and or encourages team members; recognizes and engages intellectual and senotional viewpoints of others; exhibits curiosity and engages different communities and cultures. If	Often assists and/or encourages team members; recognizes different perspectives but responds straidly with ours worktview; enthists limite curiosity in learning from other communities and cultures.	Sometimes assists and/or excurages beam members; acknowledges the experiences of others but does so with own worlds-leve; indifferent or resistant to learning from of other consummities and cultures. ³	-
 Practice Leadership Skills Needed for Safety Management Projects ('Optional- a.g. for Global Studies program) 	Team Projects and Class Participation	Engages team members in ways that facilitate their committeeins, addresses destructive conflict disently and constructively. ¹	Often engages team members in ways that facilitate their contributions; often identifies and acknowledges conflict and stays engaged with it. 42	Sometimes engages team monobers in ways that facilities their contributions; sometimes reduces focus soward common ground, and toward task at hand (away from conflicts) of	Engages team members by instening to others without insempting but does not exhibit leadership per se; passively accepts alternate viewpoints so unable to manage conflict.	

本事業ではセクターを問わず、国際的な視点をもって、次世代の防災・防犯に貢献しうる人材を育成していく。本学では、これまで、ACPの取組を通じて、異文化環境にあっても、自律的に活動できる市民防災リーダーを育成するための協働教育に挑戦してきた。その成果の一環として、以下のようなコモン・ルーブリックをACP関係大学とともに作り上げてきた。

これを発展させるとともに、防災に加えて、防犯という分野においても参加大学の協力を得ながら、共通の課題設定やルーブリックを構築していく計画である。参加大学のうち、College of the Canyonsにおいては、Criminal Justice、Juvenile Delinquencyをテーマにした専門教育が行われているが、実務に根差した職業的な教育に加えて、一般市民がどのように防犯という概念に連携していくか、という観点からの

取組が展開されているが、こうした実践的な取組から学び、日本や東南アジアなど、異なる文化や社会環境の中でどう体現していくか、を検証していく。この観点から、次世代の「安全・安心」な社会の構築に貢献しる人材育成を目指していく。

3)人材像における共通課題

本事業では、上記1)2)の両分野において、①急激な社会変革にも対応しうる柔軟な思考力、起業家マインド、異文化適用力をもつ人材、②データサイエンスを基軸にエビデンス及びデータに基づいて新事業を推進し、適切かつ迅速な判断を実現できる人材を育成する。なお、本学は2025年に情報学部を新設する準備を進めているため、データサイエンスを共通基盤学習に取り入れることが容易である。

(ii) 中間評価までの達成目標(事業開始~2024年度まで)

本事業においては、参加大学間で共通の問題意識、学習目標を設定しているが、SSHM 国際協働プログラム運営委員会において、初年度に綿密な会合を開き、コモン・ルーブリックの設定、評価基準の確認、マイクロクレデンシャルの構造化(単位科目やルーブリックとの連携)などに取り組む。

また、共通基盤学習として①データサイエンスを活用したシミュレーション学習、②起業家マインド醸成プログラム(ベンチャー・メーカーズ・ベーシック)、③異文化理解(ワークショップ形式で異文化理解を深める)を 3 分野について、SSHM 国際協働プログラム推進委員会の委員が連携してコンテンツを制作する。特に、①については各国のケースを取り上げながら、シミュレーションを行うなど、オンディマンド教材のコンテンツを準備に精査する。学習目標、アセスメントなどについて合意を図りながら、人材育成に向けた共通理解を深めていく。

なお、共通基盤学習のコンテンツについては、オンディマンド化するとともに、学習者と教員のインターラクションを確保していく。JV-Campusと連携して各モジュールをオンライン・プラットフォーム上に掲載する。

③-1 学生に修得させる具体的能力のうち、一定の外国語力基準をクリアする日本人学生数の 推移について

(i) 本事業計画において定める外国語力基準及び同基準をクリアする学生数に関する達成目標

単位:人(延べ人数)

		達成目標					
	外国語力基準	中間評価まで	事後評価まで				
		(事業開始~2024 年度まで)	(事業開始~2027年度まで)				
【参	参考】本事業計画において派遣する 日本人学生合計数	55	210				
1	CEFR (TOEIC450)短期派遣については、基本的な会話能力を重視する。	180	300				
2	CEFR (TOEIC600)	70	170				
3	CEFR (TOEIC800)	40	100				

(ii) 外国語力基準を定めた考え方

これまで本学は TOEIC 主体の語学力基準を設定してきたが、令和 4 年度(2022 年度)に世界展開力事業の採択を受けて以降、IELTS、TOEFL など留学前の評価として使われる 4 技能テストについても、活用し始めている。特に IELTS はカナダ、イギリス、オーストラリアへの留学交流を推進する上で不可欠な指標であり、2022 年度から正式に学内受験と対策講座を展開している。本事業においても、TOEFL、IELTSを含めた複数のテストを活用するため、各テストの換算表も参考にしながら、連携大学との間で共通理解を深めていく。当面は、従来どおりに TOEIC を一つの目安としつつも、CEFR を基準に 4 技能を重視する評価基準に転換していく。

派遣プログラムに参加する学生は、現地学生などと直接に会話する機会が多く想定される。必要最低限の意思表示ができるようになるために、特にオーラル・コミュニケーション力を重視する必要がある。本プロジェクトにおいては、短期プログラム派遣時の暫定基準を TOEIC 450 以上とする一方、基本的な会話能力を重視する。従って、TOEIC の得点に加えて 4 技能テストにおける Speaking が最低でも CEFR の A2 の基準に達していることを参加要件とする。

また、Global Research による海外派遣終了時点で CEFRB1、セメスター以上の交換留学前に先方大学が定める基準(例:IELTS5.5 など)をクリアすること、卒業時に CEFRB2 以上を目指すように指導していく。

(iii) 事業計画全体の目標達成に向けたプロセス(事業開始~2027年度まで)

本事業では、まず入学してくる特定のグループ(新入生の英語上位層約70名)に対しては、実際の派遣先で求められる「オーラル・コミュニケーション力」に特化した集中トレーニングプログラムを準備し、徹底した訓練の場を提供していく。とりわけ、このオーラル・コミュニケーションでは、実際の発話を通じた体験が、彼らのコミュニケーション能力を伸長させる、と考えるからである。この集中トレーニングは、本学が学生の英語力強化のために設置している「グローバル学習プラザ」を基盤に、(iv)に記載している7つのステップで展開していく。また、学習の成果を測定するアセスメントについても、オーラル・コミュニケーション力またはスピーキング力に特化した評価基準(CEFRのSpeakingの点数に換算可能)を導入していく。

本事業における成果を高めるためには、グローバル学修プラザの対応だけでは十分に行き届いた細かいフォローは困難である。そこで、「いつでも」「気軽に」「何度でも」、学生が自由に使用できるスピーキングのアプリケーションを選定し、使用していくこととする。特にこの数年で、AI技術が格段に進歩しており、スピーキング領域においても、いくつもの優れたアプリケーションが開発されている。特に、スピーチするとすぐに、そのスピーキング内容を記録~判定できるまでの精度となってきた。さらにこれらのアプリケーションには、「アセスメント」機能とともに「練習・訓練」機能も付随している。

新入生は 7 ステップの集中トレーニングを進め、1 年間で一定の成果を上げて短期研修に参加し、その後、中期(3 週間から6 週間)インターンシップ、1セメスター以上の留学を目指していく。

(iv)中間評価までの目標達成に向けたプロセス(事業開始~2024年度まで)

以下の7つのステップにより、上位層の学生(各学年70名)のオーラル・コミュニケーション力の強化に集中する。初年度は年度途中からの取組になるが、1年生の上位層70名には早期にアセスメントを実施し、設定した目標に基づいてトレーニングを開始する。2年目からは新入生70名を対象に7つのステップでトレーニングを実施する。

<新入生選抜グループを対象とする7ステップ・プログラム>

各学生の現状(CEFR 及び TOEIC に該当するスコア)を把握した後に、既に実施しているグローバル学修プラザによる目標設定を両者で年度の初めと後半に実施し、確実に1年間の実践を着実かつ効果的なものにする体制を整える。(これを2年間にわたり、繰り返していく。)



「TOEIC・CERF」の両評点を把握できるアセスメントを半年ごとに実施し、その結果に基づいて学生自身が一旦目標設定作成し、eボートフォリオに掲載する。

その内容を、「グローバル学修プラザ」の専任スタッフまたは専任教員と話し合い(One on Oneミーティング)、その目標設定が妥当か、現実可能か、能力が伸長できそうか、などを確認した上で、決定し、コミットする。

その際の目標設定としては、ジョージ・T・ドランの提唱した「SMARTの法則」(Specific / Measurable / Achievable / Relevant / Time-bond)に基づいて作成するように指導をする。意気込みだけでなく、誰が見てもその目標を理解し、実際に行動できる内容でなければならず、さらに、測定可能なもの、一定の背伸びはしたとしても実現可能性のあるもの、であるべきである。

月2回程度、進捗状況を学生・専任スタッフ双方が確認(「アセスメント」の受験状況、「トレーニング」の実施状況をアプリケーションの管理機能で把握する)をし、目標を確実に達成していくためのスモール・ゴールを作成、共有する。

グローバル学修プラザが提供する「集中トレーニング」などを活用するように誘導する。

3か月に一度の割合で、日頃の学習の成果をアウトブットできる場、TEDのようなオーラル・コミュニケーションの場を設ける。そこには、指導教員や専任教員以外にも他大学の教員、並びに学生も聴講できる準備をしておく。特に成果が上がったケースは、本学WEBサイトで発表内容を全世界に配信をする(学生のモーティベーションを高めるため)。

上記6種の行動で強化しながらも、やはり基本は、「実際に声に出して英語を話すこと」である。AI対応のスピーキング・アプリケーションを有効に活用していく。

左記の7つのステップを繰り返すことで、本学学生の英語力を着実に伸長させていくものとする

この実践には、学生のみならず大学側の実施負荷も高いことから、支援体制の充実以外にも、AIなどを活用した効率の良い仕組みの構築・運用が必要不可欠である。

③ -2 学生に習得させる具体的能力のうち、「③-1」以外について

(i)事業計画全体の達成目標(事業開始~2027年度まで)

プログラム全体を通じて、以下の3つの能力に伸張をはかる。

1) データ分析力

データサイエンスの学習成果を現場フィールドで活かすため、基盤共通学習では実際のデータを使ったシミュレーションを行う。

区分	調査内容	データの目的	単位	データ
観光ホ	OD データに基	OD データを用いて、流動人口を調べることで観光	1 時間	指定区域
スピタリ	づく流動人口	客の移動パターンや行動傾向を理解し、より効率		来訪デー

ティ	及び観光ルー	的で魅力的な観光ルートや改善を提案する。ま		タ/移動滞
	トの分析	た、連携校との議論により、特定の観光客、特に外		在データ
		国人がどのルートを好むかを理解し、新たなターゲ		
		ットに対する観光ルートを検討する。		
防災·	属性情報と国	時間帯、性別、年齢などの属性情報を分析するこ	1時間	OD データ
防犯分	際連携を活用	とで、特定の犯罪行為がどのような条件下でよく発		
野	した大阪万博	生するかを検討する。時間帯別の属性情報を基		
	の防犯対策の	に、特定地域のリスク評価による、防犯対策や防犯		
	検討	啓発活動を計画する。異なる社会、文化、経済の		
		背景を比較分析し、海外から多数の来訪者により		
		大阪万博で予想される事象を検討する。		

このように具体的なケースを通じて、データサイエンスを活用する意義や面白さを学生に理解させる。 COIL 型短期研修、実践型体験学習を経て、データ分析力と根拠に基づいて提案する能力を育成する。

2) アントレプレナーシップ(起業家精神)

本事業全体を通じて、起業家精神をもって新しいプロジェクトを提案し、実行していく力を育成していく。

3) 異文化理解

多様な学生との協働学習を積み重ね、異文化理解力をもって国際協働を推進していく力を育成する。

(ii) 中間評価までの達成目標(事業開始~2024 年度まで)

本事業では共通基盤学習として、①データサイエンス、②アントレプレナーシップ、③異文化理解の3つのテーマでオンラインでの学習を実施する。2023年度はオンディマンド教材を開発に関し、SSHM国際協働プログラム推進委員会で役割分担、内容を協議する。なお、②のアントレプレナーシップについては、令和4年採択の世界展開力事業に関連して開発された「ベンチャー・メーカーズ・ベーシック」で作成済。①と③の開発に集中する。2024年度からは、オンディマンド型での学習を本格的に開始する。

④ 質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成及び拡大に向けた具体的な取組について

(i)事業計画全体の達成目標(事業開始~2027年度まで)

<本学における質保証ポリシー>

本学は学則に掲げる教育目標に基づき、全学及び各学科のディプロマ・ポリシー(DP)を設定し、卒業までに身に付けるべき力・資質を明確にしている。

学生個人レベルでは、半年に一度、本学独自の KUISs 学修ベンチマークという DP の学修成果を評価するためのルーブリックを用いて、学生自身が自己評価を行い、自分自身のどの力・資質がどの程度修得しているのかを把握するとともに、次の半年間の目標設定を行い、アドバイザーとともに具体的な学習行動計画を設定し、PDCA サイクルを自律的に回すことを身に付けていく。

学部・学科レベル及び大学レベルでは、本学評価センターが KUISs 学修ベンチマークの学生の自己評価を集計し、分析を行った上で、学長等へ報告を行うとともに、学部・学科の教員にフィードバックを行う。達成度の低い項目については、カリキュラムや主要科目の内容を見直すなど改善に活用する。

また、DP を達成するためのカリキュラム・ポリシー(CP)を設定しており、学習目標、学習活動、評価活動が一体となるよう Instructional design (ID)の考え方に基づいて授業を設計する。CP の評価は、学部・学科レベル、科目担当者レベルの評価を行う。本学高等教育研究開発センターが中心となり、授業評価アンケートや定期的な学修行動調査を用いて評価を行い、学部・学科の教員にフィードバックを行う。

<本事業における質保証に関わる取組>

SSHM 国際協働プログラム推進委員会で、共通基盤学習、COIL 型短期交流研修、実践型体験学習につき、それぞれの目標、学習成果、運営形態に関連し、質保証を伴った協働教育となるように以下のようなテーマで合意形成を図っていく。

- 1) 共通ルーブリックの活用とアセスメント
 - 本学が活用しているルーブリックを参考に参加大学間で評価基準に関する意見交換を行う。
- 2) 単位互換に関わる共通理解の促進(UCTSの活用) 様式1 ⑤ 4) に記載のとおり、UMAPによる単位互換スキームを推奨する。
- 3) マイクロクレデンシャルの発行 比較的短期の学習成果についてはマイクロクレデンシャル(MC)をデジタルで発行する。JV-Campus のプラットフォーム上でMCを発行する準備を進めている。
- 4) 国際転編入制度と国際共同学位

本学における実績(中国の大学との間で 2001 年から編入学と共同学位を実施)を基に編入に加えて 国際共同学位を実際に提供する方向で検討する。

5) 高校生対象単位認定プログラム 大学の授業を高校生がオンライン履修することで、大学進学後に単位取得することが可能である。

<マイクロクレデンシャルの発行>

本学は、2022 年 8 月 24 日に、MC に文科省・ユネスコ共催による特別ワークショップを本学で実施し、 豪州政府関係者から MC に関わるガイドラインなど経過説明が行われた。また、JV-Campus では MC 運 用に関わる専門部会が発足し、本学教員が参画している。早期に発行する方向で準備を進めている。

(ii)中間評価までの達成目標(事業開始~2024年度まで)

<質評価・成績評価・単位互換の考え方>

本学における質保証と評価に関しては、2023年、2024年度においても、本学が定める、DPのガイドラインに従い、大学レベル、学部・学科レベル、学生個人レベルのレベル別に DP に関わる評価を行う。CP については、学部・学科レベル、科目担当者レベルの評価により、学部・学科の教員にフィードバックを行う。

参加大学間でそれぞれ、質保証に関わる詳細な方針を調整するため、SSHM 国際協働プログラム推進委員会(全参加大学で構成)において成績評価や単位認定を含めた意見調整を行う。単位互換に関しては UMAP (University Mobility in Asia and the Pacific)が推奨する UCTS (UMAP Credit Transfer Scheme)をガイドラインとして採用する

⑤ 本事業計画において海外に留学する日本人学生数の推移【1ページ以内】

現状(2023年5月1日現在)※1

人

(i)日本人学生数の達成目標

	単位:人(延べ人数)
事業計画全体の達成目標(事業開始~2027 年度まで)	1021
中間評価までの達成目標(事業開始~2024 年度まで)	394

(上記の内訳)

(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス (事業計画全体、中間評価までの双方について)

単位:人

						T 12 - 7
	2023	2024	2025	2026	2027	合計
	年度	年度	年度	年度	年度	
実際に渡航する学生	2	2	9	9	9	31
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生	170	180	180	180	180	890
実渡航とオンライン受講を行う学生	20	20	20	20	20	100
合計人数	192	202	209	209	209	1021

(a) 実渡航による交流

「実践型体験学習(インターンシップなど)」「セメスター以上の留学」により渡航する学生の総数。本事業では基本的に短期研修は「COIL型短期交流研修」として実施するのでハイブリッドのカテゴリーに含まれる。

(b) オンラインによる交流

海外大学とのオンラインによる協働学習の参加者数である。共通基盤学習において、①データサイエンス、②起業家育成(アントレプレナーシップ)、③異文化理解の 3 分野でオンライン協働学習を実施する。これに加えて、本学の防災にかかわる学習、観光関連の基礎科目においても、オンライン協働学習ととりいれる。

(c) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

「COIL 型短期交流研修」においては、事前、事後にオンライン協働学習で実施する。そして、日本または米国での短期の現地研修を実施する。ハイブリッド型の研修をおこなうことで、効率の良い協働学習を実施することが可能である。

⑥ 本事業計画において受け入れる外国人学生数の推移【1ページ以内】

現状(2023年5月1日現在)※1 303 人

(i) 外国人学生数の達成目標

単位	: 人	(延べ)	人数)

事業計画全体の達成目標(事業開始~2027 年度まで)	378
中間評価までの達成目標(事業開始~2024 年度まで)	144

(上記の内訳)

(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス (事業計画全体、中間評価までの双方について)

単位:人

						T 12 - 7 \
	2023	2024	2025	2026	2027	合計
	年度	年度	年度	年度	年度	
実際に渡航する学生	0	5	11	11	11	38
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生	60	60	60	60	60	300
実渡航とオンライン受講を行う学生	12	7	7	7	7	40
合計人数	72	72	78	78	78	378

(a) 実渡航による交流

「実践型体験学習(インターンシップなど)」「セメスター以上の留学」により来日する学生の総数。本事業では基本的に短期研修は「COIL型短期交流研修」として実施するのでハイブリッドのカテゴリーに含まれる。

(b) オンラインによる交流

本学と海外大学との間で実施するオンライン協働学習の参加者数である。共通基盤学習において、 ①データサイエンス、②起業家育成(アントレプレナーシップ)、③異文化理解の3分野でオンライン協働学習を実施する。これに加えて、本学の防災にかかわる学習、観光関連の基礎科目においても、海外の学生に参加してもらい。オンライン協働学習を実施する計画である。

(c) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

「COIL 型短期交流研修」においては、事前、事後にオンライン協働学習で実施する。そして、日本または米国での短期の現地研修を実施する。ハイブリッド型の研修をおこなうことで、効率の良い協働学習を実施することが可能である。

⑦ 交流学生教について(2023年度は事業開始以後の人数) ○ 実渡航の派遣期間と派遣数(短期・中期・長期)について適切な目標が設定されているか。(★)

(単位:人)

(i) 本事業で計画している交流学生数

		2023	3年度	2024	4年度	2025	年度	2026	6年度	2027	7年度	合	1
	各年度の派遣及び受入合計人数(交 流期間、単位取得の有無等の内訳は (iii) 表参照)	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
		192	72	202	72	209	78	209	78	209	78	1021	378
	実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	2	0	2	5	9	11	9	11	9	11	31	38
	自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	170	60	180	60	180	60	180	60	180	60	890	300
	実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	20	12	20	7	20	7	20	7	20	7	100	40

(ii) 国内大学及び交流プログラムごとの交流学生数

	1	単位取得を伴う交流期間30日未満の交流
	2	単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流
交流形態	3	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流
文加沙松	4	上記以外の交流期間30日未満の交流
	5	上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流
	6	上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流

24 (1.79)	Α	学部生
学生別	В	大学院生

	事液់
オ	オンライン
/\	ハイブリッド

1. 【代表申請大学】

大学名	国際大学	:			採択	実績		あり											
交流プログラム名	交流	交流	学生別	2	2023年度	ŧ	2	2024年度	ŧ	2	2025年度	E	2	026年月	隻	2	027年月	ŧ	合計
(相手大学名)	方向	形態	子生別	実	オ	/\	実	オ	/\	実	オ	/\	実	オ	/\	実	オ	Λ	台町
(米国) California State University Fullerton	派遣	3	Α							1			1			1			3
(米国) California State University Fullerton	受入	3	Α							1			1			1			3
(米国) California State University Fullerton	受入	4	Α			2			2			2			2			2	10
(米国) College of the Canyons	派遣	1	Α		100	10		100	10		100	10		100	10		100	10	550
(米国) College of the Canyons	派遣	3	Α							1			1			1			;
(米国) College of the Canyons	受入	3	Α							1			1			1			;
(米国) College of the Canyons	受入	4	Α		30	2		30	1		30	1		30	1		30	1	156
(米国) College of the Canyons	受入	(5)	Α				1			1			1			1			
(米国) College of the Desert	派遣	1	Α		70	10		80	10		80	10		80	10		80	10	44
(米国) College of the Desert	派遣	3	Α							1			1			1			
(米国) College of the Desert	受入	3	Α							1			1			1			
(米国) College of the Desert	受入	4	Α		30	2		30	1		30	1		30	1		30	1	15
(米国) College of the Desert	受入	5	Α				1			1			1			1			
(米国) Kapi'olani Community College	派遣	1	Α	2			2			2			2			2			1
(米国) Kapi'olani Community College	派遣	3	Α							1			1			1			
(米国) Kapi'olani Community College	受入	3	Α							1			1			1			
(米国) Kapi'olani Community College	受入	4	Α			2			1			1			1			1	
(米国) Kapi'olani Community College	受入	(5)	Α				1			1			1			1			
(カナダ*) Vancouver Island University	派遣	3	Α							1			1			1			
(カナダ*) Vancouver Island University	受入	3	Α							1			1			1			
(カナダ*) Vancouver Island University	受入	4	Α			2			1			1			1			1	
(カナダ*) Vancouver Island University	受入	5	Α				1			1			1			1			
(マレーシア) Universiti Utara Malaysia	派遣	3	Α							2			2			2			
(マレーシア) Universiti Utara Malaysia	受入	3	Α							1			1			1			
(マレーシア) Universiti Utara Malaysia	受入	4	Α			2			1			1			1			1	
(マレ-シア) Universiti Utara Malaysia	受入	(5)	Α				1			1			1			1			

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	5年間合計		
全学収容定員数※(C)	3,190	3,260	3,260	3,260	3,260	16,230	3,246	収容定員平均
対米国派遣人数合計(D)	192	202	206	206	206	1,012	202	対米国派遣人数 平均
対米国派遣人数合計(D)/ 全学収容定員数※(C)	6.02%	6.20%	6.32%	6.32%	6.32%	6.24%	6.0%	交流割合平均 基準値
(参考)対米国派遣人数 基準値	191	196	196	196	196	974		_

※1:学則に定める大学全体の収容定員数のうち、日本人学生の数 ※2:①米国に実渡航した日本人学生数(各プログラム参加数を延べ人数でカウント)、②オンラインで米国の学生等と交流した日本人学生数(1年間で複数のプログラムに参加した場合は1カウント)及び③実渡航とオンラインのハイブリッドで米国の学生等と交流した日本人学生数の計

2. 【国内連携大学等】 **模式2**

	大学名					採択	実績													
l	交流プログラム名 (相手大学名)	交流	交流形態	学生別	2	2023年月	ŧ	2	024年月	ŧ	2	2025年月	/HF	2	026年月	隻	2	027年月	度	合計
	(相手大学名)	方向	形態	于土加	実	オ	/\	実	オ	/\	実	オ	/\	実	オ	/\	実	オ	Λ	
l		派遣																		0
		受入																		0
l		派遣																		0
l		受入																		0

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	5年間合計		_
全学収容定員数※(C)						0	#DIV/0!	収容定員平均
対米国派遣人数合計(D)						0	#DIV/0!	対米国派遣人数 平均
対米国派遣人数合計(D)/ 全学収容定員数※(C)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	0.0%	交流割合平均 基準値
(参考) 対米国派遣人数 基準値	0	0	0	0	0	0		-

(大学名: 関西国際大学) (タイプ: A)

【日本人学生の派遣】		2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	合計
年度別合計人数	学生別	192	202	209	209	209	1021
【交流形態別 内訳】							
① 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流		192	202	202	202	202	1000
実渡航		2	2	2	2	2	10
オンライン		170	180	180	180	180	890
ハイブリッド		20	20	20	20	20	100
② 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		0	0	0	0	0	0
実渡航		0	0	0	0	0	0
オンライン		0	0	0	0	0	0
ハイブリッド		0	0	0	0	0	0
③ 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		0	0	7	7	7	21
実渡航		0	0	7	7	7	21
オンライン		0	0	0	0	0	0
ハイブリッド		0	0	0	0	0	0
④ 上記以外の交流期間30日未満の交流		0	0	0	0	0	0
実渡航		0	0	0	0	0	0
オンライン		0	0	0	0	0	0
ハイブリッド		0	0	0	0	0	0
⑤ 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		0	0	0	0	0	0
実渡航		0	0	0	0	0	0
オンライン		0	0	0	0	0	0
ハイブリッド		0	0	0	0	0	0
⑥ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0	0	0	0	0	0
実渡航		0	0	0	0	0	0
オンライン		0	0	0	0	0	0
ハイブリッド		0	0	0	0	0	0

(大学名: 関西国際大学) (タイプ: A)

模式2

【外国.	人学生の受入】		2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	合計
	年度別合計人数	学生別						378
【交流形態兒	別 内訳】		1			ļ.		
 単位取 	得を伴う交流期間30日未満の交流		0	0	0	0	0	0
[実渡航		0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0
② 単位取行	得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0
③ 単位取行	得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		0	0	6	6	6	18
	実渡航		0	0	6	6	6	18
	オンライン		0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0
④ 上記以外	外の交流期間30日未満の交流		72	67	67	67	67	340
	実渡航		0	0	0	0	0	0
	オンライン		60	60	60	60	60	300
	ハイブリッド		12	7	7	7	7	40
⑤ 上記以外	外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		0	5	5	5	5	20
	実渡航		0	5	5	5	5	20
	オンライン		0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0
⑥ 上記以外	外の交流期間3ヶ月以上の交流		0	0	0	0	0	0
[実渡航		0	0	0	0	0	0
	オンライン		0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0

(大学名: 関西国際大学) (タイプ: A)

(iv)派遣・受入別 交流プログラム学生数の詳細

①日本人学生の派遣【計画】

年							乔法由索			办法学		(内訳)	
度	交	流其	明間	派遣元大学	派遣先大学	派遣相手国	交流内容 (交流プログラム名等)	交流形態	学生別	交流学 生数	実渡航	オンライン	ハイブリッド
23	12月上旬	~	12月下旬	関西国際大学	College of the Canyons	米国	A. 共通基盤学習	①:単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	А	100		100	
23	12月上旬	~	12月下旬	関西国際大学	College of the Desert	米国	A. 共通基盤学習	①:単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	Α	70		70	
23	1月下旬	~	2月下旬	関西国際大学	College of the Canyons	米国	B. COIL型短期交流研修	①:単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	Α	10			10
23	1月下旬	~	2月下旬	関西国際大学	College of the Desert	米国	B. COIL型短期交流研修	①:単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	Α	10			10
23	3月上旬	~	3月下旬	関西国際大学	Kapi'olani Community College	米国	C. 実践型体験学習	①:単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	А	2	2		
24	12月上旬	~	12月下旬	関西国際大学	College of the Canyons	米国	A. 共通基盤学習	①:単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	А	100		100	
24	12月上旬	~	12月下旬	関西国際大学	College of the Desert	米国	A. 共通基盤学習	①:単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	А	80		80	
24	1月下旬	~	2月下旬	関西国際大学	College of the Canyons	米国	B. COIL型短期交流研修	①:単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	Α	10			10
24	1月下旬	~	2月下旬	関西国際大学	College of the Desert	米国	B. COIL型短期交流研修	①:単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	Α	10			10
24	3月上旬	~	3月下旬	関西国際大学	Kapi'olani Community College	米国	C. 実践型体験学習	①:単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	А	2	2		
25	9月上旬	~	2月下旬	関西国際大学	California State University Fullerton	米国	D. セメスター以上の留学	③:単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	А	1	1		
25	9月上旬	~	2月下旬	関西国際大学	College of the Canyons	米国	D. セメスター以上の留学	③:単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	А	1	1		
25	9月上旬	~	2月下旬	関西国際大学	College of the Desert	米国	D. セメスター以上の留学	③:単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	Α	1	1		
25	9月上旬	~	2月下旬	関西国際大学	Kapi'olani Community College	米国	D. セメスター以上の留学	③:単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	А	1	1		
25	9月上旬	~	2月下旬	関西国際大学	Vancouver Island University	カナダ	D. セメスター以上の留学	③:単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	А	1	1		
25	9月上旬	~	2月下旬	関西国際大学	Universiti Utara Malaysia	マレーシア	D. セメスター以上の留学	③:単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	Α	2	2		
25	12月上旬	~	12月下旬	関西国際大学	College of the Canyons	米国	A. 共通基盤学習	①:単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	Α	100		100	
25	12月上旬	~	12月下旬	関西国際大学	College of the Desert	米国	A. 共通基盤学習	①:単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	Α	80		80	
25	1月下旬	~	2月下旬	関西国際大学	College of the Canyons	米国	B. COIL型短期交流研修	①:単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	Α	10			1
25	1月下旬	~	2月下旬	関西国際大学	College of the Desert	米国	B. COIL型短期交流研修	①:単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	Α	10			1
25	3月上旬	~	3月下旬	関西国際大学	Kapi'olani Community College	米国	C. 実践型体験学習	①:単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	Α	2	2		
26	9月上旬	~	2月下旬	関西国際大学	California State University Fullerton	米国	D. セメスター以上の留学	③:単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	Α	1	1		
26	9月上旬	~	2月下旬	関西国際大学	College of the Canyons	米国	D. セメスター以上の留学	③:単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	Α	1	1		
26	9月上旬	~	2月下旬	関西国際大学	College of the Desert	米国	D. セメスター以上の留学	③:単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	А	1	1		
26	9月上旬	~	2月下旬	関西国際大学	Kapi'olani Community College	米国	D. セメスター以上の留学	③:単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	Α	1	1		
26	9月上旬	~	2月下旬	関西国際大学	Vancouver Island University	カナダ	D. セメスター以上の留学	③:単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	Α	1	1		
26	9月上旬	~	2月下旬	関西国際大学	Universiti Utara Malaysia	マレーシア	D. セメスター以上の留学	③:単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	Α	2	2		
26	12月上旬	~	12月下旬	関西国際大学	College of the Canyons	米国	A. 共通基盤学習	①:単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	Α	100		100	
26	12月上旬	~	12月下旬	関西国際大学	College of the Desert	米国	A. 共通基盤学習	①:単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	Α	80		80	
26	1月下旬	~	2月下旬	関西国際大学	College of the Canyons	米国	B. COIL型短期交流研修	①:単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	А	10			10
26	1月下旬	~	2月下旬	関西国際大学	College of the Desert	米国	B. COIL型短期交流研修	①:単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	А	10			10
26	3月上旬	~	3月下旬	関西国際大学	Kapi'olani Community College	米国	C. 実践型体験学習	①:単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	А	2	2		
27	9月上旬	~	2月下旬	関西国際大学	California State University Fullerton	米国	D. セメスター以上の留学	③:単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	А	1	1		
27	9月上旬	~	2月下旬	関西国際大学	College of the Canyons	米国	D. セメスター以上の留学	③:単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	А	1	1		
27	9月上旬	~	2月下旬	関西国際大学	College of the Desert	米国	D. セメスター以上の留学	③:単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	А	1	1		
27	9月上旬	~	2月下旬	関西国際大学	Kapi'olani Community College	米国	D. セメスター以上の留学	③:単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	А	1	1		
27	9月上旬	~	2月下旬	関西国際大学	Vancouver Island University	カナダ	D. セメスター以上の留学	③:単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	А	1	1		
27	9月上旬	~	2月下旬	関西国際大学	Universiti Utara Malaysia	マレーシア	D. セメスター以上の留学	③:単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	А	2	2		
27	12月上旬	~	12月下旬	関西国際大学	College of the Canyons	米国	A. 共通基盤学習	①:単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	А	100		100	
27	12月上旬	~	12月下旬	関西国際大学	College of the Desert	米国	A. 共通基盤学習	①:単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	А	80		80	
27	1月下旬	~	2月下旬	関西国際大学	College of the Canyons	米国	B. COIL型短期交流研修	①:単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	А	10			10
27	1月下旬	~	2月下旬	関西国際大学	College of the Desert	米国	B. COIL型短期交流研修	①:単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	А	10			10
27	3月上旬	~	3月下旬	関西国際大学	Kapi'olani Community College	米国	C. 実践型体験学習	①:単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	Α	2	2		

(大学名: 関西国際大学) (タイプ: A

年	٠ ـــــــ ٠	≠ #	969	海津二十半	派津和大臣	派津井工学	交流内容		₩ # D"	交流学		(内訳)	
度	交流		明間	派遣元大学	派遣相手国	派遣先大学	(交流プログラム名等)	交流形態	学生別	生数	実渡航	オンラ イン	ハリ
23	12月上旬	~	12月下旬	College of the Canyons	米国	関西国際大学	A. 共通基盤学習	④:上記以外の 交流期間30日未満の交流	А	30		30	
23	12月上旬	?	12月下旬	College of the Desert	米国	関西国際大学	A. 共通基盤学習	④:上記以外の 交流期間30日未満の交流	А	30		30	
23	1月下旬	~	2月下旬	California State University Fullerton	米国	関西国際大学	B. COIL型短期交流研修	④:上記以外の 交流期間30日未満の交流	Α	2			
23	1月下旬	?	2月下旬	College of the Canyons	米国	関西国際大学	B. COIL型短期交流研修	④:上記以外の 交流期間30日未満の交流	Α	2			
23	1月下旬	?	2月下旬	College of the Desert	米国	関西国際大学	B. COIL型短期交流研修	④:上記以外の 交流期間30日未満の交流	Α	2			
23	1月下旬	~	2月下旬	Kapi'olani Community College	米国	関西国際大学	B. COIL型短期交流研修	④:上記以外の 交流期間30日未満の交流	Α	2			
23	1月下旬	~	2月下旬	Vancouver Island University	カナダ	関西国際大学	B. COIL型短期交流研修	④:上記以外の 交流期間30日未満の交流	А	2			
23	1月下旬	~	2月下旬	Universiti Utara	マレーシア	関西国際大学		④:上記以外の 交流期間30日未満の交流	А	2			
24	12月上旬	~	12月下旬	Malaysia College of the	米国	関西国際大学	B. COIL型短期交流研修	④:上記以外の 交流期間30日未満の交流	А	30		30	
24	12月上旬		12月下旬	Canyons College of the	米国	関西国際大学	A. 共通基盤学習	④:上記以外の	A	30		30	
24	1月下旬		2月下旬	Desert California State	米国	関西国際大学	A. 共 <u>通基盤学習</u>	交流期間30日未満の交流 ④:上記以外の	A	2		-	F
24		~		University Fullerton College of the	米国		B. COIL型短期交流研修	交流期間30日未満の交流 ④:上記以外の	A	1			
	1月下旬	~	2月下旬	Canyons College of the		関西国際大学	B. COIL型短期交流研修	交流期間30日未満の交流 ④:上記以外の		1			H
24	1月下旬	~	2月下旬	Desert	米国	関西国際大学	B. COIL型短期交流研修	交流期間30日未満の交流 ④:上記以外の	А	1			L
24	1月下旬	~	2月下旬	Kapi'olani Community College	米国	関西国際大学	B. COL型短期交流研修	交流期間30日未満の交流 ④:上記以外の	А	1			L
24	1月下旬	~	2月下旬	Vancouver Island University	カナダ	関西国際大学	B. COIL型短期交流研修	交流期間30日未満の交流	А	1			
24	1月下旬	~	2月下旬	Universiti Utara Malaysia	マレーシア	関西国際大学	B. COL型短期交流研修	④:上記以外の 交流期間30日未満の交流	А	1			
24	1月下旬	~	3月下旬	College of the Canyons	米国	関西国際大学	C. 実践型体験学習	⑤:上記以外の交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	Α	1	1		
24	1月下旬	~	3月下旬	College of the Desert	米国	関西国際大学	C. 実践型体験学習	⑤:上記以外の交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	А	1	1		
24	1月下旬	?	3月下旬	Kapi'olani Community College	米国	関西国際大学	C. 実践型体験学習	⑤:上記以外の交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	Α	1	1		
24	1月下旬	~	3月下旬	Vancouver Island University	カナダ	関西国際大学	C. 実践型体験学習	⑤:上記以外の交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	Α	1	1		
24	1月下旬	~	3月下旬	Universiti Utara Malaysia	マレーシア	関西国際大学	C. 実践型体験学習	⑤:上記以外の交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	А	1	1		
25	9月上旬	~	2月下旬	California State	米国	関西国際大学		③:単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	А	1	1		l
25	9月上旬	~	2月下旬	University Fullerton College of the	米国	関西国際大学	D. セメスター以上の留学	③:単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	А	1	1		l
25	9月上旬		2月下旬	Canyons College of the	米国	関西国際大学	D. セメスター以上の留学	③:単位取得を伴う	A	1	1		F
25	9月上旬	_	2月下旬	Desert Kapi'olani Community	米国	関西国際大学	D. セメスター以上の留学	交流期間3ヶ月以上の交流 ③:単位取得を伴う	A	1	1		H
		~		College Vancouver Island			D. セメスター以上の留学	交流期間3ヶ月以上の交流 ③:単位取得を伴う	1	1	1		H
25	9月上旬	?	2月下旬	University Universiti Utara	カナダ	関西国際大学	D. セメスター以上の留学	交流期間3ヶ月以上の交流 ③:単位取得を伴う	Α .		- 1		H
25	9月上旬	~	2月下旬	Malaysia College of the	マレーシア	関西国際大学	D. セメスター以上の留学	交流期間3ヶ月以上の交流 ④:上記以外の	A	1	1		
25	12月上旬	?	12月下旬	Canyons	米国	関西国際大学	A. 共通基盤学習	交流期間30日未満の交流 ④:上記以外の	A	30		30	H
25	12月上旬	~	12月下旬	College of the Desert	米国	関西国際大学	A. 共通基盤学習	交流期間30日未満の交流 ④:上記以外の	A	30		30	
25	1月下旬	~	2月下旬	California State University Fullerton	米国	関西国際大学	B. COIL型短期交流研修	交流期間30日未満の交流 ④:上記以外の	Α	2			
25	1月下旬	~	2月下旬	College of the Canyons	米国	関西国際大学	B. COIL型短期交流研修	交流期間30日未満の交流	Α	1			
25	1月下旬	~	2月下旬	College of the Desert	米国	関西国際大学	B. COIL型短期交流研修	④:上記以外の 交流期間30日未満の交流	Α	1			
25	1月下旬	?	2月下旬	Kapi'olani Community College	米国	関西国際大学	B. COIL型短期交流研修	④:上記以外の 交流期間30日未満の交流	Α	1			
25	1月下旬	~	2月下旬	Vancouver Island University	カナダ	関西国際大学	B. COIL型短期交流研修	④:上記以外の 交流期間30日未満の交流	Α	1			
25	1月下旬	?	2月下旬	Universiti Utara Malaysia	マレーシア	関西国際大学	B. COIL型短期交流研修	④:上記以外の 交流期間30日未満の交流	А	1			
25	1月下旬	~	3月下旬	College of the Canyons	米国	関西国際大学	C. 実践型体験学習	⑤:上記以外の交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	Α	1	1		
25	1月下旬	~	3月下旬	College of the Desert	米国	関西国際大学	C. 実践型体験学習	⑤:上記以外の交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	А	1	1		İ
25	1月下旬	~	3月下旬	Kapi'olani Community	米国	関西国際大学	C. 実践型体験学習	⑤:上記以外の交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	А	1	1		T
25	1月下旬	~	3月下旬	Vancouver Island	カナダ	関西国際大学		⑤:上記以外の交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	А	1	1		t
25	1月下旬	~	3月下旬	University Universiti Utara	マレーシア	関西国際大学	C. 実践型体験学習	⑤:上記以外の交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	A	1	1		H
26	9月上旬	F	2月下旬	Malaysia California State	米国	関西国際大学	C. 実践型体験学習	③:単位取得を伴う	A	1	1		H
26		_		University Fullerton College of the		関西国際大学	D. セメスター以上の留学	交流期間3ヶ月以上の交流 ③:単位取得を伴う	A	1	1		H
	9月上旬	~	2月下旬	Canyons College of the	米国		D. セメスター以上の留学	交流期間3ヶ月以上の交流 ③:単位取得を伴う		1	1		L
26	9月上旬	~	2月下旬	Desert	米国	関西国際大学	D. セメスター以上の留学	交流期間3ヶ月以上の交流 ③:単位取得を伴う	A				L
26	9月上旬	~	2月下旬	Kapi'olani Community College	米国	関西国際大学	D. セメスター以上の留学	交流期間3ヶ月以上の交流 ③:単位取得を伴う	A	1	1		L
26	9月上旬	~	2月下旬	Vancouver Island University	カナダ	関西国際大学	D. セメスター以上の留学	②・単位取得を行う 交流期間3ヶ月以上の交流 ③:単位取得を伴う	Α	1	1		L
26	9月上旬	~	2月下旬	Universiti Utara Malaysia	マレーシア	関西国際大学	D. セメスター以上の留学	交流期間3ヶ月以上の交流	А	1	1		L
26	12月上旬	~	12月下旬	College of the Canyons	米国	関西国際大学	A. 共通基盤学習	④:上記以外の 交流期間30日未満の交流	А	30		30	
26	12月上旬	~	12月下旬	College of the Desert	米国	関西国際大学	A. 共通基盤学習	④:上記以外の 交流期間30日未満の交流	Α	30		30	
26	1月下旬	_	2月下旬	California State University Fullerton	米国	関西国際大学	B. COL型短期交流研修	④:上記以外の 交流期間30日未満の交流	А	2			ĺ
26	1月下旬	~	2月下旬	College of the Canyons	米国	関西国際大学	B. COIL型短期交流研修	④:上記以外の 交流期間30日未満の交流	Α	1			
26	1月下旬	~	2月下旬	College of the Desert	米国	関西国際大学	B. COIL型短期交流研修	④:上記以外の 交流期間30日未満の交流	А	1			İ
26	1月下旬	~	2月下旬	Kapi'olani Community	米国	関西国際大学	B. COIL型短期交流研修	④:上記以外の 交流期間30日未満の交流	Α	1			T
		Η-	-	Vancouver Island	-	+	5. 70に土産物ス加切形	④:上記以外の	1				⊢

													様式2
年	办	法士	朝間	派遣元大学	派遣相手国	派遣先大学	交流内容	交流形態	学生別	交流学		(内訳)	
度	^	DIL7	411⊟1	派追允八子	派進祀子國	派塩ルバチ	(交流プログラム名等)		于土加	生数	実渡航	オンラ イン	ハイブ リッド
26	1月下旬	~	2月下旬	Universiti Utara Malaysia	マレーシア	関西国際大学	B. COLL型短期交流研修	④:上記以外の 交流期間30日未満の交流	А	1			1
26	1月下旬	~	3月下旬	College of the Canyons	米国	関西国際大学	C. 実践型体験学習	⑤:上記以外の交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	А	1	1		
26	1月下旬	~	3月下旬	College of the Desert	米国	関西国際大学	C. 実践型体験学習	⑤:上記以外の交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	А	1	1		
26	1月下旬	~	3月下旬	Kapi'olani Community College	米国	関西国際大学	C. 実践型体験学習	⑤:上記以外の交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	А	1	1		
26	1月下旬	~	3月下旬	Vancouver Island University	カナダ	関西国際大学	C. 実践型体験学習	⑤:上記以外の交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	А	1	1		
26	1月下旬	~	3月下旬	Universiti Utara Malavsia	マレーシア	関西国際大学	C. 実践型体験学習	⑤:上記以外の交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	А	1	1		
27	9月上旬	~	2月下旬	California State University Fullerton	米国	関西国際大学	D. セメスター以上の留学	③:単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	А	1	1		
27	9月上旬	~	2月下旬	College of the Canyons	米国	関西国際大学	D. セメスター以上の留学	③:単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	А	1	1		
27	9月上旬	~	2月下旬	College of the Desert	米国	関西国際大学	D. セメスター以上の留学	③:単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	А	1	1		
27	9月上旬	~	2月下旬	Kapi'olani Community College	米国	関西国際大学	D. セメスター以上の留学	③:単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	А	1	1		
27	9月上旬	~	2月下旬	Vancouver Island University	カナダ	関西国際大学	D. セメスター以上の留学	③:単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	А	1	1		
27	9月上旬	~	2月下旬	Universiti Utara Malaysia	マレーシア	関西国際大学	D. セメスター以上の留学	③:単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	А	1	1		
27	12月上旬	~	12月下旬	College of the Canyons	米国	関西国際大学	A. 共涌基盤学習	④:上記以外の 交流期間30日未満の交流	А	30		30	
27	12月上旬	~	12月下旬	College of the Desert	米国	関西国際大学	A. 共涌基盤学習	④:上記以外の 交流期間30日未満の交流	А	30		30	
27	1月下旬	~	2月下旬	California State University Fullerton	米国	関西国際大学	B. COIL型短期交流研修	④:上記以外の 交流期間30日未満の交流	А	2			2
27	1月下旬	~	2月下旬	College of the Canyons	米国	関西国際大学	B. COL型短期交流研修	④:上記以外の 交流期間30日未満の交流	А	1			1
27	1月下旬	~	2月下旬	College of the Desert	米国	関西国際大学	B. COIL型短期交流研修	④:上記以外の 交流期間30日未満の交流	А	1			1
27	1月下旬	~	2月下旬	Kapi'olani Community College	米国	関西国際大学	B. COL型短期交流研修	④:上記以外の 交流期間30日未満の交流	А	1			1
27	1月下旬	~	2月下旬	Vancouver Island University	カナダ	関西国際大学	B. COIL型短期交流研修	④:上記以外の 交流期間30日未満の交流	А	1			1
27	1月下旬	~	2月下旬	Universiti Utara Malaysia	マレーシア	関西国際大学	B. COIL型短期交流研修	④:上記以外の 交流期間30日未満の交流	А	1			1
27	1月下旬	~	3月下旬	College of the Canvons	米国	関西国際大学	C. 実践型体験学習	⑤:上記以外の交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	А	1	1		
27	1月下旬	~	3月下旬	College of the Desert	米国	関西国際大学	C. 実践型体験学習	⑤:上記以外の交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	А	1	1		
27	1月下旬	~	3月下旬	Kapi'olani Community College	米国	関西国際大学	C. 実践型体験子首 C. 実践型体験学習	⑤:上記以外の交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	А	1	1		
27	1月下旬	~	3月下旬	Vancouver Island University	カナダ	関西国際大学	C. 実践型体験学習	⑤:上記以外の交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	А	1	1		
27	1月下旬	~	3月下旬	Universiti Utara Malavsia	マレーシア	関西国際大学	C. 実践型体験学習	⑤:上記以外の交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	А	1	1		

(大学名: 関西国際大学) (タイプ: A

⑧ 海外相手大学との単位互換について○ 海外相手大学との単位互換について適切な目標が設定されているか。

(i)単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位:校)

	2023	3年度	2024	·年度	202	5年度	2026	6年度	2027	'年度	合	計
単位互換を実施する	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
海外相手大学数	6	0	6	0	6	6	6	6	6	6	30	18

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名: 関西国際大学

		-						
相手大学名		学生別	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	合計
California State University Fullerton	認定者数	А			1	1	1	3
Gairfornia State Onliversity i unerton	認定単位数	А			16	16	16	48
College of the Canyons	認定者数	А	10	10	11	11	11	53
College of the Carryons	認定単位数	А	10	10	26	26	26	98
College of the Desert	認定者数	А	10	10	11	11	11	53
Obliege of the Desert	認定単位数	А	10	10	26	26	26	98
Kapi'olani Community College	認定者数	А	2	2	3	3	3	13
Kapi diani Goniniunity Gonege	認定単位数	А	2	2	18	18	18	58
Vancouver Island University	認定者数	А			1	1	1	3
valicouver island onliversity	認定単位数	А			16	16	16	48
Universiti Utara Malaysia	認定者数	А			2	2	2	6
Oniversiti Otala ivialaysia	認定単位数	А			32	32	32	96
年度別認定者数合訂	+		22	22	29	29	29	131
年度別認定単位合訂	+		22	22	134	134	134	446

2. 国内連携大学 【大学名:

相手大学名		学生別	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	合計
	認定者数							0
	認定単位数							0
年度別認定者数合記	t		0	0	0	0	0	0
年度別認定単位合計	ł		0	0	0	0	0	0

(大学名: 関西国際大学 (タイプ:

⑨ オンライン教育を受けた学生数の内、実渡航につながった学生数について○ オンライン教育を受けた学生数の内、実渡航につながった学生数(国別、学部・大学院別)について適切な目標が設定されているか。 (★)

学生別	Α	学部生
一工加	В	大学院生

関西国際大学 1. 代表申請大学 【大学名:

_ 1 . 代表申請大字 【大字名	1. 因四區	除人子						
交流プログラム名 (相手大学名)		学生別	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	合計
	実渡航した学生	А	0	0	1	1	1	3
California State University Fullerton	上記の内、実渡航 前にオンライン教 育を受けた学生	А	0	0	0	0	0	0
	実渡航した学生	А	10	10	11	11	11	53
College of the Canyons	上記の内、実渡航 前にオンライン教 育を受けた学生	А	10	10	10	10	10	50
	実渡航した学生	А	10	10	11	11	11	53
College of the Desert	上記の内、実渡航 前にオンライン教 育を受けた学生	А	10	10	10	10	10	50
	実渡航した学生	А	2	2	3	3	3	13
Kapi'olani Community College	上記の内、実渡航 前にオンライン教 育を受けた学生	А	0	0	0	0	0	0
	実渡航した学生	А	0	0	1	1	1	3
Vancouver Island University	上記の内、実渡航 前にオンライン教 育を受けた学生	А	0	0	0	0	0	0
	実渡航した学生	А	0	0	2	2	2	6
Universiti Utara Malaysia	上記の内、実渡航 前にオンライン教 育を受けた学生	А	0	0	0	0	0	0
実渡航した学:	生数合計		22	22	29	29	29	131
上記の内、実渡航前にオンライ	 ン教育を受けた学生	合計	20	20	20	20	20	100

【大学名: 2. 国内連携大学

交流プログラム名 (相手大学名)		学生別	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	合計
	実渡航した学生							0
	上記の内、実渡航 前にオンライン教 育を受けた学生							0
実渡航した学	生数合計		0	0	0	0	0	0
上記の内、実渡航前にオンライ	′ン教育を受けた学生	合計	0	0	0	0	0	0

(大学名: 関西国際大学 (タイプ:

⑩ 米国等との大学との間で実施する真に学び合う学修活動(アクティブラーニング等)数につ

	協働/共修学修活動 名称	開催年月	開催回数	参加人数	参加国
1	防災教育に関する日米比較/観光政策に 関する日米比較	2023年12月	1	70	米国
2	防災教育に関する日米比較/観光政策に 関する日米比較	2024年12月	1	90	米国
3	防災教育に関する日米比較/観光政策に 関する日米比較	2025年12月	1	80	米国
4	防災教育に関する日米比較/観光政策に 関する日米比較	2026年12月	1	100	米国
5	防災教育に関する日米比較/観光政策に 関する日米比較	2027年12月	1	90	米国

① 学生主催イベント・ワークショップの開催数、参加規模について。 ○ 学生主催イベント・ワークショップの開催数、参加規模(人数、参加国、実渡航・オンライン・ハイブリッド)について適切な目標が設定されているか。(★)

	実	実渡航
形態	オ	オンライン
	ハ	ハイブリッド

	イベント・ワークショップ名	形態	開催年月	開催回数	参加人数	参加国
1	観光ホスピタリティーをテーマ とする国際学生会議	実	2024年3月	1	70	米国/カナダ/マレー シア
2	安全・安心の社会基盤をテーマ とする国際学生会議	実	2025年3月	1	90	米国/カナダ/マレー シア
3	観光ホスピタリティーをテーマ とする国際学生会議	実	2026年2月	1	80	米国/カナダ/マレー シア
4	安全・安心の社会基盤をテーマ とする国際学生会議	実	2027年3月	1	100	米国/カナダ/マレー シア
5	観光ホスピタリティーをテーマ とする国際学生会議	実	2028年2月	1	90	米国/カナダ/マレー シア

(大学名: 関西国際大学) (タイプ: Α **⑫ インターンシップの実施計画について**(2023年度は事業開始以後の人数) ○ インターンシップを行う計画の場合は参加人数等(派遣・受入別、実渡航・オンライン・ハイブリッド、単位取得の有無や期間、学部・大学院別)について適切な目標が設定されているか。(★) (i)本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加する学生数 2025年度 2023年度 2024年度 2026年度 2027年度 合計 各年度の派遣及び受入合計人数 (交流期間、単位取得の有無等の 内訳は(iii)表参照) 派遣 受入 派遣 受入 派遣 受入 派遣 受入 派遣 受入 派遣 受入 10 20 実際に渡航する学生(以下「実渡航」) 2 10 20 自国にてインターンシップをオンラ インで受講する学生 (以下「オンライン」) 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」) 0 0 0 Ο Λ Ω Λ (ii) 国内大学及びプログラムごとのインターンシップに参加する学生数
 (子及びフロランムにという」。

 (1)
 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流

 (2)
 単位取得を伴う交流期間30日以上3つ月末満の交流

 (3)
 単位取得を伴う交流期間30日以上の交流

 (4)
 上起以外の交流期間30日以上の交流

 (5)
 上起以外の交流期間30日以上3つ月末満の交流

 (6)
 上起以外の交流期間30日以上3つ月末満の交流

 (7)
 1・野以外の交流期間30日以上3つ月末満の交流
 実 実液航 オ オンライン ハ ハイブリッド
 A
 学部生

 B
 大学院生
 学生別 ⑥ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流 【代表申請大学】 大学名 関西国際大学 2023年度 2024年度 2025年度 2026年度 2027年度 プログラム名 (相手大学名) 交流 方向 交流 形態 学生別 合計 オ 実 * オ オ オ 宔 宔 実 宔 Kapi'olani Community College 1 Α 2 2 2 10 派遣 College of the Canyons 受入 ⑤ Α 4 College of the Desert 受入 (5) Α 4 4 Kapi'olani Community College 受入 (5) Α Vancouver Island University 4 受入 (5) Α 1 Universiti Utara Malaysia Α 受入 (5) 【国内連携大学】 大学名 2024年度 2025年度 2026年度 2023年度 2027年度 プログラム名 (相手大学名) 交流 方向 交流 形態 学生別 合計 * 実 オ オ オ 実 オ 実 実 実 /\ /\ /\ $^{\prime}$ /\ 派遣 0 0 受入 0 派遣 0 受入

(大学名: 関西国際大学) (タイプ:・ A

	, »ı -1 1-	会加す	ス学生:	Mr (いっこ)	書.巫ュ	민 성 H	記の値
	・ソフに	2023	2024		2026	2027	
【日本人学生の派遣】		年度	年度	年度	年度	年度	合計
年度別合計人数	学生別	2	2	2	2	2	10
【交流形態別 内訳】		1					
① 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流		2	2	2	2	2	10
実渡航		2	2	2	2	2	10
オンライン							0
ハイブリッド							0
② 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		0	0	0	0	0	0
実渡航							0
オンライン							0
ハイブリッド							0
③ 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		0	0	0	0	0	0
実渡航							0
オンライン							0
ハイブリッド							0
④ 上記以外の交流期間30日未満の交流		0	0	0	0	0	0
実渡航							0
オンライン							0
ハイブリッド							0
L記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		0	0	0	0	0	0
実渡航							0
オンライン							0
ハイブリッド							0
(6) 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0	0	0	0	0	0
・ 実渡航	-	0	0	0	0	U	0
	1						_
オンライン	<u> </u>						0
ハイブリッド							0

(大学名: 関西国際大学 (タイプ:•

様式2

【外国人学生の受入】		2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	合計
年度別合計人数	学生別	0	5	5		5	20
【交流形態別 内訳】							
① 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流		0	0	0	0	0	0
実渡航							0
オンライン							0
ハイブリッド							0
② 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		0	0	0	0	0	0
実渡航							0
オンライン							0
ハイブリッド							0
③ 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		0	0	0	0	0	0
実渡航							0
オンライン							0
ハイブリッド							0
④ 上記以外の交流期間30日未満の交流		0	0	0	0	0	0
実渡航							0
オンライン							0
ハイブリッド							0
⑤ 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		0	5	5	5	5	20
実渡航			5	5	5	5	20
オンライン							0
ハイブリッド							0
⑥ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0	0	0	0	0	0
実渡航							0
オンライン							0
ハイブリッド							0
<u> </u>	1						<u> </u>

(大学名: 関西国際大学) (タイプ: A

③ 質の保証を伴った交流プログラムの実現について【1ページ以内】

○ 質の保証を伴った交流プログラムの実現に向けて選択した、以下の少なくとも1つ以上について、適切な目標が設定されているか。(★) ①国際共同学位プログラム(JD や DD)を構築し、事業開始5年目までに実施 ②AP(アドバンスト・プレースメント)科目の導入により、高校から学部、学部から大学院進学に繋がるような仕組みの構築 ③授業料の相互不徴収 ④学位やマイクロクレデンシャルの国際通用性の観点も含めた電子化の推進(デジタルバッジの活用等)

⑤企業や自治体等と協力し、留学生(日本人・外国人)の卒業後の進路に繋がるようなインターンシップの実施

(設定指標)

	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	合計
(指標1)国際編入制度を 2024 年度に導入 し、2026 年度までに共同学位の制度化		編入 制度	編入	編入	共同 学位	共同 学位
(指標2)COC による高校生向け単位認定 プログラムは初年度から告知。	告知	継続	継続	継続	継続	継続
(指標3)すでに2校と授業料不徴収の協 定済。5年間で協定大学を拡大する	2 校	2 校	4 校	4 校	5 校	5 校
(指標4)デジタルバッジは初年度から発行する。2 年目に MC を発行する。	34	34	47	47	47	209
(指標5)2企業、3団体とインターンシップの提携済で、2024年度から実施する		7	7	7	7	7

【計画内容】①本学では国際編入制度が確立し実績もある。コミュニティー・カレッジ 3 校からの編入制度を確立することには時間を要しない。②提携大学(COC)では国外の高校生にオンラインで授業配信するシステムがあり、この仕組みを UMAP 参加国に告知するほか、各校で同様の制度を整備する。③授業料不徴収は 2 大学と提携済。④昨年度にデジタルバッジの発行実績がある。2023 年度は MC 発行を開始する。⑤インターンシップはすでにパソナ、JTBから正式受入れが決定している。送り出しも参加大学が全面的に協力が得られている。

⑭ ⑬以外の、学内・学外への事業の波及効果について【1ページ以内】

○ 学内・学外への事業の波及効果を示す指標(例:事業開始後、学内他部局・国内連携大学における、海外相手国との大学間 交流協定数や学生・研究者交流数(オンライン含む)の推移)について適切な目標が設定されているか。(★)

(設定指標)

	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	合計
(指標1)文科省、UMAP 日本国内委員会と 連携し、UMAP 参加大学増大に貢献する		2	5	5	8	8
(指標2) CCID に協力し、米国内の UMAP 参加大学増大に貢献する(数字は新規加盟 大学数)	3	5	5	10	10	10
(指標3)CULCON, Diversity Abroad からの 助言を得て、マイノリティー学生の留学を 支援する。本事業参加学生の40%がマイノ リティー学生となるように配慮する。	5	5	7	8	8	8
(指標4)社会人向け研修プログラムを企画するなど、非伝統的な年齢層に海外学習体験を提供する			研修	研修	研修	研修
(指標5)日米姉妹都市協会の協力を得て、自治体・業界団体・企業などを交えた 産官学の国際交流に貢献する			ベトイン	ベトイン	イトント	イベント

【計画内容】本事業は波及効果として、①30 年の歴史を持つ UMAP を活性化することでアジア太平洋の学生交流の活性化に貢献、②マイノリティー学生、社会人など学習者の多様化を進める、③産官学の国際交流を促進する、という成果を上げることを目標としている。

⑤ 加点事項に関する取組【2ページ以内】

【実績・準備状況】

- 1)本学は令和4年度の展開力事業の採択を受けて、英国、カナダ、インド、オーストラリアを交えた5か国の国際協働プロジェクトとして、国際的な視点をもった起業家育成プロジェクトに取り組んでいる。起業家としてノウハウやマインドセットを学ぶ共通カリキュラム、「ベンチャー・メーカーズ」をオンラインと対面で学習しながら、国際混成チームで神戸またはシドニーでの起業プロジェクトに参画し、学生たちは合同で最終ピッチを行うなど異文化協働体験を深化させてきた。
- 2)本学は、阪神淡路大震災の経験を経て、防災を大学全体のプロジェクトとして推進しており、カリキュラムの中で重視してきた。その結果、2019年から2022年の間に、防災士の資格を有する学生1,475人が誕生した。また、東南アジアの14大学とACP(Asian Cooperative Program)を形成し、アジア全体で防災・減災を考える協働プログラムを主幹してきた。本事業でもこの実績と経験を活かしていく。
- 3)本学は多様な高大連携プロジェクトを行ってきた歴史があり、定期的に授業を提携高校の生徒に公開しているが、高校側の学事日程などの問題もあり、正式に単位を発行するところまで至っていない。一方、今回の提携大学のうち、COC(College of the Canyons)は米国内外の高校生がオンラインで授業を履修できるように、GOL(Global Online Learning)というシステムを導入しており、履修後に得られた単位は COC以外のカリフォルニアのすべての公立大学で認定されている。本事業ではこのシステムを広くUMAP参加国の高校生に告知するとともに、参加大学全体で取り組んでいる高校生向けプログラムの情報を集約して公開していく方向である。
- 4)本学では、国際転編入制度が運用されており、この制度を活用した国際共同学位を 290 件、授与した 実績がある。
- 5)本学では ACP などアジアの大学との連携により、実践型体験学習、グローバル・スタディー(GS)を年間 15 件以上取り組んできた実績がある。
- 6)本学、VIU(カナダ)、UUM(マレーシア)の3大学は、すでにUMAPに加盟しており、個別大学同士によるバイラテラルな交流を越えて、コンソーシアムに参加する意義を十分理解している。米国では2022にCCIDが正式にUMAP国内事務局になり、CCID年次総会および理事会においてUMAP加盟のメリットを情報共有した。
- 7)本事業においては、4 か国の学生が実践的な体験協働学習に能動的に取り組むことで合意しており、 具体的なアクションプランや提言、新規事業の提案などにコミットすることが求められている。
- 8) 本学では、2009 年よりルーブリックを活用した学習成果分析をおこなっており、E ポートフォリオを有効活用することで効果的に学生自身がリフレクション(振り返り)を行うことができるようにカリキュラム設計をしている。
- 9) 本学は、マイクロクレデンシャル(MC)に関わる国際ワークショップ(ユネスコ・文科省共催)の会場校となるなど、MC に関わる知見を集積してきた。また、2023 年 3 月には Western Sydney 大学との協働プログラムでデジタルバッジの発行をおこなった実績がある。このデジタルバッジはアセスメントなどに要件を明示することで MC と認定しうるものである。

【計画内容】

- 1) 本事業では、オンラインによる共通基盤学習を通じて、参加学生にデータ・サイエンスを使った分析能力などを強化する機会を提供する。そのうえで、短期研修もしくは3週間から6週間の中期研修において、国際混成学生チームが、観光関連のデジタル・マーケティング、新規事業アイデアなどをPBL方式で取り組み、最終発表を行う。
- 2) 本事業では安全・安心の社会基盤構築を目標とする、防犯・防災のための実践的プロジェクトをメインの課題としてとりあげている。もう一つのテーマである観光ホスピタリティー分野においても、「防犯・防災」による安全な社会の構築は根幹に関わる課題である。参加学生は社会課題である、防犯・防災に関して、異なる文化背景と文脈(コンテクスト)を理解しあいながら、国際協働プロジェクトに取り組んでいく。
- 3) COC (College of the Canyons)が高校生などを対象に公開しているオンライン授業、GOL (Globan Online Learning)を UMAP のネットワークを使ってアジア太平洋の高校生に告知する。UMAP のオンラインシステム USCO には、Fee Based Program (費用徴収型)を告知するカテゴリー(USCO Program C)があり、このシステムを使って告知をする。なお、2 年目以降には参加大学が高校生向けに取り組んでいる科目の情報を集約してまとめて公開していく。
- 4)これまでの実績に基づき、本事業でもまず、Community College からの国際編入制度を 2 年目に設定する。その後、共同学位(ダブル・ディグリー)の制度を 2027 年度(4 年目)から開始する。

5)本事業でも、マレーシアでの防災 PBL 型研修、College of Canyons による防犯と犯罪心理学に関する研修、ハワイ、パームスプリング、などでのツーリズム協働学習、ナナイモでの中期インターンシップなどが準備され、現地学生との協働学習も多様に盛り込まれている。日本国内では、JTB とパソナが全面的に協力するとしており、関西主要都市、淡路島で日本人学生と留学生が協働するインターンシップおよび PBL が実施される。

令和5年 6月1日

学校法人濱名山手学院 関西国際大学 副学長 芦沢真五様

> 株式会社バソナ グローバル事業本部 グローバル淡路事業部長 山下 裕宜 03-6734-1270

令和5年度文部科学省「大学の世界展開力強化事業」申請事業にかかわる協力について

拝啓、

貴学が申請を予定されている表題の事業につきまして、お打合せをさせていただき、ありがとうございました。私どもとしては、海外からの学生を受け入れ、「観光ホスピタリティー」ならびに「安全・安心の社会基盤の構築」をテーマにかかげる国際協働教育をすすめることの趣旨に賛同させていただきます。つきましては、要望がありましたら、留学生をインターンとして受け入れ、インバウンド需要にかかわる分析、マーケティング調査などに私どものスタッフと協働していただくこと、などの取り組みを検討したいと存じます。また、淡路島におけるグループの関連事業についても、短期の訪問を受け入れるなどの取り組みも前向きに協力させていただきます。

以上、よろしくお願い申し上げます。

- 6)7 大学の協働学習の取り組みを Good Practice として情報発信し、他の UMAP 参加大学などに協働研修のモデルを共有する。これにより、UMAP 学生交流全般、ひいてはアジア太平洋の学生交流の活性化に貢献する。
- 7) 実践型体験学習は 4 か国の学生が連携して実施する計画であるため、協働学習のアウトプット(例えば、インバウンド観光に関わるマーケティング分析、英語によるツーリズムに関わる情報発信など)も深い異文化理解に基づいて提示される。このため、他大学にとっても協働教育のモデルとなりうるものである。
- 8) 本学におけるルーブリックの活用実績、ACP における共通ルーブリックの運用などの経験を 7 大学で共有してきた。本事業においても共同ルーブリックを設定していくことで合意している。
- 9)本事業においても、SSMH プログラム運営委員会において学習成果とアセスメントを明確に定義することにより、マイクロクレデンシャル(MC)の発行を推進していく。JV-Campus における MC 専門部会に本学教員が参画しているため、MC 発行に関わる知見とノウハウは蓄積されている。

外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備【①~③合わせて3ページ以内】

- ① 日本人学生の派遣のための環境整備
- 本事業の実施に伴う日本人学生の派遣の拡大に備え、留学支援員の配置、留学先や奨学金情報の提供、言語・生活サポート 等、大学における支援体制の整備が図られているか。
- 渡航前の日本人学生に対して、危機管理研修を義務付ける等、学生自身の危機管理意識・能力の向上のための教育を行っているか。
- 日本人学生に対して、派遣前から留学中、帰国後にわたり、履修指導、交流に関する情報の提供、相談サービスの実施、就職支援等のサポートが推進されているか。
- 単位認定可能な科目、履修体系・順序、単位の相互認定の手続、アカデミックカレンダーの相違・時差等について、学生の 履修に支障がないよう十分な情報提供を行う体制がとられているか。
- 国内外でのインターンシップ等による就業体験の機会確保や、日本人学生の現地就職説明会参加、産業界からの講師等の派遣等、産業界や自治体との連携が十分に図られているか。

【実績・準備状況】

本学では 2011 年より海外研修として「グローバルスタディプログラム」(GS)を実施している。学科教育 課程表の正課の科目として位置づけており、事前学習にて現状分析を行い、課題や問題点を設定し、現 地でのフィールドワークにより課題や問題点をより深く捉え、その解決に向けた視点と思考を育成することを目的にしている。帰国後の事後学習を経て、全 GS プログラム参加者による報告会を春学期および秋学 期終了後に実施し、各プログラムの活動内容を共有している。また、R4 年度に採択された世界展開力事業もこの GS プログラムに位置づけている。

各GSプログラムは担当教員が企画し、国際交流課の職員がサポートしている。事前説明会では、プログラムの内容、奨学金情報、参加申込方法、履修登録方法等について詳細な説明を行っている。

GS に参加するためには、前修条件として「リサーチ入門」を原則必須としており、現地における調査活動による成果がより高まるようにしている。なお、GSプログラムは夏学期、春学期に実施し、実施に当たっては、担当教員が派遣先の大学と派遣時期、派遣期間、プログラム内容について事前に協議し、学生の履修に支障が出ないようにしている。また、派遣までに英会話能力の向上を図るため、学内にグローバル学修プラザを設置し、英語ネイティブの英会話講師を3名配置して、無料でいつでも英会話のレッスンを受講できるようにしている。

また、研修への参加が決定した学生には、研修テーマに関する課題や専門用語についての事前学修 および危機管理講習への参加を義務付け、留学に必要な情報提供や学習面でのサポート等を行ってい る。交換留学等の長期プログラムによる派遣では、毎月留学報告書の提出を義務付け、履修や生活に関 する日常的な相談も国際交流課の職員が対応している。

また、本学は、留業務総合サポートシステム「RyuGO」を危機管理システムとして導入し、提携する保険会社への求償を行える体制を整えている。留学する学生はすべてこの危機管理システムへの登録を行っていることに加え、危機管理講習において危機管理ハンドブックを配布し、トラブル発生時に自ら対処することを意識させるとともに、緊急時のサポート体制についても情報提供と指導を行っている。

なお、GS プログラムの一つとして展開している「海外インターンシップ」プログラムでは、海外の企業や組織での体験機会の提供を行っており、事前学修においては産業界から1級キャリア・コンサルティング技能士(国家資格)保有の講師を招き、学内でビジネスマナー講座を行っている。

【計画内容】

本プログラムも GS プログラムの一つとして位置づける。このことから実績欄で記述した手順を踏まえ、事前説明会では、プログラムの内容、奨学金情報、参加申込方法、履修登録方法等について詳細な説明を行う。

成績評価に関しては、学科教育課程表の基盤教育に配置された「グローバルスタディI」を履修し、事前学習、派遣研修プログラム、事後学習および全 GS プログラム参加者による報告会での研修成果の発表をもとに評価が行われ、成績評価基準を満たした学生に1単位が付与される。

本プログラムを展開するに当たっては、世界展開力事業ワーキングを設置する。各学部より教員が参画 し、また国際交流課の職員も参画して教職協働により事業を推進していく。このワーキングの運営は世界

展開力事業部門長のリーダーシップの下に進める。

展開力ワーキングから研修担当教員を選出し、研修プログラムの実施期間、プログラム内容、宿舎、安全管理等に関して、海外協力大学の担当教員との間で十分調整していく。また、学生の派遣に当たっては、このワーキングメンバーの教員が引率し、研修プログラムを実際に体験して次回の改善に繋げるとともに学生の安全管理に努める。

国内外でのインターンシップ等による就業体験の機会確保に関しては、淡路島に本社を構え、地方創生に取り組むパソナグループから全面的な支援をいただけることが決まっており、インターンシップ生を受け入れてもらう。また、JTBの協力を得て、海外でのインターンシップ先も確保している。

② 外国人学生の受入のための環境整備

【実績・準備状況】

- ② 外国人学生の受入のための環境整備
- 本事業の実施に伴う外国人学生の受入の拡大に備え、支援員の配置、奨学金情報の提供、言語・生活サポート等、大学における支援体制の整備が図られているか。
- 外国人学生の在籍管理のための適切な体制が整備されているか。
- 受け入れた外国人学生に対し、履修指導、教育支援員・TA等の配置、学内外での諸手続き支援、カウンセリング、宿舎、 学内各種資料の翻訳、就職支援等のサポート体制の充実が図られているか。
- 単位認定可能な科目、履修体系・順序、単位の相互認定の手続、アカデミックカレンダーの相違・時差等について、学生の 履修に支障がないよう十分な情報提供を行う体制がとられているか。
- 国内外でのインターンシップ等による就業体験の機会確保や、外国人学生の国内就職説明会参加、産業界からの講師等の派 造等、産業界や自治体との連携が十分に図られているか。

本学では外国人留学生の在籍管理並びに奨学金支給、宿舎提供を含む生活支援など、留学生に関する幅広い業務を国際交流課の職員が担っている。外国人留学生が安心して勉学に励み生活できるよう、学内の各部局と協働し、地域住民や地方自治体等とも連携して多岐にわたり留学生サポートを実施している。とりわけ、留学生一人ひとりに対して学習面におけるサポートを行うアドバイザー教員がつき、これに加え国際交流課の職員が、アドバイザー教員と密な連携の下、勉学および生活面双方におけるサポートを行っている。また、国際交流課には中国籍の職員2名が在籍し、他の職員も英語運用能力を有しており、留学生の対応を万全に行っている。

また、学内のグローバル学修プラザには学生スタッフも配置し、交代で留学生のサポートに当たっている。同プラザが実施する留学生支援の取組は以下のとおりである。

- ●来日に関する手続のサポート、空港への出迎え、銀行・役所等での手続きをはじめとした新規渡 日留学生が新生活を始めるための支援。
- ●日本語力向上のためのサポートを含む学習支援。
- ●日本文化理解と日本人学生との交流を狙った各種イベントの開催。

さらに、各キャンパスに配置している本学キャリアサポート室には、留学生の就職活動サポート経験が豊富で在留資格制度にも詳しい相談員を配置し、留学生との個別面談や国内就職説明会に関する情報提供を行っている。特に、3年次からは留学生全員を対象とした個別面談を計3回実施し、一人ひとりの希望に合わせた就職・進学支援を行っている。また、留学生向けの就職ガイダンスを複数回開催し、産業界から講師を招聘してビジネスマナー講習を開講、企業でのインターンシップへと繋げている。早期から日本での就職活動を展開するためのノウハウを提供しており、本学卒業後に日本国内の企業等に着実に就職できるよう、産業界と連携しつつ留学生の就職支援に取り組んでいる。

【計画内容】

受け入れた留学生に対し、実績欄に記載した事項のほか、以下の取組を実施する。

1. 本事業で取り組むインターンシップ

本事業ではプロジェクトにおける学びの成果を実質化するため、段階的・体系的なインターンシップシップを実施する。グローバル観光ホスピタリティ分野に関しては、淡路島に本社を構え、地方創生に取り組むパソナグループからの全面的な支援が決まっており、インバウンド観光のインターンシップ生を受け入れてもらい、淡路島観光のインバウンド需要に関わる分析、マーケティング調査を行う。同様に JTB にもインバウンド観光に関わるインターンシップ生を受け入れてもらい、JTB が発行するオンライン情報誌の英語

版の編集を担当する。一方、防災・防犯分野に関しては、アジア防災センターの協力の下、防災に関わる 国際比較研究の調査分析をサポートしていく。また、日本を代表する防災教育を手掛ける NPO 法人プラス・アーツ、CODE 海外災害援助市民センターからもインターンシップ生の受け入れについて快諾をいただいている。

- 2. 留学生支援のための取組(既存学生向け)
- 以下は本学における留学生支援の取組であるが、本事業で受け入れる留学生にも開放する。
- (1)ビジネス日本語(既存学生向け)
 - ●ビジネス日本語科目を開講(本学神戸山手キャンパス/科目等履修生等を活用した受講制度を整備する。
- (2)メンター制度(既存学生向け)

日本企業・文化に対して早く馴染めるよう、インターンシップ運営にメンター制度を導入する。

(3)日本で就職した留学生と企業の交流会(既存学生向け)

企業には将来の留学生採用計画・育成方法を、本交流プログラム生にはキャリアプランの検討に役立つ情報を提供するため、国内で就職(内定を含む)をした留学生と雇用企業の交流会を行う。

③ 関係大学間の連絡体制の整備

- 学生へのサポートが円滑及び適切になされるよう、関係大学間に十分な連絡・情報共有体制が整備されているか。
- 学生の安全管理に関する体制や、緊急時、災害時に学生をサポートするリスク管理への配慮が十分になされているか。
- 大学間交流の発展に向け、参加学生の同窓会ネットワークの立ち上げ等、卒業・修了後の継続的サポート体制の構築等が図られているか。

【実績・準備状況】

本学は 2023 年 5 月末現在、世界 14 の国と地域 73 大学と大学間協定を締結しており、グローバル教育センターおよび国際交流課が協定大学窓口担当者管理リストに基づき、各大学の担当窓口を常に把握しつつ、密な連携を行っている。緊急時の対応のために派遣学生には「危機管理ハンドブック」、受入留学生には「留学の手引き」をオリエンテーション時に配布しており、緊急時には国際交流課または緊急携帯電話へ連絡する体制を整えている。また、学生派遣時には「海外旅行保険」およびアイラック危機管理システムの登録を徹底し、外国人学生の受入時には「学研災(付帯学総)・学研陪」の保険加入を徹底することで、緊急時や不慮の事故に対応できるよう配慮している。

学生派遣時においては、引率する教員は携帯電話およびインターネットに接続できるようモバイルルーターを携行し、現地学修中でも大学と連絡を取れるようにしている。

2020 年度からは留業務総合サポートシステム「RyuGO」を導入し、留学準備から帰国までの各種手続き 業務の効率化、危機管理、情報の一元管理ができるよう、システムを整備している。

【計画内容】

本プログラムの運営に当たっては、本学の国際交流課に専門の職員を配置し、各大学との連絡を担当する。具体的には、航空券の手配に関する事項、宿泊先の手配、移動経路の周知、生活案内、事前研修の案内、JASSO 奨学金給付に関する案内および成績などの確認を行う。同専門職員は、受け入れ学生の窓口になることに加え、インターンを配置して、受入学生のサポート強化を推進する。

また、本プログラムは、海外 6 大学との共同運営となるため、本学の教員および海外協力大学の教員で構成する SSHM プログラム推進委員会 〈Safety and Security & Hospitality Management〉を設置するが、学生の危機管理についてもこの委員会において確認していく。具体的には、危機管理担当者の選出、緊急時の連絡方法、対応手順などについて共通の認識を得る。

大学間交流の発展に向けて、参加学生および担当教員によるメッセージを日本語と英語でアーカイブ化し、本学のホームページおよび協力大学のホームページにも掲載し、在校生をはじめ高校生や社会人の方にいつでも本プログラムの活動状況が閲覧可能となるように整備していく。

事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及【①、②合わせて2ページ以内】

- ① 事業の実施に伴う大学の国際化
- 質の保証を伴った大学間交流の充実・発展のため、実施大学だけでなく国内外の他大学の学生も参加できる取組が設けられる等柔軟で発展的かつユニークなものとなっているか。
- 大学の国際化に向けた戦略的な目標等において、事業の意義及び方向性を明確に位置づけるとともに、国内連携大学・海外相手大学も含めた組織的・継続的な教育連携を実施する体制の構築が図られているか。
- 招聘した外国人教員や外国人学生とのコミュニケーションを図れる程度の能力を有する事務職員を配置することや、語学等に関する職員の研修プログラム等、事務体制の国際化と事務職員の能力向上を推進しているか。
- 交流にかかる業務が一部の教職員に偏らないよう、事務局機能を強化する等事業をサポートする全学的体制の充実が図られているか(窓口となる担当部署を設定し、教職員間の情報共有、意思疎通や各種問い合わせへの対応、事業運営上の関係者間の調整を行う等)。

【実績・準備状況】

本学は、2014 年 11 月に ACP (Asian Cooperate Program)という質の保証を伴った大学間コンソーシアムを発足させ、東南アジア 6 ヶ国 15 機関とコア・カリキュラムの整備を行ってきた。また、本学は「(社)大学コンソーシアムひょうご神戸」の理事兼加盟校となっており、他大学が展開する単位互換プログラムに本学学生が参加した際には、本学の単位を認定している。さらに、R4年度に採択された世界展開力事業では、神戸芸術工科大学および宮崎国際大学と連携し、また海外4大学と協力して事業を推進している。事業推進に当たっては、この参画大学関係者による「起業家育成国際協働カリキュラム委員会」を設置しており、毎年開催する研修プログラムに関する協議を年に数回行っている。なお、このプログラムで用いるカリキュラムは、JV キャンパスを通じて本年度中に公開していく予定である。

本学の国際化を推進する国際交流課には、中国籍の職員が2名在籍し、他の職員も英語運用能力を有しており、外国人とのコミュニケーションには問題が無い。また、本学はより組織的かつ継続的な教育連携実施体制の構築に努め、特定非営利法人国際教育交流協議会(JAFSA)が行う各種研修に職員を参加させることにより、英語力向上および国際業務に精通した職員を育成してきた。さらに、2018年から開始された国際教育夏季研究大会にも教職員も派遣するとともに、共催機関として運営に協力している。

このほか、グローバル教育センターの下に、「学生派遣部門」「留学生部門」「世界展開力部門」を組織的に配置し、それぞれの部門に教員の部門長を据え、全学横断的な体制が構築されている。このように、グローバル教育センターと国際交流課との教職協働体制が整備され、情報の共有、業務の一体化が行われている。

【計画内容】

本プログラムは UMAP を軸とした大学間のネットワークの強化を一つの目的としている。 UMAP には日本の大学 100 校以上が加盟しているが、アクティブに活動している大学は未だ少ないことが課題となっている。 したがって、本プログラムの取組状況を公表していくことにより、他大学が UMAP を積極的に活用するようになることが質の保証を伴った大学間交流の充実・発展に繋がると考えている。

また、本プログラムでは、高校生向けのプログラム提供も検討している。College of the Canyons (COC)では、GOL (Global Online Learning)という制度を使って、国外の高校生が同大学の授業をオンラインで受講し、取得した単位を大学進学後に認定するシステムを確立している。COC が展開する高校生プログラム (GOL)を UMAP オンラインシステム(USCO)により参加国に情報公開し、高校生への告知を進めていく。

本プログラムは、海外 6 大学との共同運営となるため、SSHM プログラム推進委員会 〈Safety and Security & Hospitality Management〉を設置する。この委員会では以下に関する事項を検討する。

- ① 教育プログラムの運営全般および UMAP をはじめ外部機関との連携強化に関する事項。
- ② オンラインによる共通基盤学習、PBL による実践型体験学習を通じて、データサイエンスなど DX を活用した学習形態に関する事項。
- ③ JV Campus と連携し、オンディマンド学習のプラットフォームとしての活用および成果を社会に還元する事項。また、学生の学習成果の可視化、マイクロクレデンシャルの共同発行に関する事項。
- ④ 派遣学生を選考する際にマイノリティー学生が参加しやすくする配慮に関する事項。
- ⑤ 学生の危機管理。

本事業の推進に当たって、プログラムコーディネータとして、国際交流課にスタッフを新たに雇用する。

雇用者は、スーパーグローバル大学創成支援もしくは世界展開力事業の国際的業務および補助金を用いた業務運営経験を有し、かつ語学が堪能な者とする。

② 国内外への情報提供の方法・体制、成果の普及

- 本事業の取組や成果について、ホームページ等による公表の他、報告会、発表会等の場を設けて、学内関係者のみならず他 大学や産業界等への普及を積極的に図るものとなっているか。
- 質を保証する観点や学生の適切な判断・選択に資する観点から、取組の実施状況等や交流プログラムの詳細等必要な情報について、外国語による提供も含め、積極的に情報の発信を行うものとなっているか。
- 中央教育審議会大学分科会国際的な大学評価活動に関するワーキンググループ「国際的な大学評価活動の展開状況や我が国の大学に関する情報の海外発信の観点から公表が望まれる項目の例」(平成22年5月)が掲げる、国際的な活動に特に重点を置く大学において公表が望まれる項目について、大学のグローバル化に向けた戦略的な国内外への教育情報の発信を行うものとなっているか。

【実績・準備状況】

関西国際大学は 2011 年より Off-Campus プログラム(学外体験型プログラム)として、ACP コンソーシアム加盟大学や、その他協定校をはじめとして多くの学生派遣を行っている。この海外体験型プログラムは「グローバルスタディ」として実施し、全プログラム終了後に報告会を実施し、修得が期待される知識・能力体系等の判断材料となる本学独自の「KUIS 学修ベンチマーク」を用いた自己評価を行うと共に、協力協定大学等からの報告を義務付けている。また、多国籍学生の受入プログラムにおいても、地域に向けた報告会を実施しており、こうした取組の実施状況については外国語(英語)での情報発信も含めてホームページで積極的に広報しており、本学のグローバル化に向けた教育情報の発信の一端を担っている。R4年度に採択された世界展開力事業では、研修成果の発表の場として国際学生起業家会議を開催し、高校生を含めた参加者 71 名の前で起業アイデアを発表した。このプレゼンテーションの模様を動画に収め、本学ホームページの日本語サイトおよび英語サイトにて公開している。

このように、本学のホームページでは大学教育の国際通用性の確保や人材育成等に関する社会のニーズへ的確に対応し、学生および教育内容の質を保証するため、教育の先進的な取組を整理し公開している。令和 4 年春に大学ホームページを全面改装し、英語ページでもステークホルダー向け情報発信を強化した。

【計画内容】

R4 年度に採択された世界展開力事業に関して、本学のホームページに特設サイトを構築し、積極的に情報を発信している。本プロジェクトにおいても同様に特設サイトを構築する。現在の特設サイトは、Overview(大学の世界展開力事業とは)、Interview(プロジェクトリーダーインタビュー)、Activity Report (活動報告)、News(お知らせ)を日英言語で構成しており、活動報告では写真と動画を多用することにより研修内容をより身近に感じてもらうとともに理解を深められるように工夫している。本プロジェクトも同様な構成にしていく。

https://www.kuins.ac.jp/GlobalExpansion/#overview

本事業の概要をウェブサイトにて情報提供することにより、事業の透明性を保ち、国内外の大学、産業界などに向け、広く普及を図る。特に UMAP との連携に関する成果を公表していくことにより、UMAP に加盟する日本の大学に対して成功事例を示せるように工夫していく。これを契機に、各大学が UMAP を積極的に活用することにより、日本全体の大学間のネットワーク強化に資することが期待される。

このほか、国際教育夏季研究大会(SIIEJ (Summer Institute on International Education, Japan))のセッションを利用し、大学の国際的業務を担う教職員向けに、本取組の成果を発表していく。

相手大学名 カレッジ・オブ・ザ・キャニオンズ College of the Canyons (COC) (アメリカ)

① 交流実績(交流の背景)

2022 年 9 月に College of the Canyons (COC) の松本教授が本学を訪問し、交流の進め方について協議をおこなった。その結果、2022 年 12 月 16 月に包括 MOU を締結した。さらに、交換留学協定を 2023 年 1 月 25 日に締結している。

また、協定締結後も、本学が企画しているGS(Global Study)について、米国での事業運営に協力いただく方向で協議してきた。2023年6月現在、プログラムの内容、実施時期について意見交換をおこなっている。

② 交流に向けた準備状況

○ 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。

COC とは、すでに学生交流を進めることを 2022 年から協議をしており、上記のとおり 2023 年 1 月に協定書は締結済みである。

学生協定以外にも個別の専門領域での交流を進める方向で協議を継続し、2023 年 3 月には本学副学長が COC を訪問して、本事業の企画について協議をおこなった。

1) 防災・防犯に関連する分野の協力としては、COC のCriminal Justice部門と、本学心理学部の犯罪心理学の教員との連携のもと学生交流を推進することについて合意した。具体的な内容としては、COC 側から以下のように防犯・防災上の実際のケースを下にした専門的研修の提案を受けている。この提案を受けて、短期研修における協働学習に向けた詳細の協議を継続している。

<防犯・防災に関するLA 研修の趣旨>-大地震・暴動・銃乱射事件など実例から学ぶ

- Delivery of content may be conducted by subject matter experts assembled under the direction of COC Admin Justice faculty and Dept Chair, Larry Alvarez, using Admin Justice faculty and/or guest speakers or other Admin Justice Dept resources, as needed and/or available.
- Much of the content of these topics will be based on extensive expertise and best practices obtained from assignments within the Los Angeles Police Department (LAPD) and having been learned from events such as the 1984 World Olympics, the 1992 Los Angeles Rodney King Riots, the 1994 Northridge Earthquake, the 1997 North Hollywood Shootout, the 2000 Democratic National Convention, and numerous other incidents such as numerous major league sporting championship events, as well as countless other incidents of civil protest and unrest.

<防犯関連データ分析>

LA研修では、Intelligence Led Policingをテーマにとりあげ、防犯のためにどのようなデータ分析が意義をもつか、についても取り上げて。

2) COCのCurinary Arts(食文化・調理)部門が本事業に参加する。具体的には、日米を中心に学生たちはインバウンド観光における「食」がもつ役割について比較研究する。具体的には神戸・淡路島などにおける実践型体験学習(フィールドワーク、PBL、インターンシップなど)において、COCのCurinary Arts(食文化・調理)部門の学生が参加し、「食」に関するマーケティング分析、新規事業の提案プロジェクトなどを実施する。

相手大学名 (国名)

カレッジ・オブ・デ・ザート College of the Desert (COD)

(アメリカ)

① 交流実績(交流の背景)

カレッジオブデザート(アメリカ) College of the Desert (COD)との関わりは、2019 年 3 月 20 日(水)に Mr. Cody McCabe, Director of International Education, CODと、藤岡 哲子様(在大阪・神戸アメリカ合衆国領事館 商務アシスタント) が本学を来訪して以降、協定締結に向けての調整を進めていた。 2020 年 1 月 10 日の最終署名で両大学間の包括協定を締結して、本学から COD の学部正規課程、 ESL コースへの学生派遣などの議論を進めていたが、コロナ禍に影響により中断を余儀なくされた。

② 交流に向けた準備状況

○ 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。

2022年11月にCOD国際部長の Cody McCabe 氏と本学副学長が新規事業に関わる協議を開始し、COIL型の協働教育について協議を開始した。また、2023年3月には本学副学長が訪問して、本事業における具体的な協働プログラムについて打合せをおこなった。ホスピタリティー部門の国際協働プログラムでは、観光部門の Yolanda Bender 教授と協議を行い、以下のような研修を現地で実施することが合意されている。

1) Palm Spring、Palm Desert 周辺の観光事情を学ぶ短期研修(10 日間程度)

地域における観光ホスピタリティー・マネージメントの状況を概観し、顧客応対、マーケティング、ホテル 運営、イベント運営、飲食業マネージメントなどについて学ぶ。また、マーケティングや顧客サービスにおいて、データがどのように活用・分析されているか、を実践的に学習する。

2) Work Experience Education Program と同等の体験学習(3 週間から 6 週間)

COD では、学生の就労体験によって実践的な課題を学び、就業力を高める取り組みをおこなっており、 単位取得可能なプログラムが設定されている。海外からの学生は米国ビザ規制により、就労を伴う学習は できないが同等の学習成果が得られるように配慮する、としている。本事業では観光ホスピタリティーに特 化した Work Experience Education Program を提供するとしている。データを使ったシュミレーション、模擬 体験学習、現場での Shadowing などを通じて実践的体験学習を行う

<College of the Desert's Work Experience Education Program の目標>

- Get a glimpse into their chosen career field and receive career guidance from a faculty advisor
- Practice setting goals that are meaningful to their career readiness
- Learn how to use performance evaluations for continued growth and improvement
- Gain a better understanding of human relations in the workplace
- Network with professionals and future employers
- Apply 21st-century employability skills

3)社会人向けIR研修プログラム

上記1)2)とは別に、COD との提携により、観光ホスピタリティー業界の社会人などを対象に以下のような研修を企画する。本事業の3年目以降に、パイロット海外研修として実施する計画である。将来的には、海外研修のノウハウを蓄積し、本学として社会人向けに「観光ホスピタリティー研修」を立ち上げることを想定したものである。補助事業終了後も一定の収益をあげていくことを念頭においている。

<社会人向け IR 研修の概要>

Agua Caliente Resort Casino Spa Rancho Mirage という 16 階建ての総合リゾート施設における短期研修(5日間)を行う。カジノフロア、屋外プール、レストラン、フィットネスセンター、コンサート会場などがあり、実際のオペレーションを観察しながら、マネージャー、スタッフの話をきく。また、COD の実務家教員が準備したトレーニング(ケーススタディー、シュミレーションなど)を通じて、サービス環境や運営形態を学ぶことができる。

相手大学名 (国名)

ハワイ大学 カピオラニ・コミュニティカレッジ

University of Hawai'i Kapi'olani Community College (KCC)

(アメリカ)

① 交流実績(交流の背景)

2016年2月16日に、ハワイ大学 カピオラニ・コミュニティカレッジ (アメリカ) University of Hawai'i Kapi 'olani Community College (KCC)を本学学長が訪問し、学術活動と国際理解を促進する共同プログラムを通じて得られる相互利益の認識に基づき、大学包括協定を締結した。

<交流実績>

2016年2月16日

本学学長が KCC を訪問し、大学間包括協定を締結した。

2018年12月11日

KCC のインターンシッププログラム担当者 2 名が本学を訪問。

日本の学年暦に合わせ、新たに作り直した 2019 年秋学期から始まるインターンシッププログラム(語学条件あり)について説明があり、本学にも参加の意思があれば学生派遣の準備を進めて欲しいとのことであったが、コロナ禍の影響により中断を余儀なくされたため、現時点では学生の派遣実績はない。

2022年4月8日

大学間包括協定を更新

② 交流に向けた準備状況

○ 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。

KCCとは包括協定を締結後に専門分野における提携を模索してきた。本事業の企画に関しては、 UMAPへの参加を含めて、米国内の提携校である KCC にも参加を呼びかけた。

2023 年 2 月のCCID (Community Colleges of International Development) 年次総会に本学副学長が参加した。この理事会では、CCID が UMAP の米国国内事務局を担当することになったことにより、CCID 理事会でも UMAP 参加のメリットが確認された(この際、UMAP 国際事務局および本学副学長がメリットに関わるプレゼンテーションと本事業の概要を説明した)。なお、CCID 理事会メンバーとして参加していた KCC 関係者と年次総会期間中に 2 回にわたって協議をおこなった。

その後、KCC からは観光部門が中心となって本事業へ参画することが確認された。2023 年 3 月に 2 回にわたって、Hospitality and Tourism Education (HOST) 部門の Dave Evans 学科長と協議をおこない、本事業への参画が正式決定された。

<HOST (Hospitality and Tourism Education) について>

HOST は、ACPHA によるアクレディテーションを受けており、①ホスピタリティ・オペレーション・マネジメントと②トラベル&ツーリズム・オペレーション・マネジメントの2つの専門分野を提供している。また、HOSTはハワイに関わる複数の観光協会、Hawaii Lodging and Tourism Association (HLTA)、Hawaii Tourism Association (HTA)、Pacific Asia Travel Association (PATA) などと長年の提携関係にあり、各種の研修の受け入れに当たっては専門的視点からプログラム設計が可能である。

<本事業における KCC・HOST との連携内容>

SSHM 国際協働プログラム推進委員会には、HOST の教員が参加し、共通基盤学習のシュミレーション や COIL 型短期交流研修のコンテンツを共同開発する。また、ハワイでの短期研修、フィールワーク、ボランティアなどについても受け入れ担当として、運営・企画を行う。

相手大学名 (国名)

カリフォルニア州立大学フラトン校

California State University, Fullerton (CSU Fullerton)

(アメリカ)

① 交流実績(交流の背景)

2012年8月に本学国際交流センター長がカリフォルニア州立大学フラトン校を訪問し、先方より交換留学協定の申し出があった。両大学が協議した結果、2012年12月13日に学生交流協定を締結した。その後、カリフォルニア州の法律により、年間100万円程の掛け金を要する保険への加入が求められたため、学生交流協定の更新ができず、2019年に覚書を締結した。

2020年に学生交流協定を再度協議したが、フラトン校担当者の人事異動により、協定締結までには至らなかった。

実績

2022 年度

派遣(学費徴収型) 春学期1名 秋学期1名

② 交流に向けた準備状況

○ 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。

本事業に関わる CSU フラトン校との協議は今年 2 月から 3 回にわたっておこなわれ、本事業の趣旨と 双方の大学の対応する部門を明示することができた。フラトン校はマイノリティー学生数が多いことでしられているが、全米の MSI (Minority Serving Institutions)の中でも、特にピスパニック系の学生が多いことでも知られている。文化的多様性に関しては、フラトン校の Diversity, Inclusion, & Equity Programs がキャン パスにおける多様性のモデルを提示している。本事業では、多様な文化背景を持つ学生、経済的にチャレンジングな状況にある学生に海外協働学習の機会を提供していくことを目標としているため、CSU フラトン校の国際教育部門と連携しながら、学生交流を推進する。

SSHM 国際協働プログラム推進委員会には、フラトン校から、Entertainment and Hospitality Management の部門が参加し、主として観光分野の学生が本学への留学、神戸での短期交流研修に参加する。なお、本学からの滝派遣プログラムのうち、ロスアンゼルスでのプログラムでは、COC、COD、CSUフラトン校が連携したホスト体制をとることで合意している。

相手大学名 (国名)

バンクーバーアイランド大学 Vancouver Island University (VIU) (カナダ)

① 交流実績(交流の背景)

バンクーバーアイランド大学(カナダ)との関わりは、UMAP(アジア太平洋大学交流機構)メンバー校を通じてカナダ所在のBCCIE(British Columbia Council for International Education)の紹介をきっかけとして始まり、令和4年度に本学が代表校として採択された「世界展開力事業~インド太平洋地域等との大学間交流形成支援~」(産学官連携ベンチャー・エコ・システム創成による起業家育成カリキュラムの展開における起業家育成事業)の海外連携大学のひとつとして活発な交流を継続している。

主な交流実績は以下のとおり。

2023年1月

本学学長および国際担当副学長が先方大学を訪問し、大学間包括協定を締結した。今後の交流について協議を行い、主に観光や防災の分野における連携の可能性について合意した。

2023年3月

本学主導で実施した世界展開力事業の「神戸プログラム」に、VIUより2名の学生と1名の教員を招聘いし、プログラムの最終日に開催した「国際学生起業家会議」では他の連携大学からの参加者と共にグループ発表を行った。また、継続して2023年7月に実施する「神戸プログラム」および「国際学生起業家会議」に向けて3名の学生および1名の教員の招聘を現在準備・手配中である。

2023年4月

VIUの Dr. Deborah Saucier 学長および Ms. Carolyn Russel 氏が本学を来訪し、三木市の防災関連施設を視察後、山手キャンパスで学生交流に関する協議および令和 5 年度の世界展開力事業の申請における連携の可能性について、本学学長、国際担当副学長、国際センター長、世界展開力部門長、国際部長と議論を行った。

交換留学実現のために、現在学生交流覚書締結について手続を進めている。なお、本学からの働きかけにより、VIU が UMAP に加盟手続きを行い、加盟に至った。

② 交流に向けた準備状況

○ 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。

本事業に関わる VIU の参加については、2023 年 1 月に本学学長と副学長が VIU を訪問した際に、観光ホスピタリティー分野での協力が方針化され、2023 年 4 月の先方学長の来訪に際しても、より詳細な方針が確認された。 VIU はバンクーバー島の中でもナナイモという観光地に隣接しており、観光資源も豊富なため、フィールドワーク、インターンなどをするのに適している。この点に着目して、両校間で連携を強化するとともに、本事業においては、共通基盤学習、実践型体験学習などで VIU の教員が先導的な役割を果たすことが確認されている。

なお、カナダの大学との学生交流のうち、UMAP を通じて留学を行う場合は、一月に約 2000 カナダドル、4 か月の場合は約 8000 カナダドルが UMAP からの奨学金として支給される。本学との連携においてこうした奨学金の機会を最大限活用していく(持続的なプログラム運営においては重要である)。

相手大学名 (国名)

ウタラマレーシア大学 Universiti Utara Malaysia (UUM) (マレーシア)

① 交流実績(交流の背景)

ウタラマレーシア大学とは、2016年3月3日に大学間包括協定を締結し、2022年1月16日に協定を 更新した。

実績

- ・ACP(Asian Cooperate Program)という質の保証を伴った大学間コンソーシアム)加盟校であり、2014 年から現時点までに計 12 回 ACP 会議に参加している。
- ・2015年から計6回、本学が主催する学生が共に学びあう多国籍プログラムに参加している。
- •2019 年から 2022 年にかけて2名を受け入れ、2020 年から 2022 年にかけてはオンラインにより8名が留学した。

UUM は UMAP のメンバー校であり、学生交流にも積極的に参画してきた。

② 交流に向けた準備状況

○ 交流プログラムの実施に向けた海外相手大学との準備として、大学ごとの役割・実施体制の明確化等が十分なされているか。 UUM は ACP において中核的な役割を担ってきた。特に、UUM は 2016 年に発足して、政府機関や関連する大学と連携して、アジアにおける防災、減災のために科学的アプローチを展開している。

Disaster Management Institute (DMI) focuses its research mainly on three important phases in the disaster management cycles; the pre-disaster phase (preparedness, mitigation and early warning), during disaster phase (response such as evacuation, control room and others) and post-disaster phase (recovery, rehabilitation, reconstruction and development, risk on damaging properties and others). The institute concentrates on high-impact disaster management research by aligning to the university's niche areas through collaborating with related private companies, government agencies, local and international universities. Since the expertise of DMI is providing education by creating awareness and disaster resilience, another niche area for the institute is to educate communities, which include public including business communities, school, non-profit organizations and other interested parties. Hence, for developing the capacity building in the disaster management field, the institute would invite any interested parties to co-organize conference, training, executive courses and other academic activities related to managing disaster.

UUM の DMI は防災手法や環境づくりに関わる専門的な研究と実践で実績があり、SSHM 国際協働プログラム推進委員会においては、防災・防犯部会の中心的な役割を担当する予定である。

なお、UUM は ACP と UMAP の両方に参画する数少ない大学であり、マルチラテラルな学生交流の実績、単位認定スキーム(UCTS)の運用などの面で実績をもつ。こうした経験を本事業でも生かし、他の参加大学のモデルとして提示できるような交流の成果をあげることが期待される。

事業計画の実現性、事業の発展性【①は1ページ以内、②~④は合わせて3ページ以内】

- 補助期間終了後も継続的かつ発展的に質の保証を伴った事業が実施されるよう、将来を見据えた計画となっているか。
- 事業計画の策定に当たり、その妥当性・実現性が具体的に示されているか。
- 国内の大学と連携して申請する場合、国内連携大学においても主体的に事業に参画する計画となっているか。

① 年度別実施計画

【2023年度(申請時の準備状況も記載)】

- 2023 年 11 月 第1回 SSHM 国際協働プログラム推進委員会を開催(年度内の研修に関して協議)
- 2023年12月マイクロクレデンシャルの運用に関わるガイドラインの設定する
- 2024年2月 防災・防犯をテーマとする短期研修(ロスアンゼルス)
- 2024年2月 観光ホスピタリティーをテーマとする短期研修(パームスプリング)
- 2024年3月 観光ホスピタリティーをテーマとする COIL 型短期交流研修(神戸) (全参加大学から各2名の学生を招聘して神戸で実施)
- 2024年3月 観光ホスピタリティーをテーマとする国際学生会議(神戸) <短期研修の最終日に国際学生会議を実施>
- 2024年3月 第2回 SSHM 国際協働プログラム推進委員会を開催

【2024 年度】

- 2024 年秋 第3回 SSHM 国際協働プログラム推進委員会を開催
- 2025年2月 防災・防犯をテーマとする短期研修(ロスアンゼルス)
- 2025年2月 観光ホスピタリティーをテーマとする短期研修(パームスプリング)
- 2025年3月 安全・安心の社会基盤をテーマとする COIL 型短期交流研修(神戸)
- 2025 年 3 月 安全・安心の社会基盤をテーマとする国際学生会議(神戸) <短期研修の最終日に国際学生会議を実施>
- 2025年3月 第4回 SSHM 国際協働プログラム推進委員会を開催

【2025 年度】

- 2025 年秋 第5回 SSHM 国際協働プログラム推進委員会を開催
- 2026年2月 防災・防犯をテーマとする短期研修(ロスアンゼルス)
- 2026年2月 観光ホスピタリティーをテーマとする短期研修(パームスプリング)
- 2026年2月 観光ホスピタリティーをテーマとする COIL 型短期交流研修(神戸)
- 2026年2月 観光ホスピタリティーをテーマとする国際学生会議(神戸) <短期研修の最終日に国際学生会議を実施>
- 2026年2月 第6回 SSHM 国際協働プログラム推進委員会を開催

【2026 年度】

- 2026 年秋 第7回 SSHM 国際協働プログラム推進委員会を開催
- 2027年2月 防災・防犯をテーマとする短期研修(ロスアンゼルス)
- 2027年2月 観光ホスピタリティーをテーマとする短期研修(パームスプリング)
- 2027年3月 安全・安心の社会基盤をテーマとする COIL 型短期交流研修(神戸)
- 2027 年 3 月 安全・安心の社会基盤をテーマとする国際学生会議(神戸) <短期研修の最終日に国際学生会議を実施>
- 2027年3月 第8回 SSHM 国際協働プログラム推進委員会を開催

【2027 年度】

- 2027 年秋 第9回 SSHM 国際協働プログラム推進委員会を開催
- 2028年2月 防災・防犯をテーマとする短期研修(ロスアンゼルス)
- 2028年2月 観光ホスピタリティーをテーマとする短期研修(パームスプリング)
- 2028年2月 観光ホスピタリティーをテーマとする COIL 型短期交流研修(神戸)
- 2028年2月 観光ホスピタリティーをテーマとする国際学生会議(神戸)
 - <短期研修の最終日に国際学生会議を実施>
- 2028 年 2 月 第 10 回 SSHM 国際協働プログラム推進委員会を開催

② 交流プログラムの質の向上のための評価体制

○ 事業の実施、達成状況を評価し、改善を図るための評価体制が整備されているか。

本事業では二つの外部委員会を持ち、プログラム全体の質向上をはかっていく。

- 1) 事業運営アドバイザリー・ボード
- このアドバイザリー・ボードは本事業の進め方において適切な助言を外部から得られるようにするために 設定している。
- ① UMAP を活用した事業運営について複数の有識者から助言をうける。大阪商業大学の谷岡学長は、UMAP が発足した 1991 年の第一回会合 (キャンベラ) に出席した数少ない日本人であり、現在も UMAP 日本国内委員会の副会長として UMAP の主要な会議に出席している。広島大学の堀田泰司教授は UCTS (UMAP Credit Transfer Scheme) ガイドラインの策定者で、策定の基礎となったアジア太平洋地域 13 か国調査を主幹した研究者である。また、UMAP 国際事務局の事務局次長である Randall Martin からも助言を得ていく予定である。
- ② 日米間の学生交流により多くのマイノリティー学生を招聘するために、CULCON(日米文化教育交流 会議)、Diversity Abroad の役員をアドバイザリー・ボードにお招きし。適切な助言をうけていく。
- ③ このほか、プログラム内容に関連するテーマや、COIL 運営に関して専門家の助言を得ることとする。

氏名	所属	アドバイザリー・ボードにおける役割
Randall Martin	UMAP 国際事務局	UMAP 参加大学との連携
Pamela Fields	日米文化教育交流会議	日米間の教育交流促進のための戦略助言
Lily Lopez-McGee	Diversity Abroad	マイノリティー学生への参加を促すための助言
Anthony Al-Jamie	日米姉妹都市協会	北米西海岸、ハワイとの地域交流促進
谷岡一郎	大阪商業大学学長	UMAP 国内委員会副委員長としての政策的助言
堀田泰司	広島大学教授	UMAP 単位互換システム(UCTS)に関する助言
池田佳子	関西大学教授	COIL 運営に関わる専門的知見
笹原顕雄	アジア防災センター所長	地域防災・防犯に関わる教育プログラムの助言
村上昭徳	元大阪府警 警視正	国際防犯に視点からの専門的助言

2) 外部評価委員会

国際教育交流に関わる専門家(学識経験者)、ホスピタリティー分野、安全・安心の社会インフラ分野の専門家などを招聘して事業2年目より外部評価委員会を開催する。

これら二つの委員会によって計画的かつコンプライアンスをともなった事業運営を推進する。

③ 補助期間終了後の事業展開

○ 補助期間終了後も継続的かつ発展的に質の保証を伴った事業が実施されるよう、将来を見据えた計画となっているか。

本事業が、持続的な課題を設定して、SSHM 国際協働プログラムの意義を普遍的な課題に設定しようとするものである。補助期間終了後においても、社会的意義と持続可能性の高いプログラムとして維持できるように、プログラムを設計していく。

- 1) 「安全・安心の社会基盤」「観光ホスピタリティー」という二つの分野は、次世代の人材を育成することが 喫緊の課題であり、大学生のみならず、社会人の学び直し、リスキル、アップスキルが求められている。 このため、事業終了後においても社会人向けのプログラムを中心に有償の個人向け研修、職場研修な どの実現可能性は高い。本事業で蓄積したノウハウを社会人教育や企業研修に生かして持続性のある プログラムに転換していく。
- 2) UMAP,CCID,ACP などの既存の大学ネットワークとの連携をはかり、個々のネットワークの活性化と相乗作用を生み出していく。特に、UMAP は発足以来、英語圏諸国で十分な運用が図られてこなかったが、この 5 年間で、カナダ、オーストラリア、米国が相次いで参加し、教育コンソーシアムとして存在意義が高まっている。本事業の取り組みが UMAP の活性化、アジア太平洋地域の学生交流の促進につながると、にこうすることで本事業そのものの、持続可能性を高めていく。
- 3) マイノリティーの学生が参加するプログラムとして推進していくことで、日本における新しい教育交流のモデルをスタートすることができる。この点は社会的な意義を理解し、賛同者を得ることで一般企業などからの寄付を募ることが可能となる。

④ 補助期間終了後の事業展開に向けた資金計画

○ 資金計画が経費や規模の面で合理的なものであり、自走化に向け、補助金以外に独自資金を確保するような仕組みとなって いるか。

学長のガバナンス機能の充実を図るとともに、グローバル教育に関する機能を強化している。さらに大型資金の獲得実績等に応じた予算配分を行っている。

R5 年度の本世界展開力事業の補助金は従来と異なり、3 年間据え置きの同額、4 年目が 3 分の 2 に減額、5 年目は 3 分の 1 に減額され、自走化への取組が強く求められる構造となっている。そのため、減額に備え、初年度から財源を内部留保し、4 年目、5 年目に備える。 具体的には、初年度は 900 万円、2 年目は 600 万円、3 年目に 800 万円を積み立て、2300 万円の資金を内部留保しておき、4 年目、5 年目の財源に充てていく。

補助期間終了後は、社会人向けの研修プログラムを実施するほか、海外からの留学生の受け入れに関しては、有料のショートプログラム、有料のインターンシッププログラムへと転換を図り、収支均衡を図りながら自走化するプログラムへと転換していく。

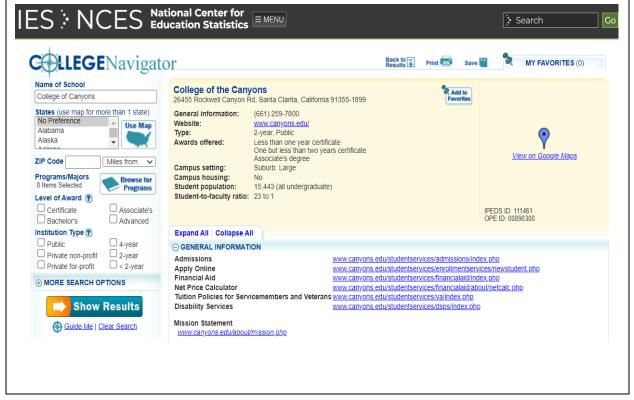
他方、海外へ留学する学生に対する奨学支援については、引き続き、独立行政法人日本学生支援機構 (JASSO)などの奨学支援を積極的に活用するほか、寄附金をはじめとした資金も併せて活用することとしている。なお、JASSO の奨学金については、本学の採択件数はこの規模の大学でも多く(「海外留学支援制度(協定派遣)短期研修・研究型」の採択人数は、R5 年度は127人)あり、今後も同奨学金の戦略的な活用を継続する。また、寄附金については、令和 2 年度から既存の国際交流に係る寄附金に神戸市の「ふるさと納税」制度の利用が可能となったことで、「学びへの支援」として活用する工夫を推進する。

このように、派遣留学および受入留学生に対する奨学金支給の充実を図るだけではなく、競争的資金 を獲得した事業に対する継続的な財政確保も行うこととしており、また、インターンシップ協力企業を中心 としての寄附を働き掛ける等の取組を展開する。これらの取組により、学内外から所要の財源を確保し、 公正な事業評価を経た上で、補助期間終了後も本事業を展開していく。

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①~③合わせて2ページ以内】 ① 交流プログラムを実施する相手大学の概要 カレッジ・オブ・ザ・キャニオンズ (日) 大学名称 国名 アメリカ College of the Canyons (英) 設置形態 公立 設置年 1969年 設置者(学長等) Dean: James Glapa-Grossklag 会計学/行政司法/美術/アスレチックトレーニング・スポーツ医学/生物物理科 学/バイオテクノロジー/ビジネス/経営管理/幼児教育/コンピュータ・情報科学 /コンピューターサイエンス/製図/救急医療技術/工学/工学技術/英語/英語 教育/金融/消防・安全技術/外国語教育/一般教養/保健体育/歴史/ホテル・ 学部等の構成 レストラン経営/人材管理/産業技術/インテリアデザイン/ジャーナリズム/図書 館学/製造技術/マーケティング/数学/医療助手/音楽/音楽教育/看護/品質 管理技術/ラジオ・テレビ放送/ラジオ・テレビ放送技術/不動産/社会科学/水 処理技術/溶接技術 学生数 学部生数 非公表 大学院生数 非公表 総数 18,000 人 受け入れている留学生数 150 人 日本からの留学生数 非公表 海外への派遣学生数 非公表 日本への派遣学生数 非公表 Web サイト (URL) https://www.canyons.edu/

- ② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。 また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。
- 海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアクレディテーション、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等)を受けている大学であるか。

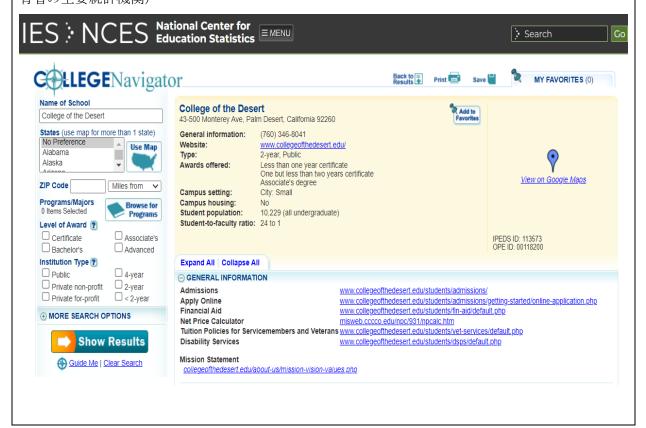
National Center for Education Statistics のポータルから転載(全米教育統計センター(NCES)は、米国教育省の主要統計機関)



③ 申請に当たって、	相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

海外相手大学の概要	【相手:	大学ごとに①~③	合わり	せて2ペー	・ジ以内)		
① 交流プログラムを実	に施する	る相手大学の概要					
 	(日)	カレッジ・オブ・ザ・	デザー	- }	国名		アメリカ
77, 61,	(英)	College of the Des	sert			ŕ	
設置形態		公立(2 年制) 設置年 1958 年				1958年	
設置者(学長等)	SUPE	ERINTENDENT/PRI	ESIDE	NT: MART	HA GAR	CIA, ED.D.	
学部等の構成	童・青 (ECE 理学, /数学	行政/農学植物学//	ニケー 員教育 レスタラ 学/物	ション学/ニ゙/英語/環境 ディーズ/歴 理学/政治	コンピュー 竟科学/明 史学/ジ	-ターサイエ 快画・テレビ・ ャーナリズム	ニンス/幼児教育 電子メディア/地 /キネシオロジー
学生数	総数	10,229 人	学部生	E数 非	公表	大学院生数	非公表
受け入れている留学生数		100人		日本からの	留学生数		非公表
海外への派遣学生数		非公表		日本への派	遣学生数	=	非公表
Web サイト (URL)		http	os://w	ww.collegeo	ofthedese	rt.edu/	

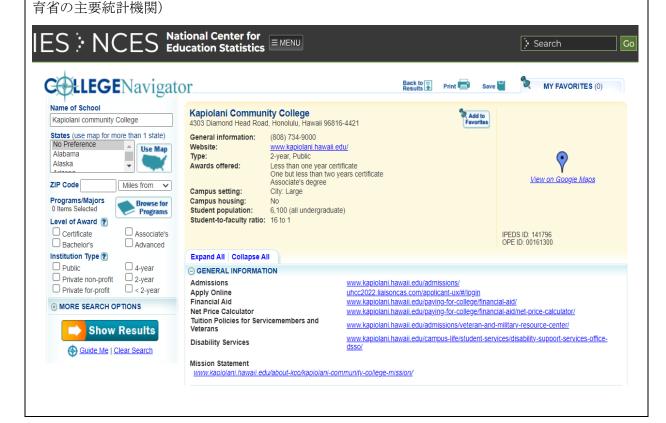
- ② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。 また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。
- 海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアクレディテーション、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等)を受けている大学であるか。
 National Center for Education Statistics のポータルから転載(全米教育統計センター(NCES)は、米国教育省の主要統計機関)



③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してくださ	U,

海外相手大学の概要	【相手》	大学ごとに①~③	合わせ	とて2ペー	ジ以内】	1	
① 交流プログラムを実	ぼ施する	る相手大学の概要					
大学名称	(日)	ハワイ大学カピオーカレッジ University of Hawa Kapi'olani Commu	ai'i		国名		アメリカ
設置形態		公立(2年制)		設置生	F]	1946 年
設置者(学長等)		Chancellor: Louise Pagotto					
学部等の構成	学/料 ル&! メディ /生物	教養/芸術/ビジネス ・理学/製菓/フード レストラン経営/旅行 ・アアーツ/アニメー・ の/技術/企業学/ハリ /看護/作業療法士/	サービ す&観光 ション/ フイ研タ	スマネージ 光業/法律/ インターフ= 院/歯科助目	メント/ス 弁護士和 エース設 E/救急B	トスピタリテ 秘書/法律 計/第二言 医療士/医療	イ&観光業/ホテ 事務職員/ニュー 語/教育/会計学
学生数	総数	6,100 人	学部生	数非么	公表	大学院生数	非公表
受け入れている留学生数		693 人	I	日本からの留	習学生数	;	非公表
海外への派遣学生数		非公表	ŀ	日本への派遣	量学生数	;	非公表
Web サイト(URL)		htt	ps://w	vww.kapiola	ni.hawai	ii.edu/	

- ② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。 また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。
- 海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアクレディテーション、IAU(International Association of Universities) の WHED (World Higher Education Database) 掲載大学であること等)を受けている大学であるか。
 National Center for Education Statistics のポータルから転載(全米教育統計センター(NCES)は、米国教



③ 申請に当たって、	相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

	実施する	る相手大学の概要					
	(日)	カリフォルニア州ゴ	大学:	フラトン校			
大学名称	(英)	California Stat Fullerton	te	University	国名		アメリカ
設置形態		州立		設置名	Į.	-	1957年
設置者(学長等)			Не	ead: Mildred	l García		
学部等の構成	育学/学・宗	学/民俗学・女性学 /工学/言語学・外国 R教学/化学/地学/ フーク/人類学/経済 ス/歴史学	国語/文 物理学	学/リベラル 学/心理学/?	/アーツ/ 犯罪学・3	生命科学/ 安全保障学	数学・統計学/ :/行政学・ソー:
学生数	総数		学部生	数 35,4	00人	大学院生数	5,300 人
受け入れている留学生数		1,680 人		 日本からの旨	留学生数		· 非公開
海外への派遣学生数		非公開		日本への派遣	 貴学生数		 非公開
Web サイト (URL)	https	://www.fullerton.ed	du/				
O 海外相手大学が公的な認 Association of Universities)の AU WHED のポータル	: なるデ ^{製可等(海外} ^D WHED (から転載	ータや資料等を貼 N相手大学の所在国にお World Higher Education [載(IAU WHED はコ	付して ける適I Database エネスコ	てください。 Eな評価団体か) 掲載大学で uと協力して	、らのアク! あること等 、高等教	レディテーショ シ)を受けてい 育システム	る大学であるか。 、196 の国と地均
また、その根拠と 海外相手大学が公的な認 Association of Universities)の AU WHED のポータル の資格および 20,000 を 報を提供)	: なるデ ^{製可等(海外} ^D WHED (から転載	ータや資料等を貼 N相手大学の所在国にお World Higher Education [載(IAU WHED はコ	付して ける適I Database エネスコ	てください。 Eな評価団体か) 掲載大学で uと協力して	、らのアク! あること等 、高等教	レディテーシ シを受けてい 育システム (HEI) に関っ	る大学であるか。 、196 の国と地対 する信頼できる a State University-Fullert
また、その根拠と Association of Universities)の AU WHED のポータル の資格および 20,000 を報を提供)	: なるデ ^{製可等(海外} ^D WHED (から転載	ータや資料等を貼 N相手大学の所在国にお World Higher Education [載(IAU WHED はコ	付して ける適I Database エネスコ	てください。 Eな評価団体か) 掲載大学で uと協力して	、らのアク! あること等 、高等教	レディテーシ: うを受けてい 育システム (HEI) に関っ California	る大学であるか。 、196 の国と地対 する信頼できる a State University-Fullert
また、その根拠と 海外相手大学が公的な認 Association of Universities)の AU WHED のポータル の資格および 20,000 報を提供)	: なるデ ^{製可等(海外} ^D WHED (から転載	ータや資料等を貼 N相手大学の所在国にお World Higher Education [載(IAU WHED はコ	付して ける適I Database エネスコ	てください。 Eな評価団体か) 掲載大学で uと協力して	、らのアク! あること等 、高等教	レディテーシ: うを受けてい 育システム (HEI) に関っ California	る大学であるか。 、196 の国と地対 する信頼できる a State University-Fullert (CS)
また、その根拠と 海外相手大学が公的な認 Association of Universities)の AU WHED のポータル の資格および 20,000 報を提供)	: なるデ ^{製可等(海外} ^D WHED (から転載	ータや資料等を貼 N相手大学の所在国にお World Higher Education [載(IAU WHED はコ	付して ける適I Database エネスコ	てください。 Eな評価団体か) 掲載大学で uと協力して	、らのアク! あること等 、高等教	レディテーシ: うを受けてい 育システム (HEI) に関っ California	る大学であるか。 、196 の国と地対 する信頼できる a State University-Fullert (CS)
また、その根拠と 海外相手大学が公的な認 Association of Universities)の AU WHED のポータル の資格および 20,000 報を提供)	: なるデ R可等(海タ D WHED (から転載 を超える	ータや資料等を貼 N相手大学の所在国にお World Higher Education [載(IAU WHED はコ	付して ける適I Database エネスコ	てください。 Eな評価団体か) 掲載大学で uと協力して	、らのアク! あること等 、高等教	レディテーシ: うを受けてい 育システム (HEI) に関っ California	る大学であるか。 、196 の国と地対 する信頼できる a State University-Fullert (CS)
また、その根拠と D 海外相手大学が公的な認 Association of Universities)の AU WHED のポータル D 資格および 20,000 に 限を提供) WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHE	: なるデ R可等(海タ D WHED (から転載 を超える	ータや資料等を貼れ相手大学の所在国におWorld Higher Education D	付して ける適I Database エネスコ	てください。 Eな評価団体か) 掲載大学で uと協力して	、らのアク! あること等 、高等教	レディテーシ: うを受けてい 育システム (HEI) に関っ California	る大学であるか。 、196 の国と地対 する信頼できる a State University-Fullert (CS) ited States of America - Californ (General Information
また、その根拠と D 海外相手大学が公的な認 Association of Universities)の AU WHED のポータル D 資格および 20,000 に 限を提供) WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHEEL WHE	になるデ R可等(海タ D WHED (から転遣 を超える Structure Post C Wission Viejo off Car	ータや資料等を貼れ相手大学の所在国におWorld Higher Education D	付して ける適I Database エネスコ	てください。 Eな評価団体か) 掲載大学で uと協力して	、らのアク! あること等 、高等教	レディテーシ: うを受けてい 育システム (HEI) に関っ California	る大学であるか。 、196 の国と地対 する信頼できる a State University-Fullert (CS)
また、その根拠と D 海外相手大学が公的な認 Association of Universities)の AU WHED のポータル の資格および 20,000 を 報を提供) Wife Tables AU-001913 Address Other Sites Institution Funding F History F	になるデ 図可等(海タ D WHED (レカンら転引 を超える Provi Post C Wi Wilssion Viejo off Ca	THE PO BOX 34080 City: Fullerton nce: California ode: 92834-9480 WW: http://www.fullerton.edu umpus Centre	付して ける適I Database エネスニ 承認さ	てください。 E な評価団体か)掲載大学で P と協力して れた高等教	sor 7 (<u>masc</u> と等 、高等教 ・育機関(レディテーシ: (i) を受けてい 育システム (HEI) に関っ California	る大学であるか。 、196 の国と地対 する信頼できる a State University-Fullert (CS) ited States of America - Californ (General Information
また、その根拠と D 海外相手大学が公的な認 Association of Universities)の AU WHED のポータル の資格および 20,000 を 報を提供) WHED Wild Wild Wild Wild Wild Wild Wild Wild	になるデ 図可等(海タ D WHED (から転引 を超える Provi Post C Wi Wilssion Viejo off-Ca Public Founded 1957 as th	中夕や資料等を貼れ相手大学の所在国におWorld Higher Education D 載(IAU WHED はコンムでは、IAU WHED はコンムでは、IC認定または、IC認定または、IC認定または、ICIのでは、Fullerton nce: California ode: 92834-9480 MW: http://www.fullerton.edu umpus Centre	付して ける適I Database エネスニ 承認さ	てください。 Eな評価団体から)掲載大学では なお力して、 れた高等教	soのアク あること等 、高等教 ・育機関(レディテーシ: (i) を受けてい 育システム (HEI) に関っ California	る大学であるか。 、196 の国と地対 する信頼できる a State University-Fullert (CS) ited States of America - Californ (General Information
また、その根拠と D 海外相手大学が公的な認 Association of Universities)の AU WHED のポータル の資格および 20,000 に 報を提供) Web Autor 20,000 に ないます。 When Autor 20,000 に ないます。 When Autor 20,000 に ないます。 When Autor 20,000 に ないます。 When Autor 20,000 に ないます。 When Autor 20,000 に ないます。 When Autor 20,000 に ないます。 When Autor 20,000 に ないます。 When Autor 20,000 に ないます。 When Autor 20,000 に ないます。 When Autor 20,000 に ないます。 When Autor 20,000 に	はるデ 関可等(海タ D WHED(レカンら転引 を超える を超える Wission Viejo off-Ca Public Founded 1957 as th August to June (Aug Graduation from hig	THE PO BOX 34080 City: Fullerton nce: California ode: 92834-9480 WW: http://www.fullerton.edu umpus Centre	付して ける適I Database エネスニ 承認さ	てください。 Eな評価団体から)掲載大学では なお力して、 れた高等教	soのアク あること等 、高等教 ・育機関(レディテーシ: (i) を受けてい 育システム (HEI) に関っ California	る大学であるか。 、196 の国と地対 する信頼できる a State University-Fullert (CS) ited States of America - Californ (General Information
また、その根拠と D 海外相手大学が公的な認 Association of Universities)の AU WHED のポータル の資格および 20,000 を 報を提供) Weight Harbert Control (1985) を Weight Harbert Control (1985) を Institution Funding For Academic Year Admission Requirements (1985) を Language(s) を	になるデ 取可等(海タ D WHED (レカンら転引 を超える を超える Wilssion Viejo off-Ca Public Founded 1957 as th August to June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for June (August for J	THE PO BOX 34080 City: Fullerton nce: California ode: 92834-9480 WW: http://www.fullerton.edu impus Centre e 12th State College in California. Became part gust-January; January-June) gh school or equivalent, and College Board SAT	付して ける適I Database エネスニ 承認さ	てください。 Eな評価団体から)掲載大学では なお力して、 れた高等教	soのアク あること等 、高等教 ・育機関(レディテーシ: (i) を受けてい 育システム (HEI) に関っ California	る大学であるか。 、196 の国と地対 する信頼できる a State University-Fullert (CS) ited States of America - Californ (General Information
また、その根拠と D 海外相手大学が公的な認 Association of Universities)の AU WHED のポータル の資格および 20,000 に 報を提供) Web Autor 20,000 に ないます。 When Autor 20,000 に ないます。 When Autor 20,000 に ないます。 When Autor 20,000 に ないます。 When Autor 20,000 に ないます。 When Autor 20,000 に ないます。 When Autor 20,000 に ないます。 When Autor 20,000 に ないます。 When Autor 20,000 に ないます。 When Autor 20,000 に ないます。 When Autor 20,000 に ないます。 When Autor 20,000 に	になるデ 限可等(海タ D WHED (レカンら転引 を超える を超える Wilssion Viejo off-Ca Wilssion Viejo off-Ca Wilssion Viejo off-Ca Graduation from high Graduation from high Graduation from high Restern Association	THE PO BOX 34080 City: Fullerton nce: California ode: 92834-9480 WW: http://www.fullerton.edu impus Centre e 12th State College in California. Became part gust-January; January-June) gh school or equivalent, and College Board SAT	付して ける適I Database エネスニ 承認さ	てください。 Eな評価団体から)掲載大学では なお力して、 れた高等教	soのアク あること等 、高等教 ・育機関(レディテーシ: (i) を受けてい 育システム (HEI) に関っ California	る大学であるか。 、196 の国と地対 する信頼できる a State University-Fullert (CS)

③ 申請に当たって、	相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①~③合わせて2ページ以内】 ① 交流プログラムを実施する相手大学の概要 (日) バンクーバーアイランド大学 大学名称 国名 カナダ (英) Vancouver Island University 設置形態 公立 設置年 1969 年 設置者(学長等) Dr. Deborah Saucier 人文学部/教育学部/健康福祉学部/経営学部/理工学部/社会科学部/貿易・ 学部等の構成 応用技術学部 学生数 学部生数 7,036 人 大学院生数 979 人 総数 12,000 人 受け入れている留学生数 日本からの留学生数 1,440 人 101 人 海外への派遣学生数 非公表 日本への派遣学生数 非公表

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。 また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

http://www.viu.ca/

○ 海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアクレディテーション、IAU(International Association of Universities)の WHED(World Higher Education Database)掲載大学であること等)を受けている大学であるか。

IAU WHED のポータルから転載(IAU WHED はユネスコと協力して、高等教育システム、196 の国と地域 の資格、および 20,000 を超える公式に認定または承認された高等教育機関(HEI)に関する信頼できる情 報を提供





Vancouver Island University

IAU-020824

Web サイト (URL)

Canada - British Columbia / Colombie-Britannique

		General Information
		General Information
Address	Street:	900 Fifth Street
	City:	Nanaimo
	Province:	British Columbia
	Post Code:	V9R 5S5
	www:	http://www.viu.ca/
Other Sites	Also campuses in Cowic	han, Parksville - Qualicum, Powell River.
Institution Funding	Public	
History		
History Academic Year	present title 2008. A com region.	ina College. Renamed Malaspina University-College 1989. Acquired prehensive university-college serving the central Vancouver Island ember-December; January-May). Also Summer Session (May-
	present title 2008. A com region. September to May (Septe August)	prehensive university-college serving the central Vancouver Island
Academic Year Admission	present title 2008. A com region. September to May (Septe August) Secondary school certifi min. 550	prehensive university-college serving the central Vancouver Island ember-December; January-May). Also Summer Session (May-
Academic Year Admission Requirements	present title 2008. A com region. September to May (Septe August) Secondary school certifi min. 550	prehensive university-college serving the central Vancouver Island ember-December; January-May). Also Summer Session (Maycate or equivalent. TOEFL test for foreign students with score of
Academic Year Admission Requirements	present title 2008. A com region. September to May (Septe August) Secondary school certifi min. 550 National:	ember-December; January-May). Also Summer Session (May- cate or equivalent. TOEFL test for foreign students with score of Undegraduate:136.51 per semester credit hour; MBA program:
Academic Year Admission Requirements	present title 2008. A com region. September to May (Septe August) Secondary school certifi min. 550 National:	prehensive university-college serving the central Vancouver Island ember-December; January-May). Also Summer Session (Maycate or equivalent. TOEFL test for foreign students with score of Undegraduate:136.51 per semester credit hour; MBA program: 19,632.35 (CAD)
Academic Year Admission Requirements Tuition Fees	present title 2008. A com region. September to May (Septe August) Secondary school certifimin. 550 National: International:	prehensive university-college serving the central Vancouver Island ember-December; January-May). Also Summer Session (Maycate or equivalent. TOEFL test for foreign students with score of Undegraduate:136.51 per semester credit hour; MBA program: 19,632.35 (CAD)

③ 申請に当たって、	相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①~③合わせて2ページ以内】 ① 交流プログラムを実施する相手大学の概要 ウタラマレーシア大学 (日) 大学名称 国名 マレーシア (英) Universiti Utara Malaysia 設置形態 国立 設置年 1984年 Vice-Chancellor: HRH Al Aminul Karim Sultan Sallehuddin Ibni Almarhum 設置者 (学長等) Sultan Badlishah 社会科学/コミュニケーション&メディア研究/社会学/政治学・国際学/地理学/ コンピューターサイエンス/ビジネス&エコノミクス/経済学・計量/経済学/会計 &ファイナンス/ビジネス&マネジメント/芸術&人文科学/言語学/文学/アート 学部等の構成

/パフォーミングアーツ/デザイン/歴史/哲学/神学/物理科学/数学/統計学/ 教育学/心理学/法学 学生数 学部生数 非公表 総数 12,457 人 非公表 大学院生数 受け入れている留学生数 3,700 人 日本からの留学生数 非公表

日本への派遣学生数

非公表 Web サイト (URL) https://www.uum.edu.my/

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。 また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

○ 海外相手大学が公的な認可等(海外相手大学の所在国における適正な評価団体からのアクレディテーション、IAU(International Association of Universities)の WHED(World Higher Education Database)掲載大学であること等)を受けている大学であるか。

IAU WHED のポータルから転載 (IAU WHED はユネスコと協力して、高等教育システム、196 の国と地域 の資格、および 20,000 を超える公式に認定または承認された高等教育機関(HEI)に関する信頼できる情 報を提供



海外への派遣学生数



Northern University of Malaysia Universiti Utara Malaysia (UUM)

非公表

IAU-019960 Malaysia

		General Information
		General Information
Address	City:	Sintok
	Province:	Kedah Darul Aman
	Post Code:	06010
	www:	http://www.uum.edu.my
Institution Funding	Public	
History	Founded 1984 by the Uni	versity Utara Malaysia (Inc.) Order
Academic Year	May to May (May-Octobe	r; November-March; April-May)
Admission Requirements	Malaysian Higher Schoo	Certificate (STPM) or equivalent
Tuition Fees	National:	Undergraduate 550-660 per semester; Graduate 1,200-2,000 per semester (MYR)
Language(s)	Malay;English	
Accrediting Agency	Ministry of Higher Educa	tion; Malaysian Qualifications Agency (MQA)

③ 申請に当たって、	相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

参考データ【国内の大学等1校につき、①~③は枠内に記入。④~⑥はそれぞれ指定ページ以内】 ※人数等の算定に当たっては、原則として「学校基本調査」による定義に基づき記入。

大学等名 関西国際大学

- ① 大学等全体における出身国別の留学生の受入総数(2019 年 5 月 1 日現在)及び各出身国(地
- 域)別の2019年度の留学生受入人数
- ※「留学生」とは、「出入国管理及び難民認定法」別表1に定める「留学」の在留資格を有する者に限る。
- ※「2019年度受入人数」は、2019年4月1日~2020年3月31日の出身国(地域)別受入人数を記入。
- ※「全学生数」には、日本人学生及び外国人留学生を含めた大学等全体の 2019 年 5 月 1 日現在の在籍者数を記る

順位	出身国(地域)	受入総数	2019 年度 受入人数
1	中国	74	36
2	ベトナム	21	1
3	インドネシア	4	9
4	韓国	2	3
5	タイ	1	3
6	カンボジア	1	0
7	シンガポール	1	0
8	ミャンマー	1	0
9	台湾	0	6
10	マレーシア	0	8
その他 (上記10 加国以外)	(主な国名)		
	留学生の受入人数の合計	105	66
	全学生数	2,159	
	留学生比率	4.9%	

② 2019 年度中に留学した日本人学生数及び派遣先大学合計校数

※教育又は研究等を目的として、2019 年度中(2019 年4月1日から 2020 年3月31日まで)に海外の大学等 (海外に所在する日本の大学等の分校は除く。)に留学した日本人学生について記入。

なお、2019年3月31日以前から継続して留学している者は含まない。

順位	派遣先大学の所在国((地域)	ž	派遣先大学名		2019 年度 派遣人数
1	カンボジア			ノートン	/大学	36
2	韓国			東西ナ	7学校	27
3	ベトナム			ダナン	/大学	25
4	韓国			仁徳ナ	7学校	24
5	インドネシア			ガジャマタ	ブ大学	22
6	フィリピン			フィリピン大学さ	2ブ校	17
7	ミャンマー			ヤンゴン	/大学	15
8	アメリカ合衆国		ソルトレー	ークコミュニティカ	レッジ	13
9	アメリカ合衆国			ベルビューカ	レッジ	10
10	フィリピン		フィリ	ピン大学ディリー	マン校	1
その他	(主な国名)		(主な大学名)			
(上記 10 カ国以外)	計	力国	計		校	
	派遣先大学合計校数				10	
	派遣人	数の合計				190

大学等名

関西国際大学

- ③ 大学等全体における外国人教員数(兼務者も含む)(2023年5月1日現在)
- ※「全教員数」には大学等に在籍する日本人教員も含めた全教員数を記入。
- ※「うち専任教員(本務者)数」には教授、准教授、講師、助教、助手の専任の外国人教員の数をそれぞれ記入。 (いずれにも当てはまらない場合には、「助手」に含めること。)

全教員数	外国人教員数						外国人教
	教授	准教授	講師	助教	助手	合計	員の比率
135	4		1	3		8	5.9%
うち専任教員 (本務者)数	4		1	3		8	

大学等名

関西国際大学

- ④ 取組の実績【4ページ以内】
- 英語による授業の実施や留学生との交流、海外の大学と連携して学位取得を目指す交流プログラムの開発等による国際的な 教育環境の構築
- 外国人教員や国際的な教育研究の実績を有する日本人教員の採用や、FD等による国際化への対応のための教員の資質向上 (国際公募、年俸制、テニュアトラック制等の実施・導入を含む。)。
- 英語のできる国際担当職員の配置、語学等に関する職員の研修プログラム等、事務体制の国際化。
- 厳格な成績管理、学生が履修可能な上限単位数の設定、明確なシラバスの活用等による学修課程と出口管理の厳格化等、単位の実質化。
- ●英語による授業の実施に関しては、本学では、国際コミュニケーション学部グローバルコミュニケーション学科において、以下の科目に対し英語による授業を実施してきた。

「異文化理解」、「経済学基礎」、「アジア研究」、「日本研究」、「言語と文化」、「文化人類学」、「日本のポップカルチャー」、「日本文学」、「ビジネスプレゼンテーション」、「ホスピタリティマネジメント」、「航空実務」、「ホテル実務」、「ツーリズム事情 I 」、「ツーリズム事情 II」、「ツアーガイド実務」、「特別研究IV (グローバル歴史)」

また、正課授業を補完する形で、課外講座において英会話講座を開設している。学内のグローバル学修プラザに英語ネイティブの英会話講師を3名配置し、無料でいつでも英会話のレッスンを受講できるよう、予約システムを構築している。特に海外研修に行く学生には、派遣までに英会話能力の向上を図るよう受講を推奨している。

このほか、全ての授業を英語で行う英語トラックの導入について協議を行っている。カリキュラムの作成、担当教員の配置、他学科との連携などを検討しており、2024年9月以降の開設を目指している。

留学生との交流に関しては、日本人学生によるバディ制度があり、留学生の身近な世話から授業支援まで学生が行っている。また、季節ごとに、留学生と日本人学生とを交えた交流会を国際交流課の職員が開催し、日本の伝統文化に親しんでもらう内容を企画している。

海外の大学と連携して学位取得を目指す交流プログラムに関しては、協定大学からの 3 年次転入学生 を積極的に受け入れており、卒業した際には学生はダブルディグリーを得ることができる。今までに 303 人を転入学生として受け入れ、290 人がダブルディグリーとして認定されている。また、本年度より 2 年次転入学コースの開設準備も進めている。

- ●外国人教員や国際的な教育研究の実績を有する日本人教員の採用に関しては、本学では、外務省で政府間交渉の最前線で活躍していた外交官経験者や長年にわたり国際教育の第一人者として政府を代表し、UMAP や UNESCO 等に参画している者および国連での勤務経験者を専任教員として採用している。FD に関しては、教員は年3回のPD(プロフェッショナルデベロップメント)への参加が義務付けられている。また、グローバルスタディ実施に向け、担当教員と学長、国際担当副学長、グローバル教育センター長、学生派遣部門長、国際交流課職員等を交えたプログラム担当者研修会を開催し、プログラムの目的、実施方法、学生に修得させる知識などについて綿密な意見交換を行っている。
- ●英語のできる国際担当職員の配置等に関しては、本学では国際交流課に中国籍の職員2名を配置し、また他の職員は英語で窓口対応業務を遂行できる能力を有しているため、日本語に不安のある外国人留学生に確実に応対できている。また、海外協定校と信頼関係を構築した職員が、協定校の担当者と既存プログラムの実施および新規プログラムの提案等を行っているほか、海外からの学生、教員の受け入れも国際交流課の職員が中心となりサポートに当たっている。

このような国際業務の対応に当たり、本学はより組織的かつ継続的な教育連携の体制構築に努めてい

る。その一つとして、特定非営利法人国際教育交流協議会(JAFSA)が行う各種研修に職員を参加させ、継続的な英語力向上および国際業務に精通した職員を育成してきた。また、2018 年から開始された国際教育夏季研究大会(SIIEJ:Summer Institute on International Education)に教職員を派遣するとともに、共催機関として運営に協力してきた。加えて、世界展開力事業採択校における勤務経験を有する者を専任職員として採用し、大学独自の取組として本学が提唱した東南アジア 6 ヶ国 15 機関が参画する ACP (Asian Cooperative Program) コンソーシアムの運営に携わることによる OJT を通じて、国際的業務のノウハウを会得するようにしている。これらの職員が人事異動により他部署へ異動し、大学全体に国際的業務を遂行できる人材を配置するようにしている。

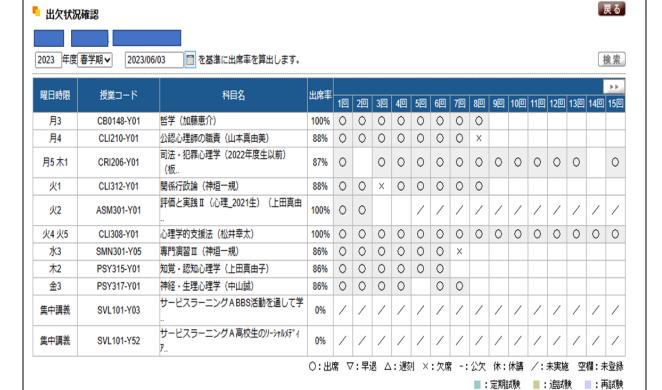
●厳格な成績管理等については、本学では前学期の成績(GPA)に基づき、履修の上限単位数を制限することにより、確実な学修成果を得られるようにしている。 基準については、以下のとおりとなっている。

直前の学期のGPA (夏学期および冬学期をのぞく)	履修登録上限単位数
3.00以上	25単 位
2.50以 上 3.00未 満	24単 位
1.50以 上 2.50未 満	22単 位
1.50未 満	20単 位

※週1回、週2回の授業あり。

- ◆入学後に初めて履修登録を行う際の履修登録単位数の上限を 22 単位と定める。
- ◆復学時の履修単位数の上限は、休学直前の GPA を基準として定める。
- ◆通年科目については、その単位数の2分の1を履修単位数として算入する。

また、厳格な成績管理の一環として、授業回数の3分の1を超えた欠席がある際は、試験受験資格が喪失することを学生に周知している。このため、出欠管理を毎回行い、その結果を本学の教育システムに反映させ、学生自身が全履修科目の出席状況を確認することが出来るようにしている。



科目を履修する前に授業内容を的確に学生に伝えるため、明確なシラバスの作成に心がけている。1科目当たりシラバスに記載する事項は 26 項目におよび、詳細な内容を提供している。特に、学習目標とDPとの関連を記載することにより、学習課程との位置づけを明確にすることにより、学生が履修する際の一助としている。

- 1.授業コード(ナンバリング)
- 2.科目名
- 3.単位数
- 4.授業担当教員
- 5.授業科目の区分
- 6.必修・選択の区分
- 7. 開講学期 年度
- 8.履修可能な専攻
- 9.履修学年
- 10.取得資格の要件
- 11.先修条件
- 12.研究室
- 13.電話番号
- 14.E-Mail Address
- 15.授業形態
- 16.履修制限
- 17.授業の目的と概要
- 18.学習目標とDPとの関連
- 19.教科書·教材
- 20.参考文献
- 21.成績評価
- 22.コメント
- 23.オフィスアワー
- 24.授業回数
- 25.授業内容
- 26.アサインメント(宿題)など

1.授業コード	MNG212- 2.科目名	中小企業論		3.単位数 2		
(ナンパリング)	A01	1.7.17.8488		J.+ 12xx 2		
4.授業担当教員	北村正仁					
5.授業科目の区分	専門科目 (実務経験のある教員 による授業)	6.必修・選択の区分	7.開講学期・ 年度	2022 年度 春学期		
8.履修可能な専攻	経営学科	<u> </u>	9.履修学年	2 年次~		
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	無し(経営学概語	侖の履修済が望ましい)		
12.研究室	*	13.電話番号	*			
14.E-Mail Address	*	15.授業形態		山手 C の合同授業) 申戸山手は遠隔授業)		
16.履修制限	無し					
17.授業の目的と概要	【概要】 皆さんは「中小企業」 実は、日本の企業数の り、中小企業は日本総 を、経営学(マネジン・中小企業とは ・中小企業の環境適向 ・中小企業の資源統名 日本の中小企業の概認	と聞いて、どのようが り99.7%が中小企業で、 経済にとってとても大き メント)の視点から考ま なマネジメント 合マネジメント 品を理解し	なイメージを持ちますが 66.0%の人が中小企業 きな役割を果たしている えながら学修します。	で働いています。つま ます。その中小企業の経営		
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP(ディプロマ・ポリシー)の(1)自律性、(4) 問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです。 ① 日本の中小企業の概況を説明できる。 ② 中小企業経営における社外環境適応マネジメントについて説明できる。 ③ 中小企業経営における社外環境適応マネジメントについて説明できる。 ④ 日本の中小企業の特徴・課題・可能性を説明できる。					
19.教科書・教材	井上善海・木村弘・沖	類戸正則 (編著)『中小	企業経営入門』(第2片	反) 中央経済社 2022 年		
20.参考文献	無し(授業の中で、	必要に応じて紹介します	す)			
21.成績評価	・各部ごとの小テスに対応〉		, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	目標①〜④に対応〉 ×3回)〈学習目標①〜③		

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	・オリエンテーション ・「マネジメント」とは? ・「経営学概論」の振り返り なお、本科目におけるアクティブラーニングの種類 は、各回「ディスカッション/ディベート」になるの で積極的に参加すること。	準備学習:「経営学概論」で学んだことを振り返り、「マネジメント」とはどのようなものなのか、自分なりの考え方をノートに書いてくる。 授業中は、積極的にディスカッションに参加して疑問点を解決する。 復習:その日に学んだ事と感想をノートにまとめる。
【第2回】	第 I 部:中小企業とは 第 1 章:中小企業の特性	準備学習:教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的にディスカッションに参加して疑問点を解決する。 復習:その日に学んだ事と感想をノートにまとめる。
【第3回】	第 I 部:中小企業とは 第 2 章:中小企業の歴史	準備学習:教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的にディスカッションに参加して疑問点を解決する。 復習:その日に学んだ事と感想をノートにまとめる。

なお、学生が修得すべき能力(「計画/実行力」「問題発見力」「意見交換・調整力」「多様性理解」)については、本学独自の「KUISs 学修ベンチマーク」を設定し、ベンチマークのルーブリック(項目の段階的な評価を記述したシート)を用いて成績評価を行うことにより、科目間での成績評価のばらつきをなくし、評価の信頼性を高めるよう取り組んでいる。

これらの学習状況については e ポートフォリオに入力し、学びの記録を記事として投稿したり成長の記録を登録し、後から「ベンチマーク」や「成長確認シート」で振り返ることができる。下図は現在、使われている e ポートフォリオのデモ画面である。

学びの記録を記事として投稿したり、成長の記録を登録し、あとから「ベンチマーク」や「成長確認シート」で振り返ることができます。





大学等名	関西国際大学
⑤ 事業の評価【1	事業ごとに1ページ以内】
該当なし	

大学等名

関西国際大学

⑥ 他の公的資金との重複状況【2ページ以内】

※当該申請大学等において、今回申請している内容以外に、文部科学省が行っている大学改革推進等補助金、研究拠点形成費等補助金等、国際化拠点整備事業費補助金又は独立行政法人日本学術振興会が行っている国際交流事業の補助金等による経費措置を受けている取組がある場合、また、現在申請を予定している取組(大学教育再生加速プログラム等)がある場合は、それらの事業名称及び取組内容について、1事業につき3~4行程度を目安に記入すること。その中で、今回の申請内容と類似しているものがある場合には、その相違点についても言及すること。

また、独立行政法人日本学生支援機構令和5年度海外留学支援制度(協定派遣・協定受入)に選定されたプログラムがある場合には、本事業の申請内容との関連について必ず明記すること。

国際化拠点整備事業費補助金

令和4年度に、世界展開力事業(インド太平洋地域等との大学間交流形成支援)に採択されている。このプログラムは、起業家の育成を主眼としたものであり、今回の申請ではDXの活用能力、データ分析能力を有する観光人材の育成と防災に関する、安全・安心な社会基盤創設のために貢献できる人材の育成を目指しており、重複はしていない。

独立行政法人日本学生支援機構令和5年度海外留学支援制度(協定派遣・協定受入)に選定されたプログラム

①米国のコミュニティ防犯と青少年犯罪を中心とした犯罪に関するフィールドワーク

日本人を含むアジア系の移民が多いワシントン州シアトル市およびその周辺における犯罪抑止、特に、コミュニティ防犯や青少年犯罪抑止について現地実態調査を通じて理解することを主な目的とし、協定校であるベルビューカレッジの協力を得て実施するものである。本プログラムは防災に主眼を置いてあり、また、協力大学も異なり重複はしていない。

②我が国の観光産業のDX化を推進するため、最先端の DX を導入しているホテルでのインターンシップを基軸とする観光人材育成プログラム

中国の都市部(青島)の2か所の近代化されたホテルでインターンシップを行うプログラムであり、アメリカで実施する本プログラムとは重複していない。

そのほかのプログラムとの重複は無い。

補助期間における各経費の明細 [年度ごとに1ページ]

補助金申請ができる経費は、当該事業の遂行に必要な経費であり、本プログラムの目的である大学の世界展開力強化のための使途に限定されます。(令和5年度大学 の世界展開力強化事業公募要領参照。)

(単位:千円)

					(単位:千円)
<2023年度> 経費区分		補助金申請額	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
[物品費]		300		300	
①設備備品費					
•					
②消耗品費		300		300	
・文具		100		100	
・図書購入		200		200	
[人件費・謝金]		2,360		2,360	
D人件費		2,360		2,360	
·嘱託職員 (360千円×6カ月)	- \	2,160		2,160	
・アルバイトスタッフ (70千円×約3か月	引)	200		200	
· ②謝金					
· 長園並					
[旅費]		6,410		6,410	
・学生派遣引率旅費		1,200		1,200	
・留学生引率教員旅費		2,460		2,460	
・シンポジウム講演者旅費		,		·	
・国内出張旅費		50		50	
・海外協力大学訪問旅費		2,700		2,700	
[その他]		20,529		20,529	
①外注費		1,600		1,600	
·HP製作費(一式)		1,600		1,600	
2印刷製本費		500		500	
・広報パンフレット制作		500		500	
3会議費		300		300	
·SSHM運営委員会開催費 (2千円×25名	×2回)	100		100	
・学生ワークショップ開催費		200		200	
④通信運搬費		70		70	
・レターパック代		10		10	
・海外出張に伴うWiFi レンタル料		60		60	
5光熱水料					
·		10.050		10.050	
⑥その他(諸経費) - ※湯労生な悪(*/〒2004円×4月/410	□+ ‹‹‹ 1 ∩ \	18,059		18,059	
·派遣学生旅費(米国300千円×観光10、	防災10)	6,000		6,000	
・派遣学生旅費(インターンシップ、ハワ	7イ300千円×2人)	600		600	
・受入学生旅費 (米国300千円×12人)		3.600		3,600	
・派遣学生の大学負担保険料		49		49	
・インターンシップ運営委託料		1.000		1.000	
·英会話講師委託料(講師派遣約460千円	×6か月)	2.760		2.760	
· 英語資格試験団体受験料	2,0 /1/	2,800		2,800	
・Coilシステム利用料		250		250	
・プログラム運営委託料		1,000		1,000	
2023年度	合計	29,599		29,599	

(大学名: 関西国際大学

(タイプ : A

(①) (②) (①+②) [物品費] 100 100	(前ページの続き)					(単位:千円)
説像情傷品費	<2024年度> 経費区分				(総事業費)	備考
100	[物品費]		100		100	
文具 100 100 人件費・謝金」 6,620 6,820 入人件費 5,020 5,020 特社教員 「東上水イトスタッフ (70千円×約10か月) 4,320 4,320 アルバイトスタッフ (70千円×約10か月) 700 700 外部評価委員辦金 (30千円×10回分) 300 300 事業運営アドバイザリーボード謝金(30千円×10回分) 300 300 コンテンツ制作謝金 1,000 1,000 佐藤賀 1,200 2,460 国内出議院費 2,460 2,460 国内出議院費 300 300 海外協力大学訪問族費 2,700 2,700 との他目 2,700 2,700 と外社費 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300	①設備備品費					
文具 100 100 人件費・謝金」 6,620 6,820 入人件費 5,020 5,020 特社教員 「東上水イトスタッフ (70千円×約10か月) 4,320 4,320 アルバイトスタッフ (70千円×約10か月) 700 700 外部評価委員辦金 (30千円×10回分) 300 300 事業運営アドバイザリーボード謝金(30千円×10回分) 300 300 コンテンツ制作謝金 1,000 1,000 佐藤賀 1,200 2,460 国内出議院費 2,460 2,460 国内出議院費 300 300 海外協力大学訪問族費 2,700 2,700 との他目 2,700 2,700 と外社費 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300 300	· ***		400		400	
(人件費・謝金) 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020						
5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,020 5,						
特任教員 嘱託職員 (360千円×12カ月) 4,320 700 アルバイトスタッフ (70千円×約10か月) 700 700 別商金 1,600 1,600 1,600 1,600 300 事業産営アドバイザリーボード謝金(30千円×10回分) 300 300 300 300 300 300 300 300 300 30						
環託職員 (360千円×12カ月) 7,00 700 700 700 700 700 700 700 700 70			3,020		3,020	
アルバイトスタッフ (70千円×約10か月) 700 700 700 700 700 700 700 700 700 70			4 320		4 320	
外部評価委員謝金 (30千円×10回分) 300 300 300 300 300 300 300 300 300 30])			· ·	
外部評価委員謝金 (30千円×10回分) 300 300 300 300 300 300 300 300 300 30	謝金		1,600		1,600	
1,000 1,000 1,000 1,000 1,000 1,000 1,000 1,000 1,000 1,000 1,000 1,200 1,200 1,200 2,460 2,460 3,000 3,000 3,000 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,700 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,	外部評価委員謝金 (30千円×10回分)					
係費		·円×10回分)			300	
学生派遣引率旅費						
留学生引率教員旅費 2,460 300 300 300 300 300 2,770 2,700 [その他] 20,620 2,779 23,399 20,620 2,779 23,399 20,620 2,779 23,399 20,620 2,779 23,399 20,626 20,779 23,399 20,626 20,779 23,399 20,626 20,779 23,399 20,626 20,779 23,399 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,626 20,62						
国内出張旅費 海外協力大学訪問旅費 (その他) (子の他) (子の他) (力・注費 (の			,		,	
海外協力大学訪問旅費 2,700 2,700 2,700 [その他] 20,620 2,779 23,399 23,399 20,520 2,779 23,399 23,399 23,399 20,520 2,779 23,399 23,399 20,520 2,779 23,399 20,520 200 200 200 200 200 200 200 200 200						
その他 20,620						
のか注費				2 770	-,	
プロ			20,620	2,779	23,399	
広報パンフレット制作 300 300 SSHM運営委員会開催費(2干円×25名×2回) 学生ワークショップ開催費 300 D通信運搬費 70 D通信運搬費 70 D多ーパック代 海外出張に伴うWiFi レンタル料 300 D・光熱水料 D・その他(諸経費) 派遣学生旅費(米国300千円×観光10、防災10、成績優秀者00千円+宿泊費100千円×2名) 派遣学生旅費(インターンシップ、ハワイ300千円×2人) の受入学生旅費(米国300千円×12人) の表達学生の大学負担保険料 JVキャンパス登録用コンテンツ翻訳料 インターンシップ運営委託料 221 779 1,000 英会話講師委託料(講師派遣約460千円×12か月) 英会話講師委託料(講師派遣約460千円×12か月) 英会話講師委託料(講師派遣約460千円×12か月) 英会話講師委託料(講師派遣約460千円×12か月) 英会話講師委託料(講師派遣約460千円×12か月) カラの ブログラム運営委託料 500 1,000 1,000						
広報パンフレット制作 300 300 SSHM運営委員会開催費(2干円×25名×2回) 学生ワークショップ開催費 300 D通信運搬費 70 D返信運搬費 70 D返信運搬費 70 Dimension	2)印刷製本費		300		300	
300 300 100 100 100 100 100 100 100 100						
SSHM運営委員会開催費 (2千円×25名×2回) 100 200 200 200 200 200 200 200 200 200						
学生ワークショップ開催費200200通信運搬費7070レターパック代1010海外出張に伴うWiFi レンタル料6060多その他(諸経費)19,9502,77922,729派遣学生旅費(米国300千円×観光10、防災10、成績優秀者00千円+宿泊費100千円×2名)6,8006,800派遣学生旅費(インターンシップ、ハワイ300千円×2人)600600受入学生旅費(米国300千円×12人)3,6003,600派遣学生の大学負担保険料4949リバキャンパス登録用コンテンツ翻訳料2,0002,000インターンシップ運営委託料2217791,000英会話講師委託料(講師派遣約460千円×12か月)5,5005,500英語資格試験団体受験料1,6801,680Coilシステム利用料500500プログラム運営委託料1,0001,000	②会議費		300		300	
D通信運搬費7070レターパック代1010海外出張に伴うWiFi レンタル料6060ジ光熱水料19,9502,77922,729派遣学生旅費(米国300千円×観光10、防災10、成績優秀者00千円+宿泊費100千円×2名)6,8006,800デ遣学生旅費(米国300千円×12人)3,6003,600受入学生旅費(米国300千円×12人)3,6003,600デ遣学生の大学負担保険料4949リバキャンパス登録用コンテンツ翻訳料2,0002,000インターンシップ運営委託料2217791,000英会話講師委託料(講師派遣約460千円×12か月)5,5005,500英語資格試験団体受験料1,6801,680Coilシステム利用料5001,000プログラム運営委託料1,0001,000	·SSHM運営委員会開催費 (2千円×25名×	2回)	100		100	
10	学生ワークショップ開催費		200		200	
10						
海外出張に伴うWiFi レンタル料 60 60 60 60 60 60 60 60 60 60 60 60 60						
データーの他(諸経費) 19,950 2,779 22,729 派遣学生旅費(米国300千円×観光10、防災10、成績優秀者 00千円+宿泊費100千円×2名) 6,800 6,800 600 3,600 3,600 3,600 3,600 3,600 3,600 3,600 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49						
3その他(諸経費) 19,950 2,779 22,729 派遣学生旅費(米国300千円×観光10、防災10、成績優秀者 00千円+宿泊費100千円×2名) 6,800 6,800 600 600 600 600 3,600 3,600 3,600 3,600 3,600 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49	一海外田旅に作りWIFIレンダル科		60		60	
3その他(諸経費) 19,950 2,779 22,729 派遣学生旅費(米国300千円×観光10、防災10、成績優秀者 00千円+宿泊費100千円×2名) 6,800 600 600 600 600 9人学生旅費 (米国300千円×12人) 3,600 3,600 3,600 3,600 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49	う 光					
派遣学生旅費(米国300千円×観光10、防災10、成績優秀者 00千円+宿泊費100千円×2名) 派遣学生旅費(インターンシップ、ハワイ300千円×2人) 受入学生旅費 (米国300千円×12人) 派遣学生の大学負担保険料	少プレポペクトイイ					
派遣学生旅費(米国300千円×観光10、防災10、成績優秀者 00千円+宿泊費100千円×2名) 派遣学生旅費(インターンシップ、ハワイ300千円×2人) 受入学生旅費 (米国300千円×12人) 派遣学生の大学負担保険料)その他(諸経費)		19.950	2.779	22.729	
 100十日・14月頁100十日×2右) 派遣学生旅費(インターンシップ、ハワイ300千円×2人) 受入学生旅費 (米国300千円×12人) 派遣学生の大学負担保険料 カンドキャンパス登録用コンテンツ翻訳料 インターンシップ運営委託料 英会話講師委託料(講師派遣約460千円×12か月) 英語資格試験団体受験料 Coilシステム利用料 プログラム運営委託料 1,000 1,000 1,000 1,000 	派遣学生旅費(米国300千円×観光10、防	災10、成績優秀者	·	_,,,,		
受入学生旅費 (米国300千円×12人) 派遣学生の大学負担保険料3,600 493,600 49JVキャンパス登録用コンテンツ翻訳料 インターンシップ運営委託料221 5,500779 5,500英会話講師委託料(講師派遣約460千円×12か月)5,500 1,680 500 1,0001,680 500 1,000Coilシステム利用料 プログラム運営委託料500 		/2007m v 2 l \	·		,	
派遣学生の大学負担保険料4949JVキャンパス登録用コンテンツ翻訳料2,0002,000インターンシップ運営委託料2217791,000英会話講師委託料(講師派遣約460千円×12か月)5,5005,500英語資格試験団体受験料1,6801,680Coilシステム利用料500500プログラム運営委託料1,0001,000		7 300十円×2人)				
JVキャンパス登録用コンテンツ翻訳料2,0002,000インターンシップ運営委託料2217791,000英会話講師委託料(講師派遣約460千円×12か月)5,5005,500英語資格試験団体受験料1,6801,680Coilシステム利用料500500プログラム運営委託料1,0001,000						
インターンシップ運営委託料 221 779 1,000 英会話講師委託料(講師派遣約460千円×12か月) 5,500 5,500 英語資格試験団体受験料 1,680 1,680 Coilシステム利用料 500 500 プログラム運営委託料 1,000 1,000			43	2 000		
英会話講師委託料(講師派遣約460千円×12か月)5,500英語資格試験団体受験料1,680Coilシステム利用料500プログラム運営委託料1,000			221			
英語資格試験団体受験料1,6801,680Coilシステム利用料500500プログラム運営委託料1,0001,000		12か月)				
Coilシステム利用料 500 プログラム運営委託料 1,000						
	·Coilシステム利用料		500			
2024年度 合計 34,000 2,779 36,779	・プログラム運営委託料		1,000		1,000	
	2024年度	合計	34,000	2,779	36,779	

(前ページの続き)					(単位:千円)
		補助金申請額	大学負担額	事業規模	
<2025年度> 経費区分		開助並中間額 (①)	人子貝担領 (②)	(総事業費) (①+②)	備考
[物品費]		100		100	
①設備備品費					
· ②治耗日弗		100		100	
②消耗品費 · 文具		100 100		100 100	
				100	
[人件費·謝金]		6,320		6,320	
①人件費 · 特任教員		5,020		5,020	
・嘱託職員 (360千円×12カ月)		4,320		4,320	
・アルバイトスタッフ (70千円×約10か	月)	700		700	
②謝金	10 T T \ 10 T (1)	1,300		1,300	
・事業運営アドバイザリーボード謝金 (3 ・コンテンツ制作謝金	10十円×10回分)	300 1.000		300 1,000	
・コンテング時間を対立		1,000		1,000	
[旅費]		4,960		4,960	
・学生派遣引率旅費		1,200		1,200	
· 留学生引率教員旅費 · 国内出張旅費		2,460 300		2,460 300	
・海外協力大学訪問旅費 (500千円×2)	()	1,000		1,000	
[その他] ①外注費		22,620	759	23,379	
・					
②印刷製本費		300		300	
・広報パンフレット制作		300		300	
。 ③会議費		300		300	
·SSHM運営委員会開催費 (2千円×25名)	×2回)	100		100	
・学生ワークショップ開催費		200		200	
· ④通信運搬費		50		50	
少週信建版員 ・レターパック代		10		10	
・海外出張に伴うWiFi レンタル料		40		40	
· Cart to the					
⑤光熱水料					
⑥その他(諸経費)		21,970	759	22,729	
·派遣学生旅費(米国300千円×観光10、[防災10、成績優秀者	6.800		6,800	
300千円+宿泊費100千円×2名)		0,000		0,800	
・派遣学生旅費(インターンシップ、ハワ	イ300千円×2人)	600		600	
·受入学生旅費 (米国300千円×12人)		3,600		3,600	
・派遣学生の大学負担保険料		49		49	
・JVキャンパス登録用コンテンツ制作費 ・インターンシップ運営委託料		2,000	750	2,000	
・イフダーフシック連営安託科 ・英会話講師委託料(講師派遣約460千円×	(12か月)	241 5,500	759	1,000 5,500	
· 英語資格試験団体受験料		1,680		1,680	
・Coilシステム利用料		500		500	
・プログラム運営委託料		1,000		1,000	
2025 在 ==	Λ=1	04.000	750	04750	
2025年度	合計	34,000	759	34,759	
(士学名・	関西国際大学			(タイプ :	

(前ページの続き)					(単位:千円)
<2026年度> 経費区分		補助金申請額	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
[物品費]		100		100	
①設備備品費					
②消耗品費		100		100	
· 文具 ·		100		100	
[人件費・謝金]		300	5,020	5,320	
①人件費 ·特任教員			5,020	5,020	
・嘱託職員 (360千円×12カ月) ・アルバイトスタッフ (70千円×約10か)	= \		4,320	4,320	
・アルハイトスダック (70十円へ約10か) ②謝金	1)	300	700	700 300	
· 事業運営アドバイザリーボード謝金 (3 ·	0千円×10回分)	300		300	
[旅費]		4,960		4,960	
・学生派遣引率旅費 ・留学生引率教員旅費		1,200 2,460		1,200 2.460	
・笛子生り率教員旅貨 ・国内出張旅費		2,460		2,460 300	
·海外協力大学訪問旅費 (500千円×2人	.)	1,000		1,000	
[その他]		17,306	4,073	21,379	
①外注費 ·					
②印刷製本費		300		300	
・広報パンフレット制作 ・		300		300	
③会議費		300		300	
· SSHM運営委員会開催費 (2千円×25名>	〈2回)	100		100	
・学生ワークショップ開催費		200		200	
④通信運搬費		50		50	
・レターパック代 ・海外出張に伴うWiFi レンタル料		10 40		10 40	
•		40		40	
5光熱水料					
⑥その他(諸経費)		16,656	4,073	20,729	
·派遣学生旅費(米国300千円×観光10、防災10、成績優秀者300千円+宿泊費100千円×2名)		6,800		6,800	
・派遣学生旅費(インターンシップ、ハワイ300千円×2人)		127	473	600	
·受入学生旅費 (米国300千円×12人)			3,600	3,600	
・派遣学生の大学負担保険料 ・インターンシップ運営委託料		49 1,000		49 1.000	
・イフダーフシック連宮安託科 ・英会話講師委託料(講師派遣約460千円×12か月)		5,500		1,000 5,500	
・英語資格試験団体受験料		1,680		1,680	
·Coilシステム利用料 ·プログラム運営委託料		500 1,000		500 1,000	
2026年度	合計	22,666	9,093	31,759	
(大学名:	関西国際大学)	(タイプ :	Α

(前ページの続き)					(単位:千円)
<2027年度> 経費区分		補助金申請額	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
[物品費] ①設備備品費		100		100	
· ②消耗品費 · 文具		100 100		100 100	
・ [人件費・謝金] ①人件費		1,100	5,020 5,020	6,120 5,020	
・特任教員 ・嘱託職員 (360千円×12カ月) ・アルバイトスタッフ (70千円×約10か	月)		4,320 700	4,320 700	
②謝金 ・外部評価委員謝金 ・事業運営アドバイザリーボード謝金 (3	0千円×10回分)	1,100 300 300	, , ,	1,100 300 300	
・シンポジウム講演者謝金 (50千円×10 [旅費] ・学生派遣引率旅費 ・留学生引率教員旅費 ・シンポジウム講演者旅費 ・国内出張旅費 ・海外協力大学訪問旅費 (500千円×2)		500	5,260 1,200 2,460 300 300 1,000	500 5,260 1,200 2,460 300 300 1,000	
・ [その他] ①外注費		10,133	11,946	22,079	
· ②印刷製本費 ·					
③会議費 ・シンポジウム開催費 ・SSHM運営委員会開催費 (2千円×25名) ・学生ワークショップ開催費	×2回)		800 500 100 200	800 500 100 200	
④通信運搬費 ・レターパック代 ・海外出張に伴うWiFi レンタル料		50 10 40		50 10 40	
· ⑤光熱水料 ·					
⑥その他(諸経費) ・派遣学生旅費 (米国300千円×観光10、 2004年上安泊集1004年×2名)	防災10、成績優秀者	10,083	11,146 6,800	21,229 6,800	
300千円+宿泊費100千円×2名) ・派遣学生旅費(インターンシップ、ハワ ・受入学生旅費 (米国300千円×12人) ・派遣学生の大学負担保険料	イ300千円×2人)		600 3,600 49	600 3,600 49	
・シンポジウム同時通訳料 ・インターンシップ運営委託料 ・英会話講師委託料(講師派遣約460千円× ・英語資格試験団体受験料 ・Coilシステム利用料 ・プログラム運営委託料	〔12か月〕	403 1,000 5,500 1,680 500 1,000	97	500 1,000 5,500 1,680 500 1,000	
2027年度	合計	11,333	22,226	33,559	
(大学名:	関西国際大学)	(タイプ :	A